

# 市原市福増遺跡

—一般県道犬成海士有木線埋蔵文化財調査報告書—

平成11年3月

千葉県土木部  
財団法人 千葉県文化財センター

いち はら し ふく ます  
市 原 市 福 増 遺 跡

—一般県道犬成海土有木線埋蔵文化財調査報告書—



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第366集として、一般県道犬成海土有木線の開発事業に伴って実施した市原市福増遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代早期の礫群、古墳主体部が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成 11年 3月 31日

財団法人千葉県文化財センター  
理事長 中村好成

## 凡　　例

- 1 本書は、千葉県市原土木事務所による一般県道犬成海土有木線道路拡張工事に伴う埋蔵文化財の発掘報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県市原市福増字中ノ台ほかに所在する福増遺跡（遺跡コード219-074）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、主任技師 渡邊高弘、技師 吉野健一が行った。
- 6 発掘調査から報告書刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県市原土木事務所道路建設課、市原市教育委員会の御指導、御協力を頂いた。
- 7 本書で使用した地図は、下記のとおりである。

第2図 市原市市役所発行 1/2,500市原市基本図（平成7年作成）F-6, F-7, G-6, G-7

第3図 国土地理院発行 1/25,000地図 海士有木 NI-54-16-19-1

- 8 本書で使用した図面の方位は、全て座標北である。

- 9 スクリーントーン及び記号の用例は、それぞれ明記してある。

- 10 図中に示した水系高を示す数値の単位は、mで表記した。

- 11 石器属性表凡例

- a 遺存状況 完形と破損品を区別する。破損品はこわれかたを類型化して、横折れと縦折れに分ける。横折れたものは、打面部と尾部の遺存に注目し、打面部付きHと打面部・尾部なしM、及び尾部付きBに3分する。縦折れは背面から見て、左右側縁部の有無を基準として、左側縁付きL、右側縁付きR、及び両側縁なしMとした。
- b 打面 自然面A、平坦（単剥離）B、複剥離C、点状・線状Dに分類し、さらにBはバルブの有無から、バルブなしB1、バルブ付きB2とした。
- c 背面構成 背面を構成する剥離面を最終打面を基準に、最終打面に由来するものをH、これに対応するものをB、背面から見て旧右設打面によるものR、旧左設打面によるものLとした。他に、自然面Nと節理面Cを区別する。なお、剥離面のカウントには頭部調整やハジケによる小剥離は除外した。
- d 数値の単位 長さ、幅、厚さを示す数値の単位は、mmで表記した。

# 本文目次

|                  |    |
|------------------|----|
| 第1章 はじめに         | 1  |
| 第1節 調査の概要        | 1  |
| 1 調査の経緯と経過       | 1  |
| 2 調査の方法          | 1  |
| 第2節 遺跡周辺の環境と調査略史 | 4  |
| 1 遺跡の位置と環境       | 4  |
| 2 調査略史           | 4  |
| 3 層序区分           | 7  |
| 第2章 遺構と遺物        | 9  |
| 第1節 旧石器時代        | 9  |
| 1 概要             | 9  |
| 2 第1地点           | 9  |
| 3 第2地点           | 9  |
| 4 第3地点           | 9  |
| 5 第4地点           | 11 |
| 6 遺構覆土内出土石器      | 16 |
| 第2節 繩文時代         | 22 |
| 1 概要             | 22 |
| 2 遺構             | 22 |
| 3 遺物             | 27 |
| (1) 遺構出土土器       | 27 |
| (2) グリッド出土土器     | 27 |
| (3) 石器・石製品       | 34 |
| 4 踊群と石器の分布       | 40 |
| 第3節 古墳時代         | 48 |
| 1 概要             | 48 |
| 2 遺構             | 48 |
| 3 遺物             | 49 |
| 第4節 奈良・平安時代      | 51 |
| 1 概要             | 51 |
| 2 遺構・遺物          | 51 |
| 第5節 中近世          | 53 |
| 1 概要             | 53 |
| 2 遺構             | 53 |

|           |    |
|-----------|----|
| 第3章　まとめ   | 57 |
| 第1節　旧石器時代 | 57 |
| 第2節　縄文時代  | 57 |
| 第3節　古墳時代  | 58 |
| 報告書抄録     | 卷末 |

## 挿図目次

|                          |    |   |    |
|--------------------------|----|---|----|
| 第1図 小グリッド配置図             | 1  | 第23図 縄文土器（6）                                | 31 |
| 第2図 大グリッド配置図と<br>遺跡周辺の地形 | 2  | 第24図 縄文土器（7）                                | 32 |
| 第3図 周辺の遺跡                | 3  | 第25図 縄文土器（8）                                | 33 |
| 第4図 遺構分布図                | 5  | 第26図 縄文時代石器（1）                              | 35 |
| 第5図 旧石器時代<br>遺物出土地点分布図   | 8  | 第27図 縄文時代石器（2）                              | 36 |
| 第6図 第1地点・<br>第2地点遺物分布図   | 10 | 第28図 縄文時代石器（3）                              | 37 |
| 第7図 第2地点出土石器             | 11 | 第29図 縄文時代石器（4）                              | 38 |
| 第8図 第3地点遺物分布図            | 12 | 第30図 縄文時代石器（5）・石製品                          | 39 |
| 第9図 第3地点出土石器（1）          | 13 | 第31図 縄文時代疊群と遺物出土状況<br>(1区)                  | 41 |
| 第10図 第3地点出土石器（2）         | 14 | 第32図 縄文時代疊群と遺物出土状況                          |    |
| 第11図 第3地点出土石器（3）         | 15 | 第33図 縄文時代疊群と遺物出土状況<br>(4区)                  | 44 |
| 第12図 第3地点出土石器（4）         | 16 | 第34図 福増2号墳と検出された遺構                          | 47 |
| 第13図 第4地点遺物分布図           | 17 | 第35図 福増2号墳の周溝（001）                          |    |
| 第14図 第4地点出土石器（1）         | 18 | と主体部（004）                                   | 48 |
| 第15図 第4地点出土石器（2）         | 19 | 第36図 福増2号墳周溝（001）                           | 48 |
| ・遺構覆土内出土石器               |    | 第37図 福増2号墳主体部（004）                          | 49 |
| 第16図 縄文時代遺構（1）           | 23 | 第38図 福増2号墳出土土器                              | 50 |
| 第17図 縄文時代遺構（2）           | 24 | 第39図 福増2号墳出土金属製品                            | 50 |
| 第18図 縄文土器（1）             | 25 | 第40図 奈良・平安時代遺構・遺物（002）                      | 52 |
| 第19図 縄文土器（2）             | 26 | 第41図 中・近世溝状遺構（011）                          | 53 |
| 第20図 縄文土器（3）             | 28 | 第42図 中・近世溝状遺構（014）                          | 54 |
| 第21図 縄文土器（4）             | 29 | 第43図 中・近世溝状遺構、道路状遺構<br>(012, 018, 019, 021) | 55 |
| 第22図 縄文土器（5）             | 30 |   |    |

## 表 目 次

|                   |    |                  |    |
|-------------------|----|------------------|----|
| 第1表 旧石器時代石器属性表（1） | 20 | 第4表 磚重量分布        | 42 |
| 第2表 旧石器時代石器属性表（2） | 21 | 第5表 繩文時代石器属性表（1） | 45 |
| 第3表 旧石器時代石器組成表    | 21 | 第6表 繩文時代石器属性表（2） | 46 |

## 図 版 目 次

|                         |  |                       |  |
|-------------------------|--|-----------------------|--|
| 図版1 第1地点石器出土状況          |  | 図版5 第4地点出土石器          |  |
| 第3地点石器出土状況              |  | 図版6 遺構出土繩文土器          |  |
| 第4地点石器出土状況              |  | 図版7 第1群土器・第2群土器       |  |
| 005・006・007・009・013     |  | 図版8 第3群土器（1）          |  |
| 図版2 015・017・001全景・      |  | 図版9 第3群土器（2）・石鏃       |  |
| 001土層断面・004全景・          |  | 図版10 楔形石器・楔形石器調整剝片・剝片 |  |
| 004遺物出土状況               |  | 図版11 石核・石製品・礫石器       |  |
| 図版3 002・011・012・018・019 |  | 図版12 第4群土器・第5群土器      |  |
| 021・第2地点出土石器            |  | 第6群土器                 |  |
| 図版4 第3地点出土石器・           |  | 図版13 福島2号墳出土遺物        |  |
| 遺構覆土内出土石器               |  |                       |  |

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

一般県道大成海士有木線改良（拡幅）工事に先立ち、千葉県土木部道路建設課から千葉県教育委員会に計画対象地内の埋蔵文化財所在の有無についての照会がなされた。対象地の一部が周知の遺跡に含まれていたため、その取扱いについて協議をした結果、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は2回に分けて実施し、平成8年4月9日～平成8年6月28日に現道の北側の拡幅部分について、対象面積3,561m<sup>2</sup>の確認調査を行った。その結果に基づき、上層遺構として縄文時代早期および晩期最終末の遺物包含層と炉穴群、古墳時代後期の古墳主体部及び周溝、平安時代の溝状遺構が検出された範囲1,100m<sup>2</sup>、下層遺構としては旧石器時代の遺物集中地点4か所、142m<sup>2</sup>について本調査を行った。翌年には現道下に遺構の遺存が予想されたため、道路拡幅部分へ現道の付替え工事が完了した後、平成9年5月1日～平成9年6月30日に南側の現道部分について、対象面積3,000m<sup>2</sup>の確認調査を行った。その結果、道路中央に水道管敷設溝が走っており、遺構の遺存状態は悪かったが、上層遺構として縄文時代の土坑・炉穴群、前年度に本調査した部分と連続する平安時代の溝状遺構、中・近世の道路状遺構・溝状遺構が検出された範囲480m<sup>2</sup>について本調査を実施した。

発掘調査及び整理作業に係る各年度の組織、担当職員及び作業内容は、下記のとおりである。

#### ① 平成8年度

期間：平成8年4月9日～平成8年6月28日

組織：調査部長 西山太郎、南部調査事務所長 高田 博

担当職員：主任技師 田島 新

内容：上層確認調査・本調査、下層確認調査・本調査

#### ② 平成9年度

期間：平成9年5月1日～平成9年6月30日

組織：調査部長 西山太郎、南部調査事務所長 高田 博

担当職員：主任技師 渡邊高弘

内容：上層確認調査・本調査、下層確認調査、水洗注記

#### ③ 平成10年度

期間：平成10年8月1日～平成10年11月30日

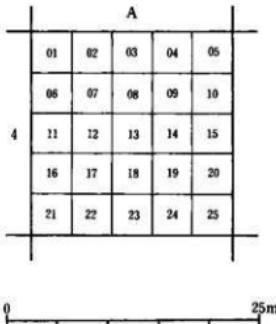
組織：調査部長 沼澤 豊、南部調査事務所 高田 博

担当職員：主任技師 渡邊高弘、技師 吉野健一

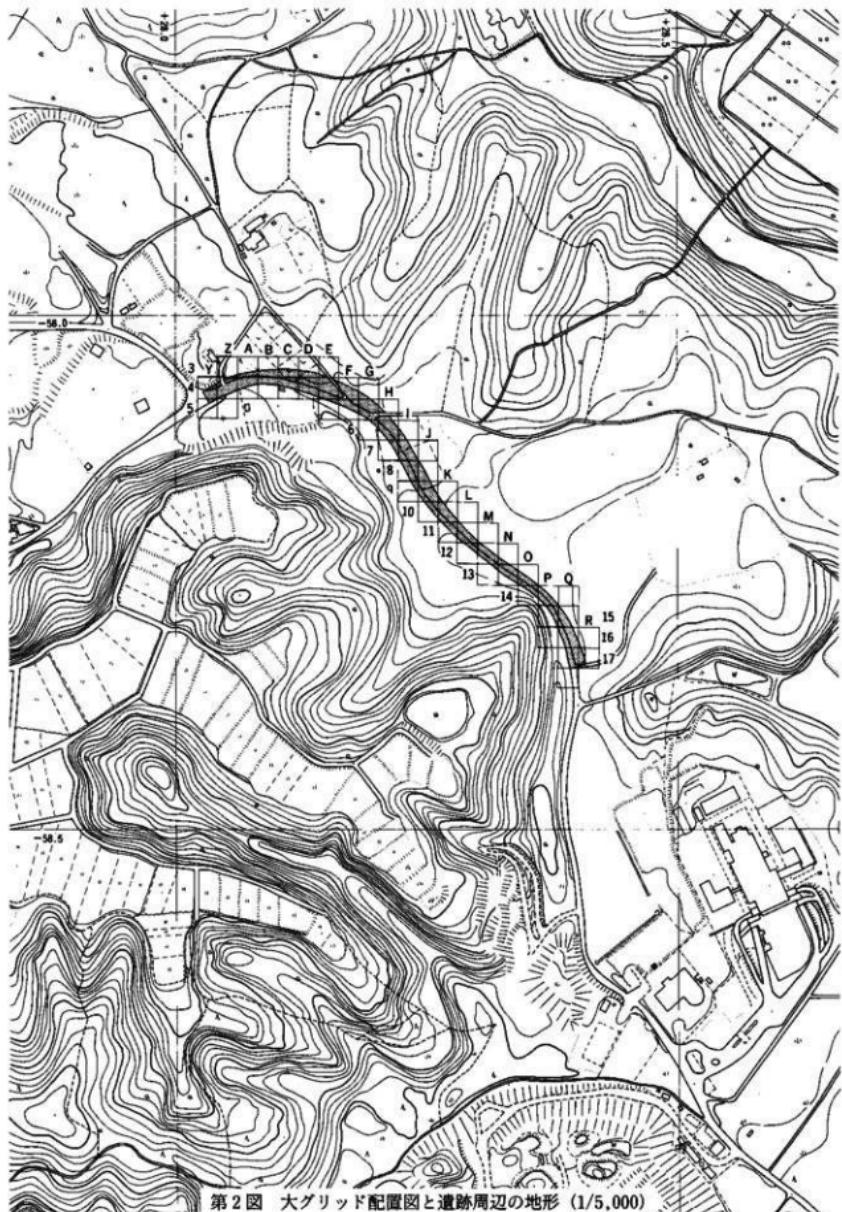
内容：記録整理から原稿執筆、報告書刊行

## 2 調査の方法（第1図、第2図）

発掘調査は、公共座標に基づいて20m四方の大グリッドを設定し、調査区域の北から南に向かって3～18、



第1図 小グリッド配置図



第2図 大グリッド配置図と遺跡周辺の地形 (1/5,000)



第3図 周辺の遺跡 (1/25,000)

西から東にアルファベットの大文字Y、Z、A～Rとし、これを組み合わせて4A、5Gのように大グリッドを呼称した。さらに大グリッドの中を第1図に示したように4m四方の小グリッドに25分割して、北西隅を01とし、そこから東に向かって、02、03、04、05、次の段は06、07、……、最後の段は21、22、23、24、25の番号を付し、これに先の大グリッドの名称を組み合わせて4A-01、5G-02などと呼称した。なお、4Y-01グリッドの北西隅の点の座標は公共座標X=-50.060、Y=28.020に対応する。

上層遺構の確認調査は、約2m幅、長さ約4m～10mトレンチを調査区に沿って任意の位置に配し、調査対象面積の10%を発掘した。下層の確認調査は2m×2mのグリッドを設定し、調査対象面積の4%を発掘した。本調査は確認調査で検出された遺構をトレンチ・グリッドを拡張して、遺構検出面までは重機により表土を除去して行った。遺構は土層観察用のベルトを残して掘り下げた。縄文時代の遺物包含層及び旧石器時代の出土遺物は全点出土地点を記録して取り上げを行った。遺構番号は遺構の種類にかかわらず、検出順に001～021の通し番号を付した。

## 第2節 遺跡周辺の環境と調査略史

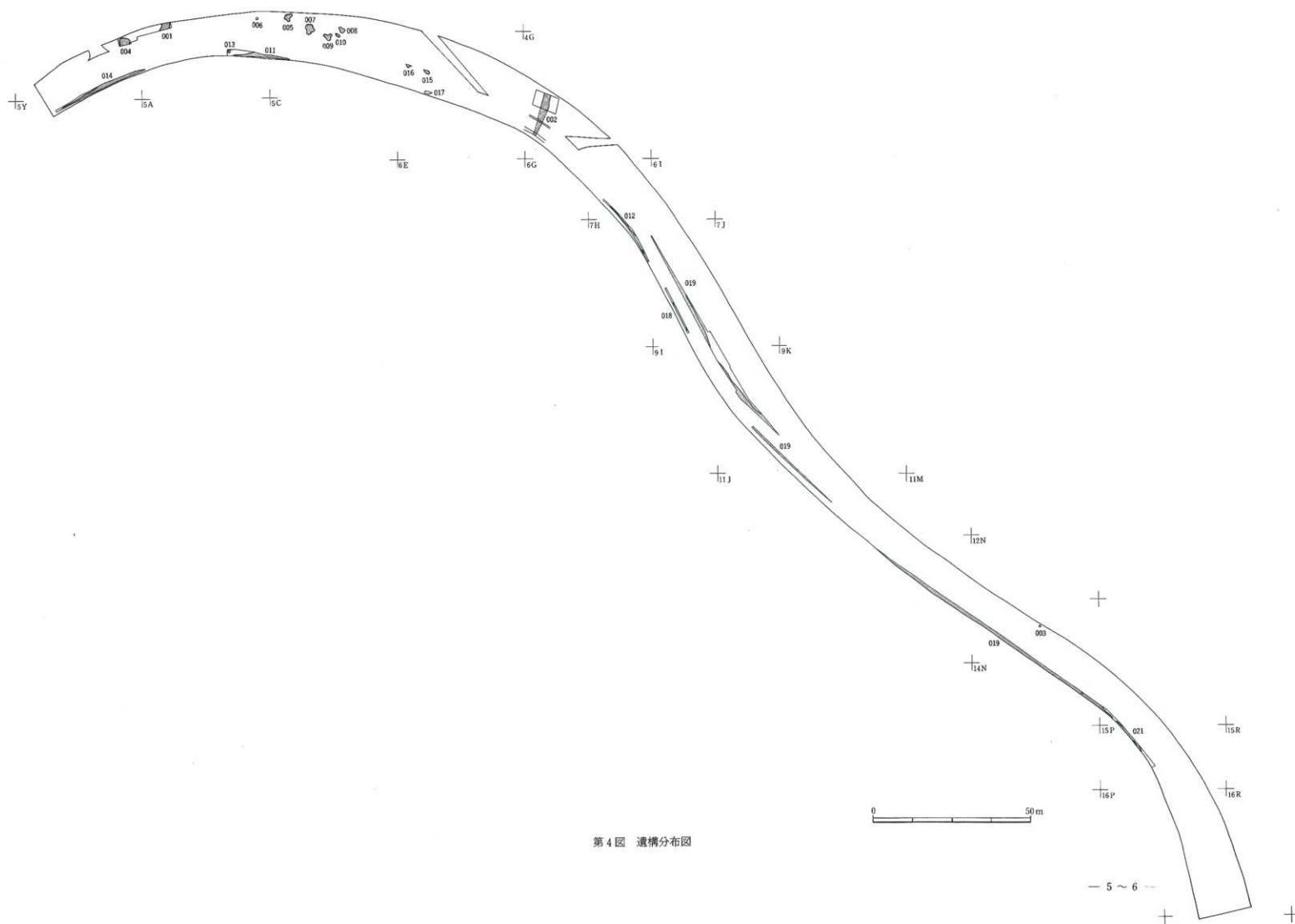
### 1 遺跡の位置と環境（第3図）

福増遺跡が位置する市原市は、房総半島の東京湾側のほぼ中央に位置している。その市域は細長く、東京湾に臨む海浜地域から養老渓谷を有する山間部にまで達している。その中央を全長75kmにも及ぶ養老川が、ほぼ継続するように流れおり、市域はその両岸に形成されているといつてよい。養老川は、上流域では北上しながら房総丘陵を侵食しつつ蛇行して流れるが、下流の平野部に至る手前で大きく西に流路を変える。その屈曲するあたりの右岸に臨む台地には、養老川に向かって数条の支谷が形成されており、今回調査を行った福増遺跡はその支谷に面した標高約75mの台地に位置している。

養老川下流域は、旧石器時代から連綿と遺跡が形成されている<sup>1)</sup>。この地域で特筆すべき遺跡として、隣接する武士遺跡（3）がある<sup>2)</sup>。武士遺跡は、福増浄水場建設に伴い、当センターによって発掘調査が行われている。縄文時代後期を中心とする大規模な集落跡が検出されているほか、旧石器時代、縄文時代晚期、弥生時代、古代においても頗著な成果が得られている。縄文時代には、西広貝塚を初めとする大型の貝塚が分布している<sup>3)</sup>。福増遺跡の周辺においても、山倉天王台貝塚（8）、山倉分廻貝塚（9）、山倉貝塚（10）、能満分区貝塚といった、中期から後期の貝塚が知られている。弥生時代の遺跡の分布はさほど多くはないが、山田遺跡（8）からは方形周溝墓が検出されている。古墳時代の遺跡の多さには特筆すべきものがあり、人見塚古墳（6）、能満分区遺跡（12）、山倉新林古墳群（18）、山倉八朗作古墳群（19）といった古墳群が養老川あるいは東京湾に面して分布している。古代には、上総國府が置かれ、上総國分寺、國分尼寺などが建立されるなど、上総國の中心として位置付けられるようになる<sup>4)</sup>。福増遺跡周辺においても能満上細工遺跡における官衙跡、千草廃寺跡、武士遺跡における寺跡といった遺跡が知られている。

### 2 調査略史

福増遺跡は、これまでにも、早稲田大学、（財）市原市文化財センターにより発掘調査が行われている。早稲田大学の調査は1967年に中村恵次氏が担当し、福増古墳群の1号墳、2号墳について行われている<sup>5)</sup>。学術目的のトレンチ調査で、それぞれについて横穴式石室が検出されている。（財）市原市文化財センターによる調査では、福増古墳群の3号墳とその周辺を調査している<sup>6)</sup>。3号墳からは主体部は検出されなかっ



たが、縄文時代早期、晚期の遺物包含層や道路状遺構などが検出され、今回の調査で得られた所見に共通する成果があげられている。また、発掘調査ではないが、粕谷馥夫氏により幾度も踏査されており、表面採集による縄文時代晚期の資料が公表されている<sup>9)</sup>。

### 3 層序区分（第6図）

関東ローム層の分層は当センターの基準に従った。

|             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| I層 表土層      | 耕作土もしくは道路建設に伴う客土。                 |
| II層 褐色土層    | 場所によって堆積状況が異なり、一部道路建設に伴って削除されている。 |
| III層 黄褐色土層  | ソフトロームと呼んでいる層である。                 |
| IV層 黄褐色土層   | ハードロームと呼んでいる層の上層部である。             |
| V層 暗褐色土層    | 立川ローム層第1黒色帯である。                   |
| VI層 暗黄褐色土層  | AT（始良・Tn火山灰）を含む層である。              |
| VII層 暗黄褐色土層 | VI層より暗い。立川ローム層第2黒色帯の上部層である。       |
| IX層 暗褐色土層   | 第2黒色帯の下部層で、IXa・IXb・IXcの3層に分層される。  |
| X層 暗黄褐色土層   | 立川ローム最下部層。Xa層、Xb層の2層に分層される。       |

これ以下の地層については省略する。

注1 財団法人千葉県文化財センター 1987 『千葉県埋蔵文化財分布地図（3）市原市・君津・長生地区』

2 田村隆ほか 1996 『千葉県文化財センター調査報告第289集 市原市武士遺跡1』 財団法人千葉県文化財センター

3 滝口 宏ほか 1977 『西広貝塚』 上総国分寺遺跡調査団

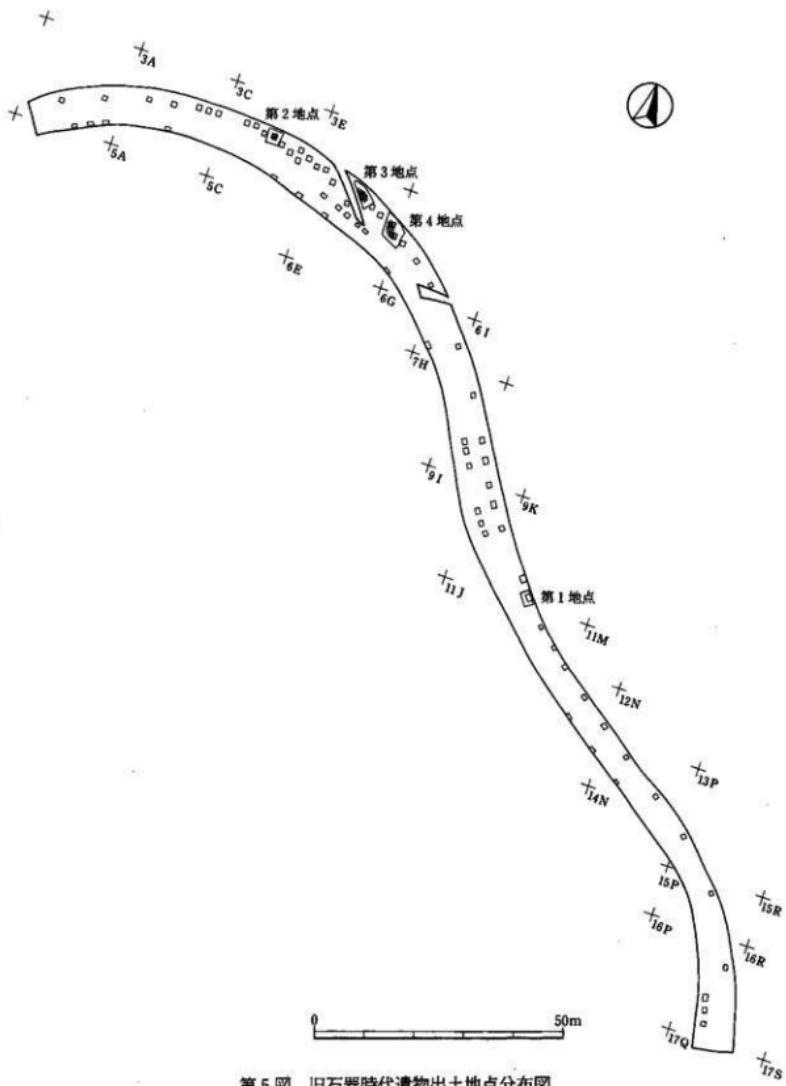
4 滝口 宏 1973 『上総国分寺』 千葉県教育委員会

5 滝口 宏 1970 『上総国分尼寺址調査略報』 上総国分尼寺址調査団

6 中村恵次・安藤鴻基・沼沢豊・滝山昌彦・中司照世 1967 『福増古墳群』 『市原市文化財調査報告書第3冊 市原市周辺地域の調査』 市原市教育委員会

7 田所 真 1985 『池ノ谷遺跡・福増遺跡』 財団法人市原市文化財センター

8 粕谷馥夫 1986 『千葉県市原市山倉ダム東側の縄文遺跡（その3）』 『フィールド考古 足あと』 足あと同人会



第5図 旧石器時代遺物出土地点分布図

## 第2章 遺構と遺物

### 第1節 旧石器時代

#### 1 概要 (第5図、第1表、第2表)

確認調査の結果、4か所の遺物出土地点が確認された。その中で第1地点のみが単独出土であった。第1地点を除いていずれも調査区の北西部分に集中しており、南西に開口した谷に面する緩斜面に位置している。石器の包含層はIII層～IXa層に及ぶが、最も多く石器が出土しているのは、V層を中心にIV層～VI層中からである。

#### 2 第1地点 (第6図、第1表、図版1)

黒曜石の碎片が単独で出土している。VII層からの出土である。調査区が狭細なため、遺物集中地点の末端のみが調査区にかかっていた可能性もある。

#### 3 第2地点 (第6図、第7図、第1表、第3表、図版3)

6点の石器と4点の礫が出土している。約2m×2mの範囲から遺物が出土しており、VI層を中心にIII層下部からIXa層にかけて分布している。

**器種** 1～3はナイフ形石器である。1は、二側縁調整のものである。右側縁に自然面を残し、基部に主要剝離面側から急角度の調整を施している。縦長の剥片を縦位に用いている。2は小形のナイフ形石器である。二側縁調整で、特に右側縁には主要剝離面側からの急角度の調整が施されている。幅広の剥片を横位に用いている。3はナイフ形石器の先端部であると考えられる。5は削器である。右側縁に主要剝離面側からの調整が施され、刃部を形成している。4は剥片である。

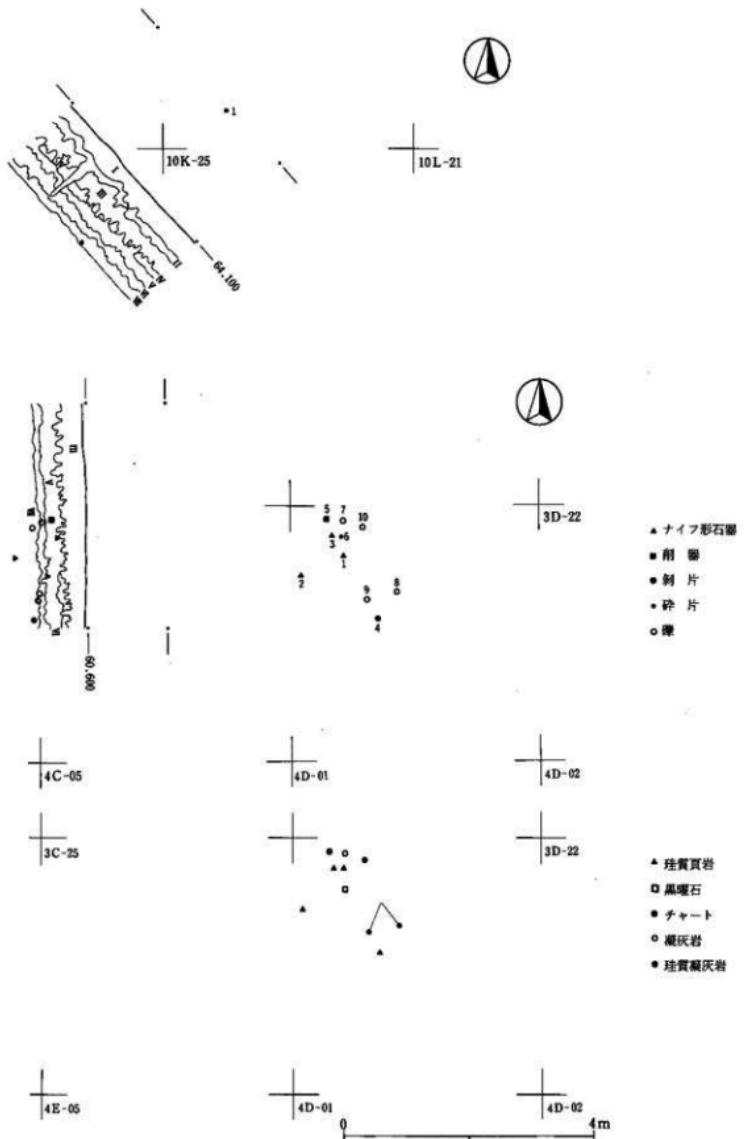
**石材** ナイフ形石器は黒曜石、珪質頁岩が用いられており、それぞれ母岩が異なっている。この中で、珪質頁岩2のみが複数の個体に用いられている。

礫はいずれも被熱している。

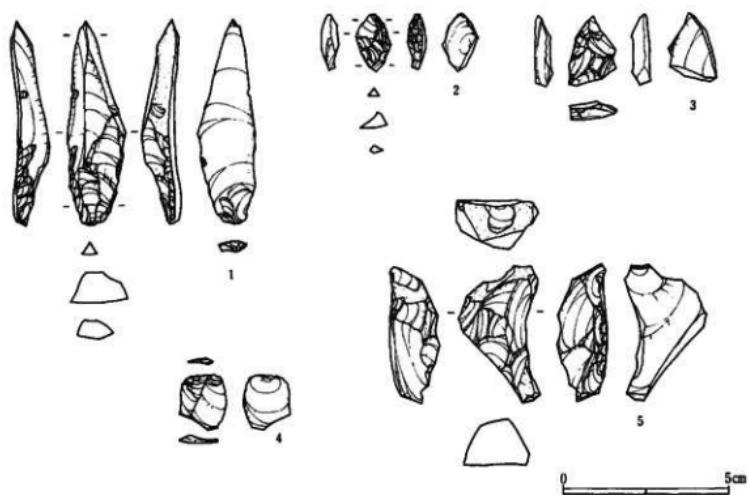
#### 4 第3地点 (第8図～第12図、第1表、第3表、図版1、図版4)

平面分布は、南北約4.5m×東西約4.5mに広がっている。セクション・ラインの南西側は現在の道路により擾乱を受けていたが、この線の付近に遺物が最も集中しているため、南西側にも遺物が広がっているものと推測される。垂直分布は、すべての遺物がIII層中から出土している。II層より上層は道路建設の際に除去されている。

**器種** 1～4はナイフ形石器である。1は二側縁調整のものである。調整が主要剝離面側から施されている。幅広の剥片を横位に用いている。2は、一側縁調整のもので、左側縁辺に微細調整が施されている。幅広の剥片を横位に用いている。3は、ナイフ形石器の先端部であると考えられる。左側縁に主要剝離面側から調整が施されているが、腹面にも剝離が見られる。幅広の剥片を横位に用いている。4は、ナイフ形石器の基部が欠損しているものと考えられ、幅広の剥片を横位に用いている。左側縁辺に微細調整が施されている。5は、削器である。左右両側縁に調整を施し、刃部を作出している。背面に自然面を残し、剥片を横位に用いている。主要剝離面側を打面として幅広の剥片を採取した痕跡が周縁に見られることから、残核を素材としていると考えられる。6はナイフ形石器である。二側縁調整のもので、幅広の剥片を横位に用いている。右側縁は丁寧な調整が施されているのに対し、左側縁は基部にのみわずかに調整が見



第6図 第1地点・第2地点遺物分布図（第1地点：上、第2地点：中、下）



第7図 第2地点出土石器

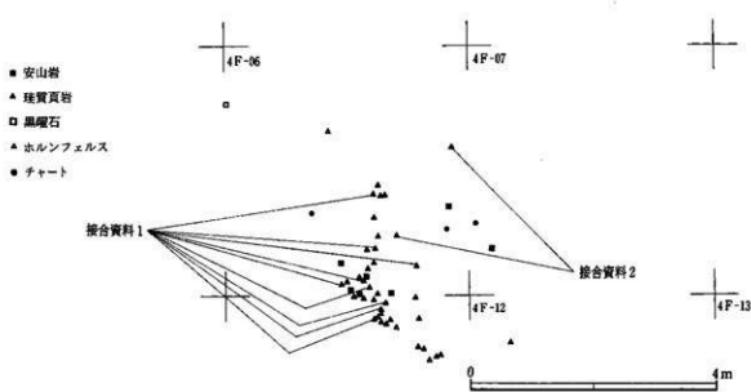
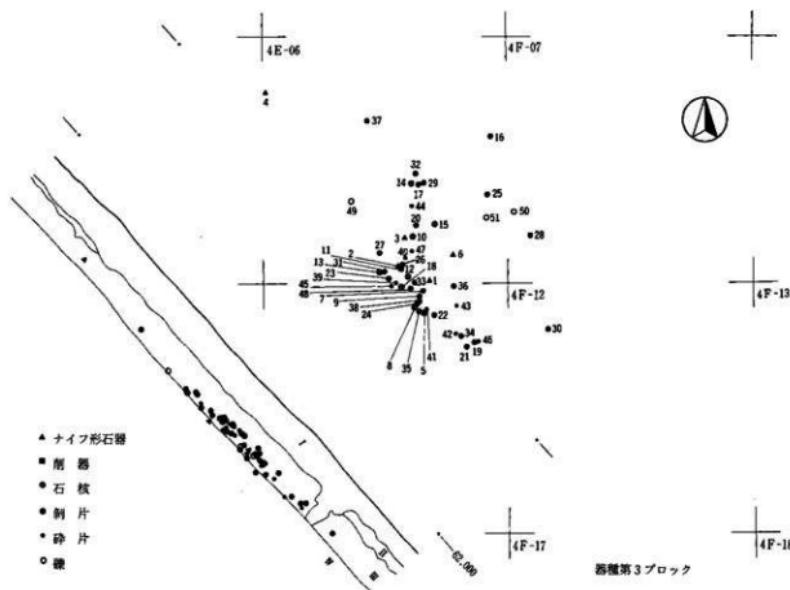
られる。8、10~15、18は石核である。18は、主要剝離面を打面として、素材を回転しながら幅広の剥片を作出している。7、9、16、17、19~25は剥片である。いずれも明確な使用痕や調整は認められない。接合 複合資料1は6~14の接合である。ナイフ形石器が1点、剥片が2点と石核が6点含まれる。素材から、12、10の順に剝離した後、7+8+9+13を含む石核を分離し、ここから9、8、7の順に連続して採取されている。6、11、14の含まれる石核からは、6、11の順に採取されているのがわかる。いずれも打面展開せずに、同一打面から連続して幅広の剥片を採取しようとしている。接合面以外にも楕円状の剝離面が観察されることから、ほかにも剥片が採取されていることが推測される。

接合資料2は、15、16の接合である。自然面を打面とし、連続して剝離を行っている。また、16の剝離痕よりも新しい剝離が隣接することから、16を剝離した後に、15から少なくとも1点以上の剥片を採取している。

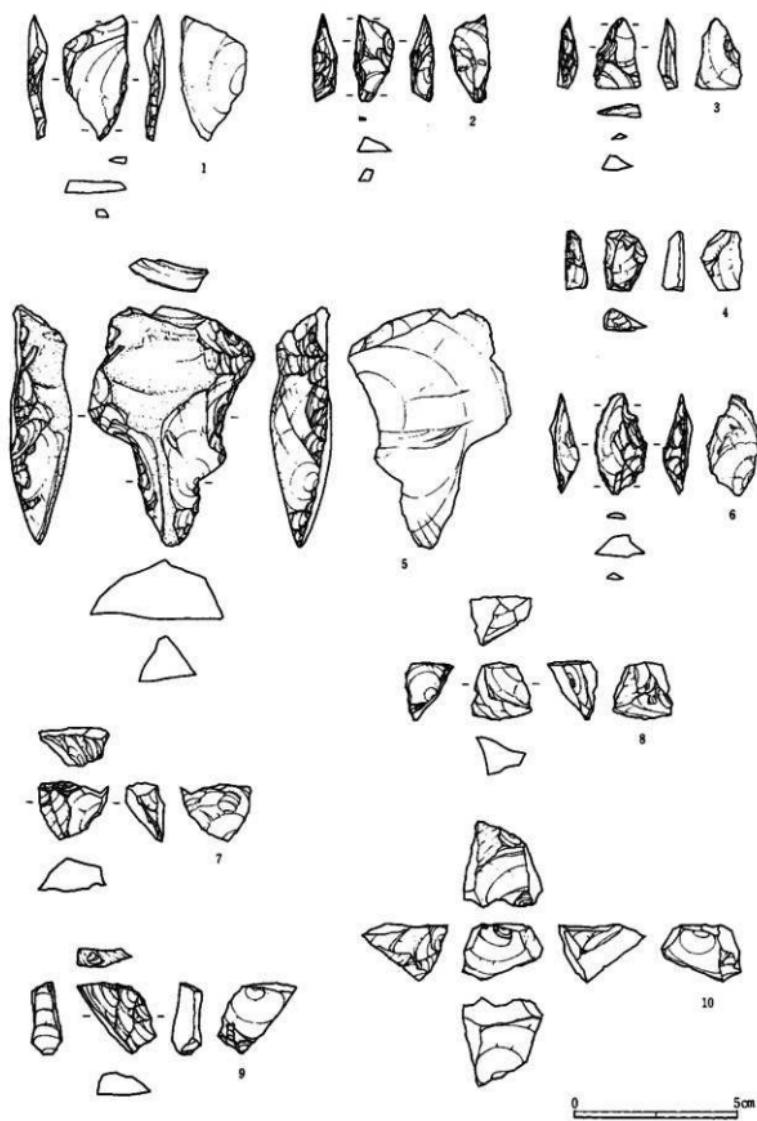
石材 黒曜石、安山岩、ホルンフェルスを含むが、そのほとんどが珪質頁岩である。黒曜石3は、透明度が低く、不純物を含む。古い剝離面は白味を帯びる。珪質頁岩については3~8の6種類に分類できる。その多くが珪質頁岩3で、過半数が接合することができた。その一方で、珪質頁岩4については12点確認できたが、接合することはできなかった。第3ブロックの南西側の部分が道路の搅乱により失われているため、そこに残りの資料が存在していた可能性は否定できない。

##### 5 第4地点(第13図~第15図、第2表、第3表、図版1、図版5)

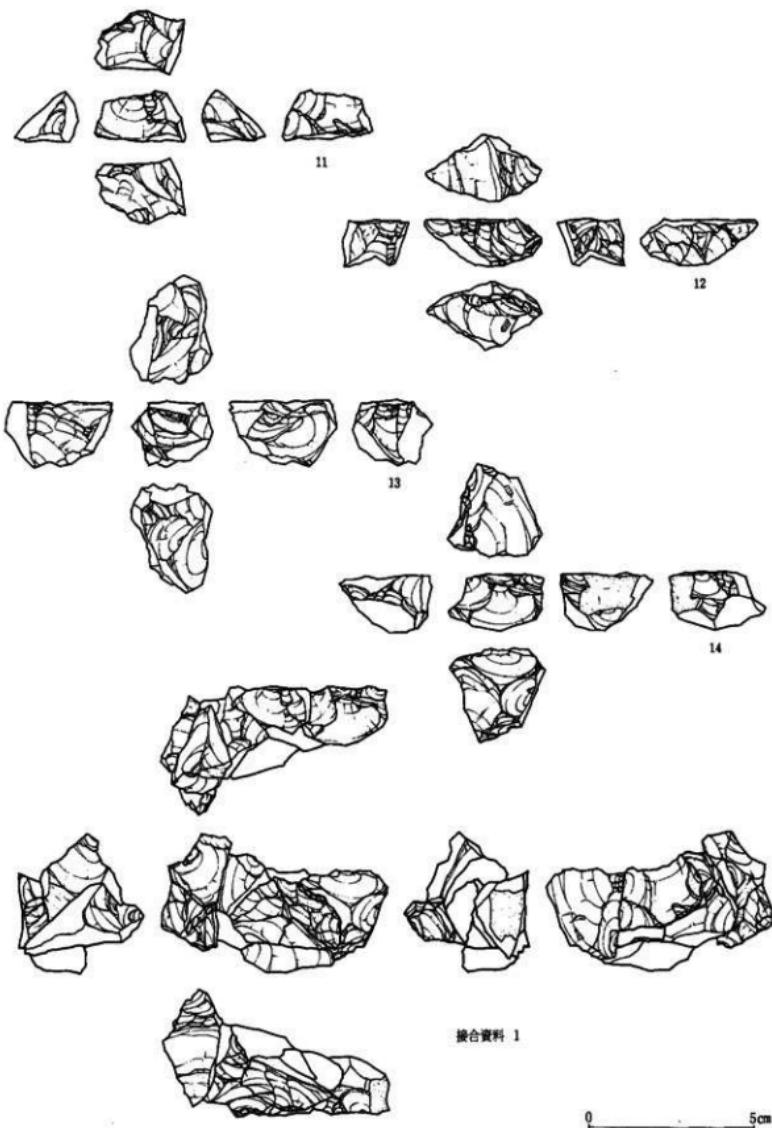
図には、現表土層からの層序を示した。I層と示した部分は後世の客土で、本来のI層からIII層は、削平されていると考えられる。平面分布は、南北4.5m×東西6.5mの範囲に広がっている。中心は南東寄りの3.5m×3.5mの範囲だが、北西側に6点がやや散漫に分布している。垂直分布は、VI層を中心にV層下部からVII層にかけて分布している。



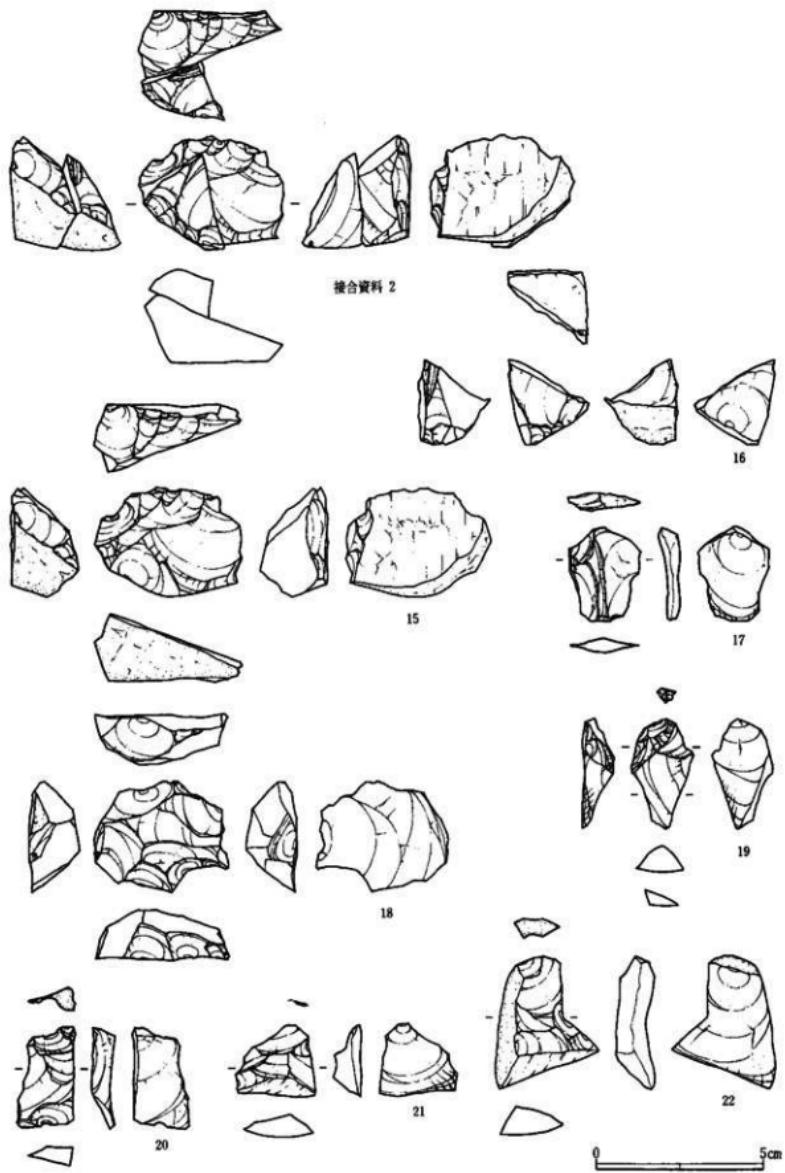
第8図 第3地点遺物分布図



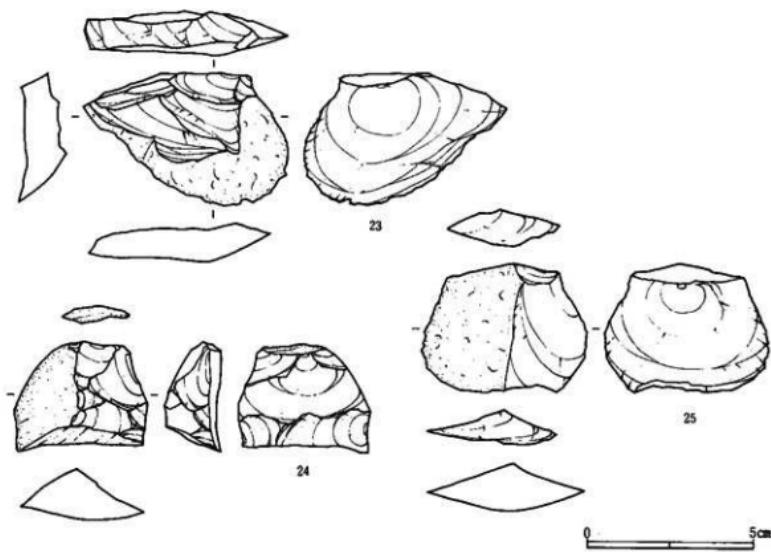
第9図 第3地点出土石器 (1)



第10図 第3地点出土石器 (2)



第11図 第3地点出土石器 (3)



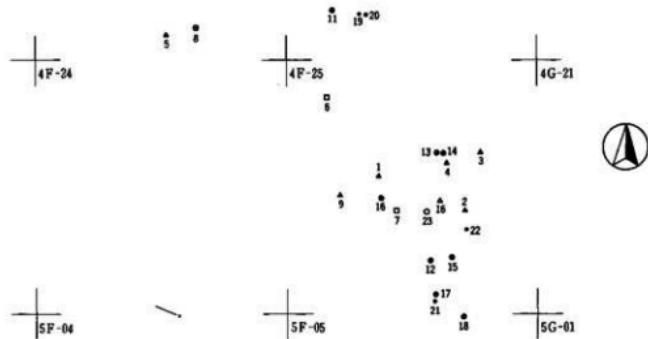
第12図 第3地点出土石器(4)

器種 1～5はナイフ形石器である。1は二側縁調整のものである。縦長の剥片を縦位に使用しており、右側先端部と基部、右側縁を主要剥離面から急角度調整が行われている。また、右側縁には背面側からの微細調整も観察される。2は、先端部が欠損した資料である。二側縁調整のものであると考えられる。縦長の剥片を縦位に用いており、右側縁に主要剥離面側から急角度調整が施されている。3は、二側縁調整のものである。縦長の剥片を縦位に用いており、緩角度調整が施されている。主要剥離面側から両側に調整が行われているが、先端部には背面側からの調整も観察される。4は、部分調整のものである。右側縁の調整は、先端部と基部のみに調整が施されている。縦長の剥片を縦位に使用している。8は石核である。一定方向から連続して剥離が行われているのが観察される。6、7、9～13は剥片である。6、7は微細調整が施された剥片である。6には左側縁に背面から、7は下縁に主要剥離面からそれぞれ調整が施されている。9、10は使用痕が見られる剥片である。13は2点の接合資料である。17は安山岩の原石である。

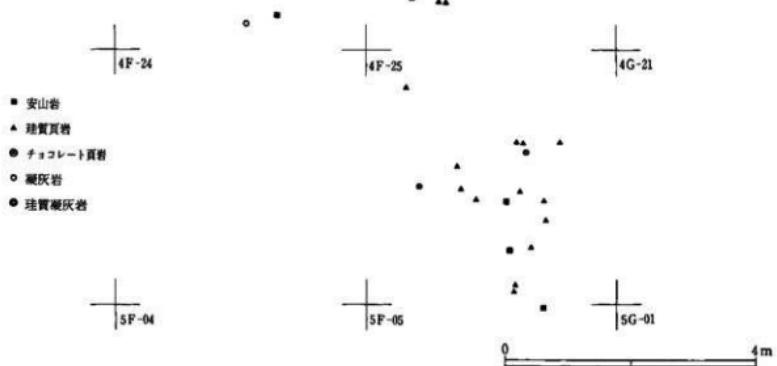
石材 安山岩、凝灰岩を含むが、珪質頁岩が主体である。また、チョコレート頁岩も少量ながら見られる。

#### 6 遺構覆土内出土石器(第15図、第2表、図版4)

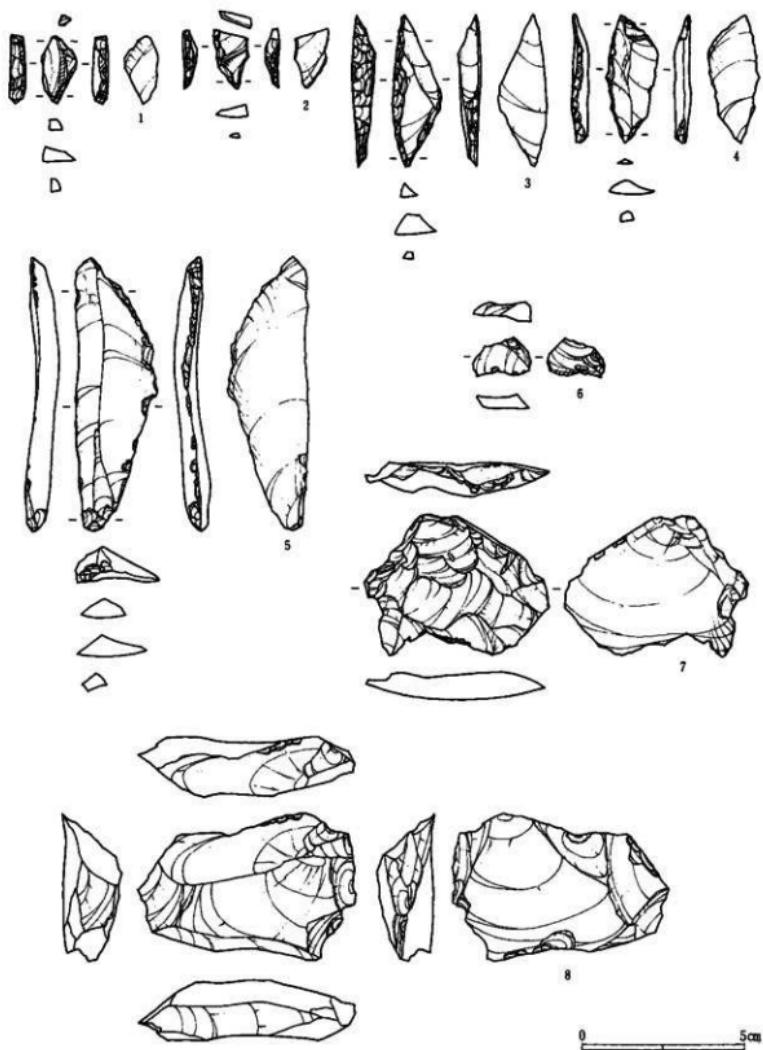
1は、002溝の覆土内から出土した資料である。ナイフ形石器の先端部であると考えられる。左側縁に急角度の調整が施されている。縦長の剥片を縦位に用いている。



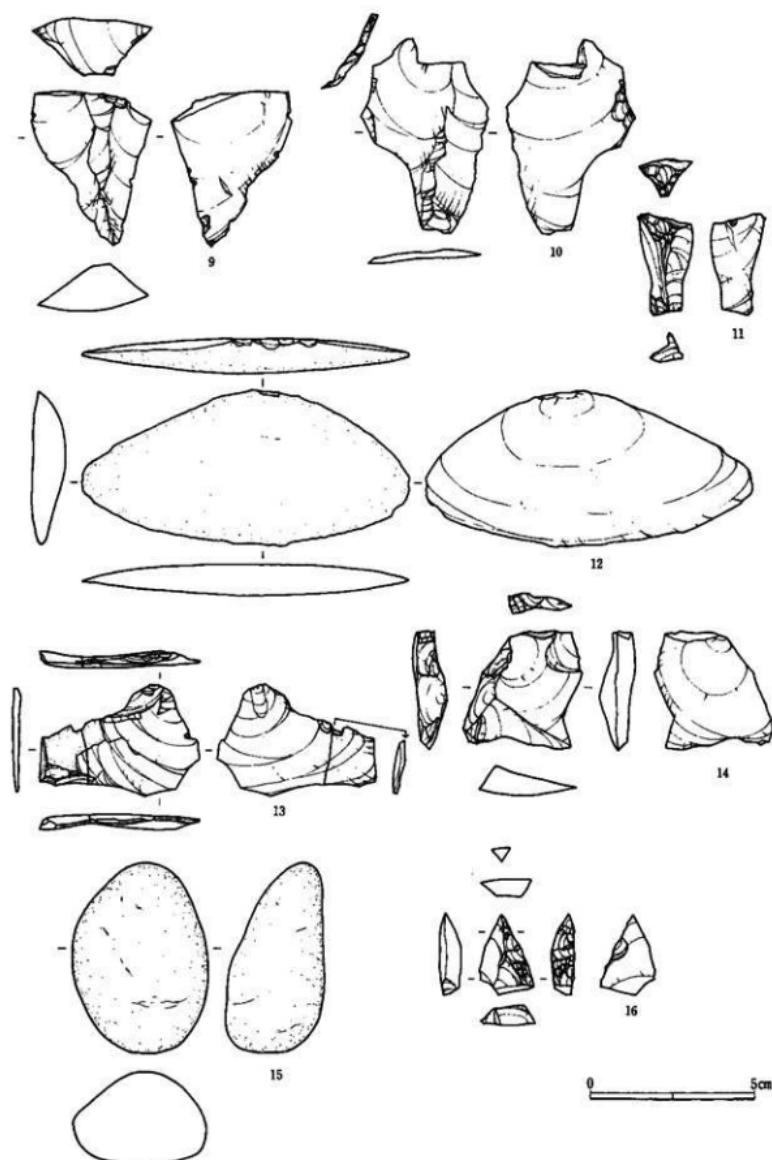
- ▲ ナイフ形石器
- 斧 砥
- 刃 片
- 刀片U
- ▲ 刀片R
- 砕 片
- 離



第13図 第4地点遺物分布図



第14図 第4地点出土石器(1)



第15図 第4地点出土石器（2）・遺構覆土内出土石器

第1表 旧石器時代石器属性表（1）

第1地点

| No. | 遺物番号 | 種類 | 遺存状況 | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重量(g) | 打面 | 背面構成       |  |  |    |   |   | 接合関係 | 層位 | 石材 |   |     |      |
|-----|------|----|------|-----|-----|-----|-------|----|------------|--|--|----|---|---|------|----|----|---|-----|------|
|     |      |    |      |     |     |     |       |    | 打面調整(長さ×幅) |  |  | 打角 | H | R | B    | L  | F  | C |     |      |
| 1   | 1    | —  | 碎片   | 6.4 | 5.0 | 0.5 | 0.0   |    |            |  |  |    |   |   |      |    |    |   | VII | 黒曜石1 |

第2地点

| No. | 遺物番号 | 種類 | 遺存状況   | 長さ   | 幅    | 厚さ   | 重量(g) | 打面   | 背面構成       |           |     |    |   |   | 接合関係 | 層位 | 石材 |   |  |   |
|-----|------|----|--------|------|------|------|-------|------|------------|-----------|-----|----|---|---|------|----|----|---|--|---|
|     |      |    |        |      |      |      |       |      | 打面調整(長さ×幅) |           |     | 打角 | H | R | B    | L  | F  | C |  |   |
| 1   | 10   | 1  | +17形石器 | 完形   | 62.5 | 17.5 | 11.5  | S1   | C2         | 8.5×3.1   | 130 | 2  | 1 |   |      |    |    |   | IX a<br>VII<br>VIII<br>IX<br>V<br>VI<br>VII<br>VIII<br>IX<br>VII | 黒曜石2<br>珪質頁岩2<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1 |
| 2   | 4    | 2  | +17形石器 | 完形   | 17.4 | 10.4 | 5.5   | 0.8  | B1         | 12.1×3.0  |     |    |   |   |      |    |    |   | V<br>VII<br>VIII<br>V<br>V<br>VI<br>VII<br>VIII<br>VII           | 珪質頁岩2<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1<br>珪質頁岩1         |
| 3   | 5    | 3  | +17形石器 | L    | 21.7 | 14.5 | 5.4   | 1.6  | —          |           |     |    |   |   |      |    |    |   |  |   |
| 4   | 1    | 4  | 剝片     | H    | 16.5 | 14.0 | 6.0   | 0.6  | B2         | 8.0×2.2   | 110 | 2  |   |   |      |    |    |   |  |   |
| 5   | 6    | 5  | 剝片     | 完形   | 41.0 | 24.5 | 15.0  | 11.3 | A          | 21.1×11.2 | 60  |    |   |   |      |    |    |   |  |   |
| 6   | 7    | —  | 碎片     | 14.2 | 8.1  | 3.3  | 0.3   |      |            |           |     |    |   |   |      |    |    |   |  |   |
| 7   | 8    | —  | 微      | 27.9 | 17.3 | 1.1  | 5.8   |      |            |           |     |    |   |   |      |    |    |   |  |   |
| 8   | 2    | —  | 微      | 38.1 | 20.0 | 17.5 | 19.8  |      |            |           |     |    |   |   |      |    |    |   |  |   |
| 9   | 3    | —  | 微      | 54.9 | 28.6 | 17.7 | 38.1  |      |            |           |     |    |   |   |      |    |    |   |  |   |
| 10  | 9    | —  | 微      | 26.0 | 13.2 | 10.9 | 4.1   |      |            |           |     |    |   |   |      |    |    |   |  |   |

第3地点

| No. | 遺物番号 | 種類 | 遺存状況   | 長さ | 幅    | 厚さ   | 重量(g) | 打面    | 背面構成       |           |     |    |   |   | 接合関係 | 層位 | 石材 |    |       |       |
|-----|------|----|--------|----|------|------|-------|-------|------------|-----------|-----|----|---|---|------|----|----|----|-------|-------|
|     |      |    |        |    |      |      |       |       | 打面調整(長さ×幅) |           |     | 打角 | H | R | B    | L  | F  | C  |       |       |
| 1   | 21   | 1  | +17形石器 | 完形 | 39.5 | 20.0 | 6.0   | 4.3   | C2         |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 1  |       | 安山岩1  |
| 2   | 38   | 2  | +17形石器 | 完形 | 27.0 | 12.5 | 7.0   | 1.9   |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 1  |       | 珪質頁岩3 |
| 3   | 45   | 3  | +17形石器 | H  | 22.0 | 14.5 | 6.2   | 1.7   |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 1  |       | 珪質頁岩4 |
| 4   | 1    | 4  | +17形石器 | H  | 18.5 | 13.0 | 6.0   | 1.3   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 1  |       | 黒曜石3  |
| 5   | 22   | 5  | 剝片     | 完形 | 72.5 | 50.0 | 19.0  | 48.4  |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 2  |       | 珪質頁岩4 |
| 6   | 28   | 6  | +17形石器 | 完形 | 30.2 | 15.5 | 8.5   | 3.0   | D          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 1  |       | 珪質頁岩3 |
| 7   | 20   | 7  | 剝片     | 完形 | 18.6 | 21.5 | 12.0  | 3.3   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 2  |       | 珪質頁岩3 |
| 8   | 40   | 8  | 石核     | 完形 | 18.0 | 18.5 | 15.0  | 3.3   |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 1  |       | 珪質頁岩3 |
| 9   | 49   | 9  | 剝片     | 纏M | 22.0 | 24.0 | 9.0   | 3.3   |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 2  |       | 珪質頁岩3 |
| 10  | 15   | 10 | 石核     | 完形 | 17.5 | 24.0 | 26.2  | 8.0   |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 3  |       | 珪質頁岩3 |
| 11  | 47   | 11 | 石核     | 完形 | 16.0 | 27.5 | 14.0  | 6.2   |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 4  |       | 珪質頁岩3 |
| 12  | 18   | 12 | 石核     | 完形 | 14.6 | 35.0 | 20.0  | 8.4   |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 5  |       | 珪質頁岩3 |
| 13  | 35   | 13 | 石核     | 完形 | 20.0 | 25.0 | 32.5  | 14.9  |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 6  |       | 珪質頁岩3 |
| 14  | 5    | 14 | 石核     | 完形 | 17.0 | 29.0 | 28.0  | 12.3  |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 7  |       | 珪質頁岩3 |
| 15  | 10   | 15 | 石核     | 完形 | 32.8 | 43.5 | 20.7  | 24.5  |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 8  |       | 珪質頁岩3 |
| 16  | 33   | 16 | 剝片     | 完形 | 25.0 | 25.0 | 21.5  | 7.6   | A          | 20.4×21.5 | 100 |    |   |   |      |    |    | 9  |       | 珪質頁岩1 |
| 17  | 7    | 17 | 剝片     | 完形 | 29.7 | 21.6 | 6.8   | 3.0   | A+B1       | 21.5×5.5  | 120 |    |   |   |      |    |    | 10 |       | 珪質頁岩1 |
| 18  | 46   | 18 | 石核     | 完形 | 33.6 | 39.5 | 15.0  | 18.0  |            |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 11 |       | 珪質頁岩1 |
| 19  | 27   | 19 | 剝片     | 完形 | 32.5 | 18.5 | 10.0  | 3.7   | C2         | 5.7×4.4   | 120 | 1  | 2 |   |      |    |    | 12 |       | 珪質頁岩1 |
| 20  | 9    | 20 | 剝片     | L  | 29.5 | 17.1 | 7.5   | 2.5   | A          | —         | 100 | 2  |   |   |      |    |    | 13 |       | 珪質頁岩1 |
| 21  | 26   | 21 | 剝片     | 完形 | 21.7 | 24.0 | 8.0   | 2.5   | D          | —         | —   | —  | — | — | —    | —  | —  | 14 |       | 珪質頁岩1 |
| 22  | 23   | 22 | 剝片     | 完形 | 39.0 | 31.0 | 12.0  | 10.6  | A          | 16.0×6.7  | 140 | 1  |   |   |      |    |    | 15 |       | 珪質頁岩1 |
| 23  | 14   | 23 | 剝片     | 完形 | 40.6 | 60.8 | 11.0  | 32.3  | B1         | 50.4×10.1 | 92  | 2  |   |   |      |    |    | 16 |       | 安山岩2  |
| 24  | 43   | 24 | 剝片     | 完形 | 32.5 | 25.5 | 17.0  | 19.0  | A          | —         |     |    |   |   |      |    |    | 17 |       | 珪質頁岩1 |
| 25  | 32   | 25 | 剝片     | H  | 38.6 | 49.5 | 14.5  | 6.6   | B1         | 33.8×11.3 | 130 | 1  |   |   |      |    |    | 18 |       | 安山岩1  |
| 26  | 16   | —  | 剝片     | B  | 18.3 | 12.6 | 6.6   | 1.7   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 19 |       | 安山岩1  |
| 27  | 13   | —  | 剝片     | B  | 23.8 | 13.8 | 1.9   | 0.5   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 20 |       | 安山岩1  |
| 28  | 29   | —  | 剝片     | L  | 22.8 | 13.3 | 4.0   | 1.6   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 21 |       | 安山岩1  |
| 29  | 6    | —  | 剝片     | L  | 19.5 | 13.8 | 4.1   | 0.6   | B1         | —×3.7     |     |    |   |   |      |    |    | 22 |       | 珪質頁岩3 |
| 30  | 34   | —  | 剝片     | B  | 21.6 | 16.7 | 5.5   | 1.1   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 23 |       | 珪質頁岩3 |
| 31  | 41   | —  | 剝片     | L  | 26.3 | 10.0 | 6.0   | 1.2   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 24 |       | 珪質頁岩3 |
| 32  | 4    | —  | 剝片     | 完形 | 20.6 | 14.6 | 3.1   | 0.5   | D          | 5.4×—     |     | 1  |   |   |      |    |    | 25 |       | 珪質頁岩4 |
| 33  | 19   | —  | 剝片     | 完形 | 15.9 | 8.2  | 6.2   | 0.8   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 26 |       | 珪質頁岩4 |
| 34  | 25   | —  | 剝片     | 完形 | 24.6 | 21.6 | 10.5  | 2.0   | D          | —         |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 27 |       | 珪質頁岩4 |
| 35  | 44   | —  | 剝片     | L  | 23.5 | 7.4  | 8.7   | 0.7   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | —  | 28 |       | 珪質頁岩4 |
| 36  | 50   | —  | 剝片     | 完形 | 17.5 | 10.0 | 5.5   | 0.5   | B1         | 6.0×1.7   |     | 1  |   |   | 1    |    |    | 29 |       | 珪質頁岩4 |
| 37  | 2    | —  | 剝片     | M  | 26.5 | 15.3 | 10.8  | 3.5   | D          | —         |     | —  | — | — | 2    |    |    | 30 |       | 珪質頁岩4 |
| 38  | 36   | —  | 剝片     | 完形 | 33.6 | 13.9 | 6.5   | 3.1   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩1 |       |
| 39  | 48   | —  | 剝片     | 完形 | 12.3 | 6.3  | 2.8   | 0.1   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩1 |       |
| 40  | 12   | —  | 剝片     | 完形 | 15.3 | 7.7  | 3.6   | 0.3   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩3 |       |
| 41  | 49   | —  | 剝片     | 完形 | 12.3 | 10.7 | 3.2   | 0.3   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩3 |       |
| 42  | 39   | —  | 剝片     | 完形 | 6.7  | 6.3  | 0.8   | 0.0   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩6 |       |
| 43  | 24   | —  | 剝片     | 完形 | 13.2 | 9.8  | 2.8   | 0.1   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩7 |       |
| 44  | 8    | —  | 剝片     | 完形 | 9.6  | 9.9  | 2.8   | 0.2   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩4 |       |
| 45  | 17   | —  | 剝片     | 完形 | 17.6 | 6.5  | 1.8   | 0.1   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩4 |       |
| 46  | 37   | —  | 剝片     | 完形 | 12.8 | 10.0 | 2.8   | 0.4   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩4 |       |
| 47  | 11   | —  | 剝片     | 完形 | 11.5 | 5.3  | 2.6   | 0.1   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩8 |       |
| 48  | 51   | —  | 剝片     | 完形 | 11.2 | 7.6  | 3.4   | 0.2   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩8 |       |
| 49  | 3    | —  | 剝片     | 完形 | 21.5 | 16.0 | 12.7  | 6.4   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩8 |       |
| 50  | 30   | —  | 剝片     | 完形 | 94.0 | 72.0 | 51.0  | 432.9 | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩8 |       |
| 51  | 31   | —  | 剝片     | 完形 | 20.0 | 15.5 | 9.3   | 4.0   | —          |           |     | —  | — | — | —    | —  | 1  | 1  | 珪質頁岩8 |       |

第2表 旧石器時代石器属性表(2)

| No | 遺物<br>番号 | 標因<br>番号 | 器種     | 遺存<br>状況 | 長さ   | 幅    | 厚さ   | 重量<br>(g) | 打面   | 打面調整<br>(長さ×幅) | 打角 | 背面構成 |   |   |   |   |      | 接合関係   | 層位       | 石材 |
|----|----------|----------|--------|----------|------|------|------|-----------|------|----------------|----|------|---|---|---|---|------|--------|----------|----|
|    |          |          |        |          |      |      |      |           |      |                |    | H    | R | B | L | F | C    |        |          |    |
| 1  | 7        | 1        | ナイフ形石器 | 完形       | 21.0 | 11.0 | 5.0  | 1.0       | —    | —              | —  | 1    | 1 |   |   |   |      | VII下   | 珪質頁岩1    |    |
| 2  | 15       | 2        | ナイフ形石器 | B        | 18.0 | 10.5 | 4.5  | 0.8       | —    | —              | —  | 1    | 2 | 1 |   |   |      | VII下   | 珪質頁岩10   |    |
| 3  | 21       | 3        | ナイフ形石器 | 完形       | 19.0 | 10.5 | 5.0  | 3.7       | —    | —              | —  | 1    | 1 |   |   |   |      | VII下   | 珪質頁岩10   |    |
| 4  | 20       | 4        | ナイフ形石器 | 完形       | 40.5 | 16.0 | 5.0  | 2.7       | —    | —              | —  | 3    | 1 |   |   |   |      | VII下   | チャコート-彩1 |    |
| 5  | 23       | 5        | ナイフ形石器 | 完形       | 82.5 | 25.0 | 11.0 | 13.9      | —    | —              | —  | 2    | 3 | 2 |   |   |      | VI下    | 珪灰岩1     |    |
| 6  | 6        | 6        | 刮削片R   | 完形       | 12.0 | 18.0 | 5.5  | 0.8       | D    | —              | —  | 2    |   |   |   |   |      | VI     | 珪質頁岩7    |    |
| 7  | 4        | 7        | 刮削片R   | 完形       | 43.5 | 57.0 | 10.0 | 18.8      | D    | —              | —  | 4    | 2 |   |   |   |      | VI     | 珪質頁岩9    |    |
| 8  | 8        | 8        | 石核     | 完形       | 44.5 | 67.0 | 18.0 | 44.1      | —    | —              | —  | 2    |   |   |   |   |      | VII下   | 安山岩4     |    |
| 9  | 5        | 9        | 刮削片U   | 完形       | 48.0 | 37.0 | 18.0 | 17.4      | —    | —              | —  | 2    |   |   |   |   |      | VI     | チャコート-彩1 |    |
| 10 | 16       | 10       | 刮削片U   | B        | 59.0 | 39.0 | 4.5  | 6.0       | —    | —              | —  | 2    |   |   |   |   |      | VII下   | 珪質頁岩10   |    |
| 11 | 1        | 11       | 刮削片    | 横M       | 31.0 | 17.0 | 11.0 | 3.7       | —    | —              | —  | 2    | 1 |   |   |   |      | VII下   | 珪質頁岩8    |    |
| 12 | 9        | 12       | 刮削片    | 完形       | 46.5 | 99.5 | 10.5 | 50.4      | A+C2 | 28.7×8.1       | 70 | 2    |   |   |   |   |      | VI     | 珪質頁岩10   |    |
| 13 | 18       | 13       | 刮削片    | R        | 34.5 | 36.0 | 4.5  | 4.4       | C2   | 5.3×2.9        | —  | 1    | 2 | 1 |   |   | VII下 | 珪質頁岩10 |          |    |
| 14 | 19       | 13       | 刮削片    | L        | 18.5 | 15.0 | 5.0  | 1.1       | —    | —              | —  | 1    | 2 | 2 |   |   | VI   | 珪質頁岩11 |          |    |
| 15 | 13       | 14       | 刮削片    | 完形       | 35.5 | 36.0 | 11.0 | 9.1       | B2   | 20.3×5.9       | —  | 2    |   |   |   |   | VI   | 珪質頁岩11 |          |    |
| 17 | 17       | 15       | 原石     | 完形       | 57.5 | 41.0 | 31.0 | 91.7      | —    | —              | —  | 2    |   |   |   |   |      | VII下   | 安山岩5     |    |
| 16 | 6        | 11       | 刮削片    | 完形       | 21.2 | 10.5 | 2.4  | 0.5       | D    | —              | —  | 1    |   |   |   |   |      | VII下   | 珪質頁岩12   |    |
| 17 | 10       | 12       | 刮削片    | 完形       | 20.0 | 12.0 | 3.8  | 0.4       | B1   | 9.0×2.3        | —  | 2    |   | 1 |   |   | VI   | 珪質頁岩9  |          |    |
| 18 | 12       | 12       | 刮削片    | R        | 45.8 | 26.2 | 3.1  | 5.0       | D    | —              | —  | —    |   |   |   |   |      | VII下   | 安山岩3     |    |
| 19 | 2        | —        | 刮削片    | 完形       | 10.2 | 5.2  | 3.4  | 0.2       | —    | —              | —  |      |   |   |   |   |      | 珪質頁岩8  |          |    |
| 20 | 3        | —        | 刮削片    | 完形       | 12.7 | 9.2  | 4.5  | 0.3       | —    | —              | —  |      |   |   |   |   |      | 珪質頁岩9  |          |    |
| 21 | 11       | —        | 刮削片    | 完形       | 11.5 | 11.3 | 3.2  | 0.2       | —    | —              | —  |      |   |   |   |   | VII下 | 珪質頁岩9  |          |    |
| 22 | 14       | —        | 刮削片    | 完形       | 15.5 | 8.2  | 3.8  | 0.4       | —    | —              | —  |      |   |   |   |   |      | 珪質頁岩9  |          |    |

遺構覆土内出土

| No | 遺物<br>番号 | 標因<br>番号 | 器種     | 遺存<br>状況 | 長さ   | 幅    | 厚さ  | 重量<br>(g) | 打面 | 打面調整<br>(長さ×幅) | 打角 | 背面構成 |   |   |   |   |   | 接合関係 | 層位     | 石材 |
|----|----------|----------|--------|----------|------|------|-----|-----------|----|----------------|----|------|---|---|---|---|---|------|--------|----|
|    |          |          |        |          |      |      |     |           |    |                |    | H    | R | B | L | F | C |      |        |    |
| 1  | 002-9    | 16       | ナイフ形石器 | H        | 24.0 | 15.5 | 7.3 | 2.4       | —  | —              | —  | 2    |   |   |   |   |   |      | 珪質頁岩13 |    |

第3表 旧石器時代石器組成表

第2地点

|      | ナイフ形石器 | 削器   | 刮削片 | 砂片   | 礫    | 計    | %     |
|------|--------|------|-----|------|------|------|-------|
| 珪質頁岩 | 2.0    | 1.0  | 1.0 | 1.0  | 4.0  | 40.0 |       |
|      | 2.4    | 0.6  | 0.3 | 3.3  | 3.6  |      |       |
| 珪質礫岩 |        | 1.0  |     |      | 1.0  | 10.0 |       |
|      |        | 11.3 |     |      | 11.3 | 12.5 |       |
| 礫岩   |        |      |     | 1.0  | 1.0  | 10.0 |       |
|      |        |      |     | 5.8  | 5.8  | 6.4  |       |
| チャート |        |      |     | 3.0  | 3.0  | 30.0 |       |
|      |        |      |     | 62.0 | 62.0 | 68.5 |       |
| 黒曜石  | 1.0    |      |     |      | 1.0  | 10.0 |       |
|      | 8.1    |      |     |      | 8.1  | 9.0  |       |
| 合計   | 3.0    | 1.0  | 1.0 | 1.0  | 4.0  | 10.0 | 100.0 |
|      | 10.5   | 11.3 | 0.6 | 0.3  | 67.8 | 90.5 | 100.0 |

第3地点

|         | ナイフ形石器 | 雨器   | 石核   | 刮削片   | 砂片    | 礫     | 計     | %     |
|---------|--------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 珪質頁岩    | 3.0    | 1.0  | 8.0  | 12.0  | 8.0   | 4     | 32.0  |       |
|         | 6.6    | 48.4 | 95.6 | 26.9  | 1.5   | 1.1   | 179.0 | 24.5  |
| チャート    |        |      |      |       | 3.0   | 3.0   | 6.3   |       |
|         |        |      |      |       | 443.3 | 443.3 | 60.6  |       |
| 安山岩     | 1.0    |      |      | 5.0   | 1.0   |       | 7.0   | 14.6  |
|         | 4.3    |      |      | 62.3  | 0.1   |       | 66.7  | 9.1   |
| ホルンフェルス |        |      |      | 5.0   |       |       | 5.0   | 10.4  |
|         |        |      |      | 41.7  |       |       | 41.7  | 5.7   |
| 黒曜石     | 1.0    |      |      |       |       |       | 1.0   | 2.1   |
|         | 1.3    |      |      |       |       |       | 1.3   | 0.2   |
| 計       | 5.0    | 1.0  | 8.0  | 22.0  | 9.0   | 3.0   | 48.0  | 33.3  |
|         | 12.2   | 48.4 | 95.6 | 130.9 | 1.6   | 443.3 | 732.0 | 100.0 |

第4地点

|         | ナイフ形石器 | 石核   | R刮削片 | U刮削片 | 刮削片  | 砂片  | 礫岩   | 計     | %     |
|---------|--------|------|------|------|------|-----|------|-------|-------|
| 珪質頁岩    | 3      | 2    | 1    | 6    | 4    |     | 1    | 16.0  | 69.6  |
|         | 5.5    | 19.4 | 17.4 | 19.2 | 1.1  |     |      | 62.6  | 22.5  |
| チャート-頁岩 | 1      |      |      | 1    |      |     |      | 2.0   | 5.3   |
|         | 2.7    |      |      | 6    |      |     |      | 8.7   | 3.1   |
| 礫岩      | 1      |      |      |      |      |     | 1.0  |       | 4.3   |
| 13.9    | 13.9   | 5.0  |      |      |      |     |      |       |       |
| 安山岩     |        |      | 1    |      |      |     | 1    | 4.0   | 17.4  |
|         |        |      | 44.1 |      |      |     | 91.7 | 191.2 | 69.2  |
| 計       | 5      | 1    | 2    | 2    | 8    | 4   | 1    | 23.0  | 100.0 |
|         | 22.1   | 44.1 | 19.4 | 23.4 | 74.6 | 1.1 | 91.7 | 276.4 | 100.0 |

※上段は点数、下段は重量(g)である。

## 第2節 繩文時代

### 1 概要

繩文時代の遺物は、繩文時代早期から晩期にかけて検出されている。その中でも早期、晩期の資料が特に充実している。検出された遺構は、繩文時代早期のものに限られ、炉穴、礫群が重複して検出されている。礫群は、石鐵、楔形石器、砾石器などを伴っており、いくつかの礫集中地点も確認されている。分布は、調査区内の北西部の、南西方向に開口する谷に面した地点に限られており、他の地点からの出土はほとんどみられなかった。図中のスクリーントーン部分は、炉穴の炉床を示す。

### 2 遺構

#### 003炉穴（第16図）

調査区南東側130-17に位置する。平面形は円形で、長軸約52cm、短軸49cmを測る。底面は西側で一段深く掘り込まれており、深さ最大32cmを測る。覆土は焼土の単一層であった。底面に焼けた部分は見られなかった。

#### 005炉穴（第16図、図版1）

3C-17に位置する。不整なT字形を呈し、長軸2.91m、短軸2.48mを測る。南東方向に3か所の張出しを有し、それぞれに炉床が検出された。南西側の張出しあは深さ約26cmで、炉床は径約14cmの円形を呈する。南側の張出しあは深さ最大約50cmを測り、炉床は長軸径47cm、短軸径38cmの楕円形を呈する。東側の張出しあは深さ最大約32cmで、炉床は径約40cmの円形を呈する。覆土は大きく3層に分かれ、ローム粒・焼土粒を少量含む暗褐色土を主体とし、側面付近にローム粒・焼土粒を少量含む暗褐色土、底面付近に焼土粒を多量に含む黒褐色土が堆積していた。

#### 006炉穴（第16図、図版1）

3B-19に位置する。長軸60cm、短軸48cmの楕円形を呈する。深さ約18cmを測る。覆土は焼土粒を多量に含む暗褐色土を主体とする。

#### 007炉穴（第16図、図版1）

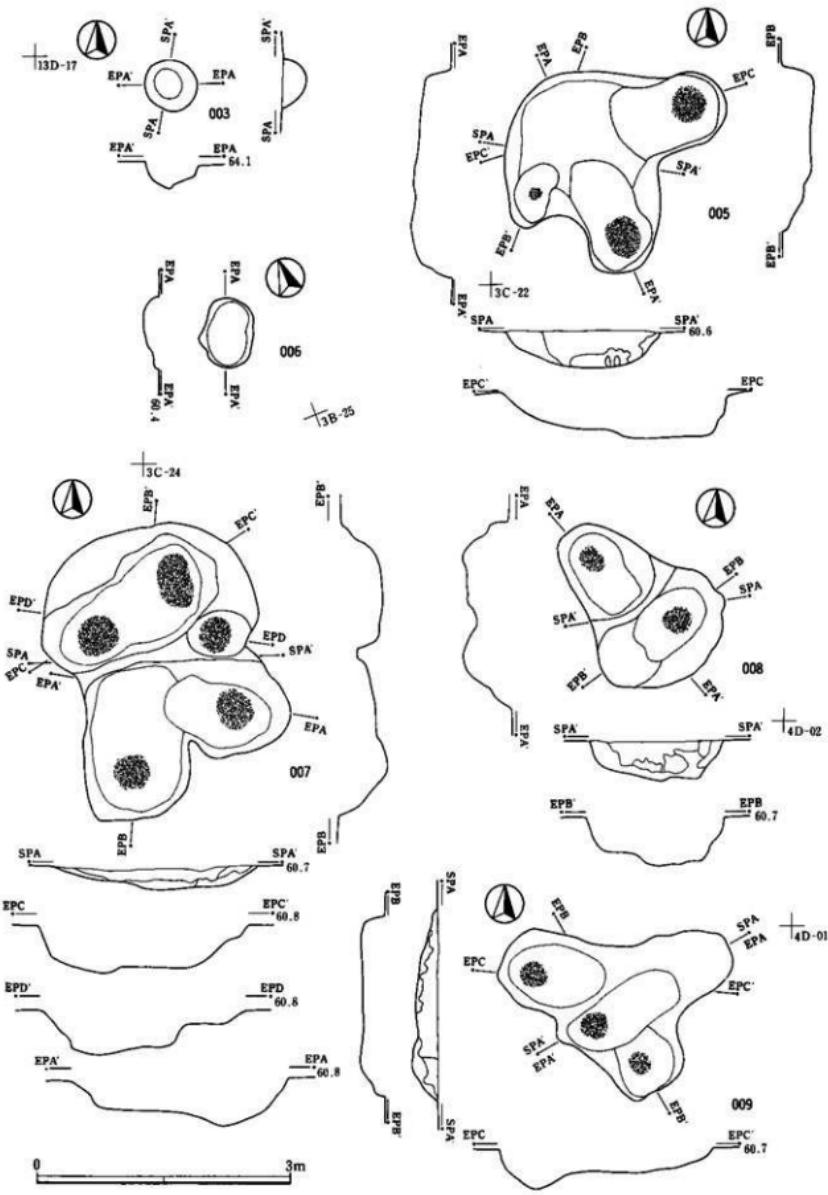
3C-23・24に位置する。長軸3.6m、短軸3.25mの不整形を呈する。南側に2か所張出し状になっており、最低4基の炉穴が重複したものである可能性が高い。北側には3か所の炉床が検出されたが、西側と中央の炉床は深さ約50cm～55cm一段深く掘り込まれた中にあり、東側の炉床は深さ約15cmの浅い掘込みに位置する。南西側の張出しあは深さ最大約60cmを測り、炉床は南側に位置する。東側の張出しあは深さ最大約55cmである。炉床は径約40cm～64cmの円形ないしは楕円形を呈する。覆土は上層はローム塊・焼土粒を含む暗褐色土、下層はローム粒・焼土粒を含む明褐色土を主体とする。

#### 008炉穴（第16図、図版1）

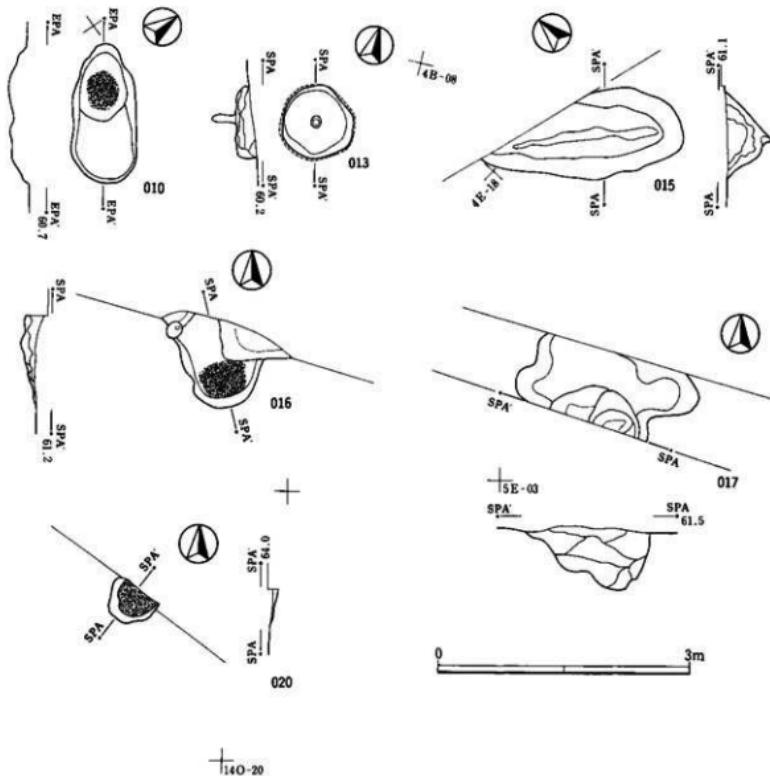
3C-25に位置する。長軸2.21m、短軸1.63mを測る。炉床は2か所検出されたが、掘込みは北西側は狭く、南東側は広い。深さは最大59cmを測る。炉床は北西側のものは長軸径32cm、短軸径約33cmの楕円形を呈する。南側の炉床は北東側に一段深く掘り込まれた中にあり、径約32cmの不整形を呈する。覆土は大きく3層に分かれ、上層は焼土粒・ローム粒を少量含む黒褐色土、中層はローム粒・焼土粒を少量含む暗褐色土、下層は焼土粒を多量に含む暗褐色土が堆積していた。

#### 009炉穴（第16図、図版1）

4C-05に位置する。北西側と南東側に張り出す長軸径約2.8m、短軸径約2.5mの不整なT字形を呈する。



第16図 繩文時代遺構 (1)



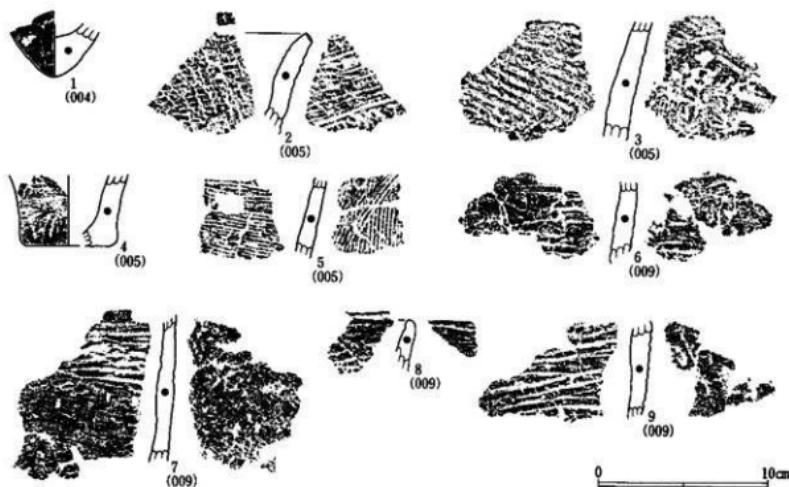
第17図 縄文時代遺構 (2)

炉床は3か所検出されたが、それぞれの周囲は一段深く掘り込んでいる。北西側の掘込みは深さ約46cm、中央の掘込みは深さ約34cm、南東側の深さ約30cmを測る。炉床は径24~32cmの不整円形を測る。覆土は、上層はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土を主体とする。下層は焼土粒を少量含む明褐色土を主体とする。  
010炉穴（第17図）

4 D-01に位置する。長軸径約1.56m、短軸径約78cmを測る橢円形を呈する。北西側の炉床の周囲はやや深く掘り込んでおり、深さ約22cmを測る。炉床は長軸径約44cm、短軸径約38cmの橢円形を呈する。

013土坑（第17図、図版1）

4 B-07に位置する。開口部は径約85~90cmの不整円形を呈する。側面はオーバーハングし、袋状を呈する。底面の中央には径約12cm、深さ約29cmのピットが穿たれていた。覆土は上層はローム塊・焼土粒を含む暗褐色土、下層はローム粒・ローム塊を少量含む暗褐色土、ピット内はローム粒・ローム塊を多量に含む暗黄褐色土が堆積していた。



第18図 織文土器 (1)

#### 015土坑（第17図、図版2）

4E-18に位置する。北側は平成8年度の調査範囲に及んでいたが、全掘できなかった。平面形は橢円形を呈すると考えられ、短軸径約1.05mを測る。断面形は逆三角形を呈し、深さ約53cmを測る。覆土は4層に分かれ、自然堆積状を示している。上層から黒色土、焼土粒をわずかに含む黒色土、ローム粒主体の暗黄褐色土、ローム粒・焼土粒を含む黒色土が堆積していた。

#### 016炉穴（第17図）

4E-11に位置する。北側は平成8年度の調査範囲に及んでおり、南端周辺を調査できたのみである。最大幅約1.6mを測る。北側で一段深く掘り込んでおり、西側壁を切って径約20cm、深さ約9cmの小ピットが穿たれている。南側で検出された炉床は長軸約55cm、短軸約40cmの不整な方形を呈する。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒色土を主体とする。

#### 017土坑（第17図、図版2）

4E-23に位置する。北側は水道管によって擾乱を受けており、南側は調査範囲外に及んでいたため調査できなかった。不整形を呈し、最大幅約2.2mを測る。南側で2段に掘り込まれており、深さ最大約70cmを測る。覆土はローム粒を含む黒色土・暗褐色土を主体とする。

#### 020炉穴（第17図）

調査区南部140-14に位置する。北側は水道管によって擾乱を受けており、019道路跡の底面上から検出されたため、上面は削平されており、炉床と周辺を検出できたのみである。掘込みは、遺存部で最大幅約60cm、深さ最大11cm、炉床は幅約45cmを測る。覆土は焼土塊を多量に含む茶褐色土が堆積していた。



第19図 繩文土器 (2)

### 3 遺物

#### (1) 遺構出土土器 (第18図、第19図、図版6)

土坑、炉穴からは、縄文土器、石器、礫が検出されているが、石器については、後の項でまとめて報告することにする。土器については、縄文時代早期後葉の条痕文系土器に属する資料が確認されている。時期が明確になる資料について報告する。

1は004出土の土器片である。尖底部破片で、尖底部はわずかに肥厚するが、角度は鈍角である。胎土には纖維を含む。包含層出土の土器の組成から、子母口式～野島式のものである可能性が高い。

2～5は005から出土している。2は口縁部破片である。外面に貝殻条痕が施されており、外面には斜位の貝殻腹縁文が施されている。胎土には纖維を多く含み、脆い。3は口縁部付近の破片である。内面には条痕が施されており、外面には条痕の上に繩文が施される。胎土には纖維を多く含んでいる。4は底部破片である。径の小さな平底である。内外面に条痕が施されており、纖維を多く含み脆い。これらはいずれも縄文時代早期後葉の茅山下層式～上層式に位置づけられる資料である。5は胸部破片である。内外面に目の細かい明瞭な条痕が施されている。胎土に纖維を含む。茅山下層式であると考えられるが、野島式の可能性もある。6～9は条痕文土器である。7、9には横位の条痕が施されている。

10～15は007出土の土器である。10～13は口縁部破片である。10、12はごく緩い波状口縁で、やや内彎している。外面に刺突裂が見られる。13も斜位の刺突列が施されている。11の外面には、貝殻復縁文が施されている。15は口縁部から胸部にかけての破片である。口縁部は波状を呈し、波頭部には上端が平坦な把手状の装飾が見られる。条痕を地文とし、口縁部外面には繩文が施されており、口唇部にも同様に繩文が施される。これらの土器はいずれも胎土に纖維を含み、焼成は悪く、脆いのが特徴である。

#### (2) グリッド出土土器

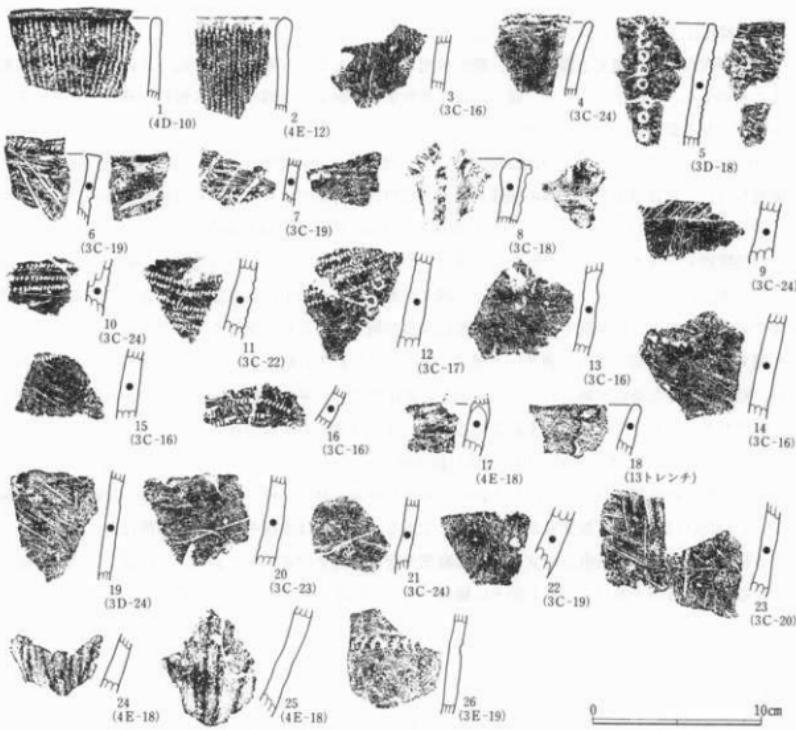
##### 第1群土器 (第20図1～4、図版7)

燃糸文系土器を第1群土器とした。1、2とも燃糸文系土器に分類される土器である。口唇部はわずかに肥厚し、燃糸文が施されている。夏島式である。3は胸部破片である。燃糸文がまばらに施されている。やはり夏島式に比定されるものであろう。4は、無文の口縁部破片である。やや外反し、口唇部は横方向にナデが施されている。型式等は不明だが、やはり燃糸文系土器に属するの無文の資料であると考えられる。

##### 第2群土器 (第20図5～26、図版7)

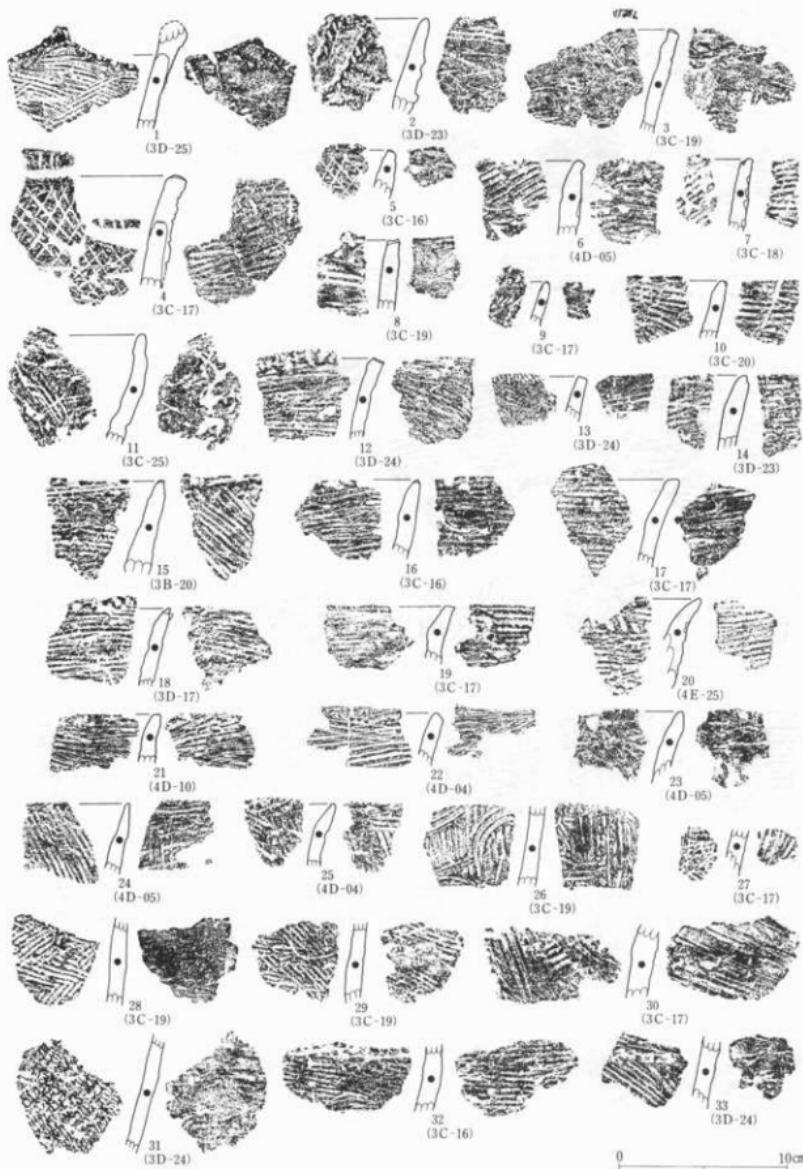
沈線文系後葉～条痕文系前葉に属する土器と考えられるものを第2群土器とした。5は縦位に連続して竹管文が施されている例である。口唇部には絡条体圧痕文が施され、胎土に纖維をわずかに含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。10～16は、胎土に若干の纖維を含み器面に絡条体圧痕文が施される例である。12は、斜位の絡条体圧痕文と縦方向に連続する竹管文が見られる例で、5との関連が考えられる。13～15は破片の上端にわずかに絡条体圧痕が観察される例で、これらの例が無文部分を含んでいることを示している。16は底部付近の破片で、鈍角の尖底になるものと考えられる。これらの例は、絡条体圧痕文などの特徴から子母口式あるいはその前後に位置付けられると考えられるが、縄文時代早期末葉の型式に属する可能性も否定できない。

6、7は器面に擦痕が見られ、胎土に纖維を含む例で、細い沈線により文様が施されている。6は口縁

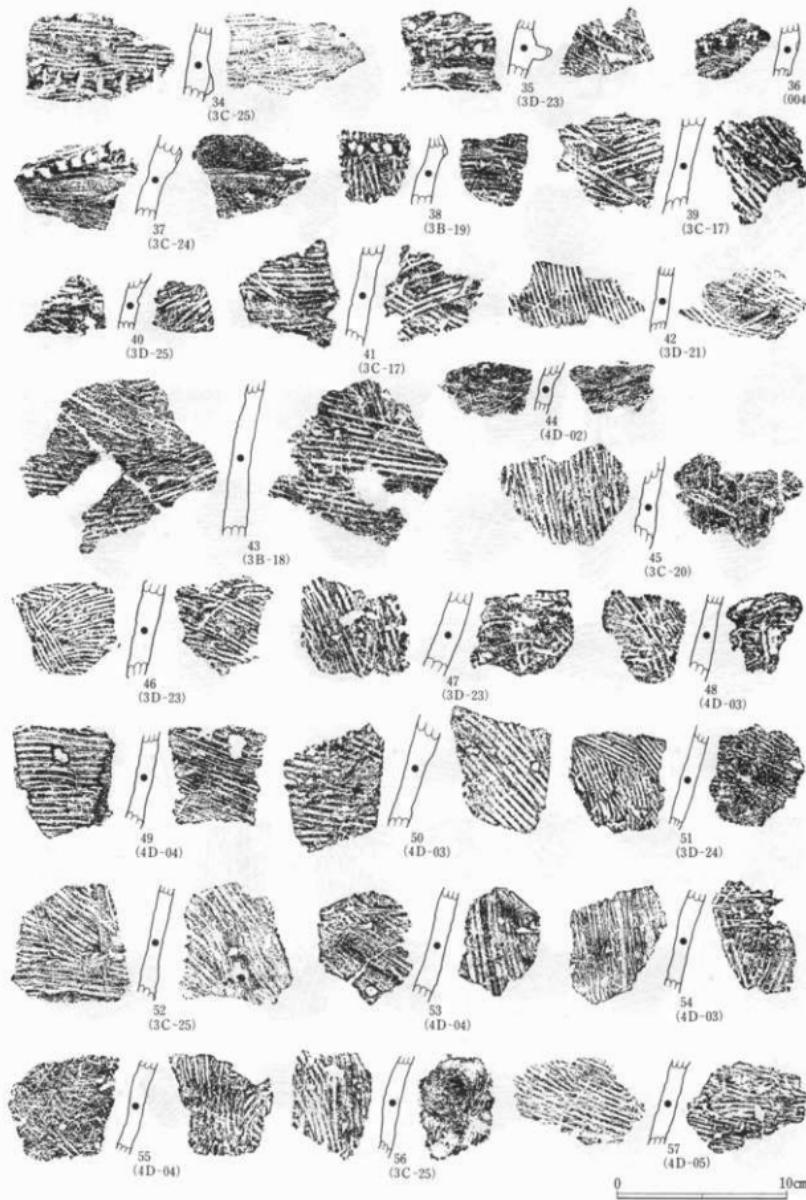


第20図 繩文土器 (3)

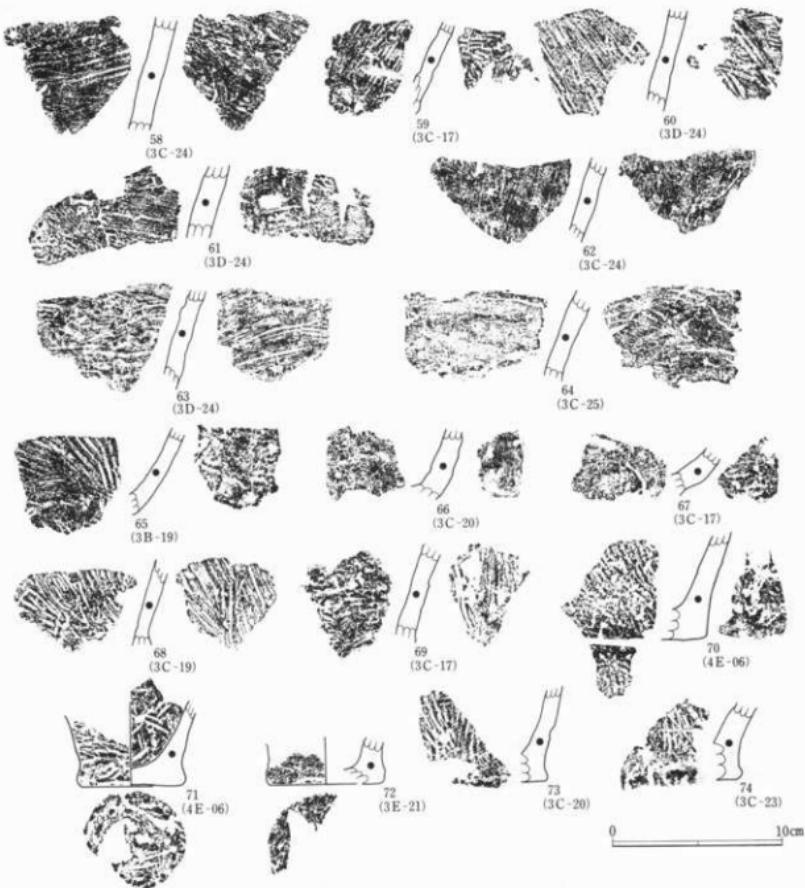
部破片である。口唇部は平坦に作出されており、上端に刻目が施されている。7は同一個体の口縁部付近の破片である。8は波状口縁となる個体の波頭部の破片である。口唇部はやや肥厚しており、波頭部から垂下する隆線を有し、口唇部と隆線に刻目が施されている。胎土に砂粒を含み、繊維はわずかに含まれる。これらは小破片のため全容は把握しがたいが、野島式に比定される特徴を持っている。9は細い沈線により文様が構成されている例である。器面は丁寧に調整されており、焼成も良好である。やはり野島式であると考えられるが、沈線文系土器に属する可能性もある。17、18は口縁部破片である。17は、把手を持つ破片であるが全体の形状は不明である。器面はナデが施され、胎土には若干の繊維が含まれている。18は平縁の破片だが、17と同様の器面調整、胎土である。19～23は胴部破片である。器面には擦痕が見られ、胎土は緻密だが繊維を少し含んでいる。13～15に胎土が類似することから、同様の土器の胴部であると推測される。24、25は沈線文系土器の尖底部付近の破片であると考えられる。縦方向にナデが施されている。



第21図 繩文土器 (4)



第22図 繩文土器 (5)



第23図 繩文土器 (6)

26は胎土に繊維を含まず、砂粒や雲母を含む破片で、横位に格条体圧痕文と推測される文様が施されている例である。子母口式の可能性が考えられるが、10~16とはやや胎土を異なる。

#### 第3群土器（第21図～第23図、図版8、9）

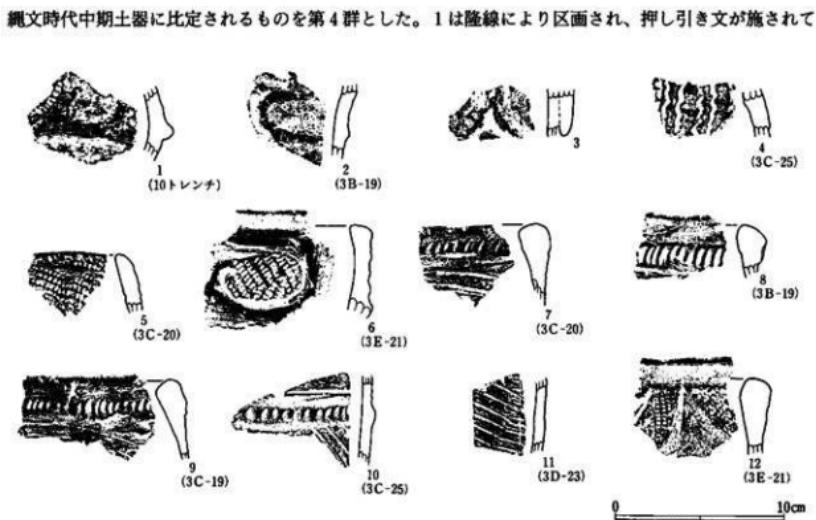
条痕文系土器の後葉、茅山下層式～茅山上層式に比定される例を第3群とした。点数としては、今回の調査で出土した縄文土器の中では最も多かった。そのほとんどが条痕のみが器面に施された胸部破片であったため、ここでは主な口縁部破片と文様や器形が判別できるような胸部破片、そして底部破片のみを図示した。

1は外面のみに条痕を施す例で、波状口縁の波頭部の破片である。波頭部が肥厚している。2は口唇部から斜位に2本の隆線が併行している例で、隆線には刻目が施されている。いずれも胎土に纖維を少し含み、焼成は良好である。3～18は口縁部破片で、口唇部に刻目が施される例である。いずれも、内外面ともに条痕が施され、纖維を多く含み、脆い土器である。3～5は斜格子文が施されている例である。4は、口縁部に板状の把手が付く器形である。6～12は刺突文列により文様が構成されている例である。7は押し引き文状の縦位の刺突文列である。12も縦位の刺突文列が見られる。8、9は横位の刺突文列が施されている。11は内面に縦位の刺突文列が施されているのが特徴である。19～25は口唇部に刻目が施されない例である。20には横位の刺突文列が施されている。

26～33、40は、口縁部付近の、文様を持つ破片である。26は貝殻条痕を蛇行させて文様を構成する例である。27は貝殻復縁文が施されている。28は貝殻条痕文による羽状文、29は斜格子文のような効果を表している。30には連続する斜位の刻目文が施されている。31は縞文が施されている。32、33は押し引き文が横位に施されている例である。32は串状、33は角棒状の工具によりそれぞれ施されている。40も同様に押し引き文状の横位の連続刺突文が施されている。34～38は胸部に段を形成する部分の破片である。いずれも段の部分に刻目が施されている。34、36～38は段の部分で肥厚する例である。37は角棒状の器具により刻目が施されており、段が波状となるものと考えられる。35は器形としてはくびれないが、突帯を張り付けて段を表現している。41～60は胸部破片である。61～64は条痕が比較的少ない胸部破片である。

65～74は底部破片である。65～67は丸底に近い尖底となる破片である。66、67は条痕が不明瞭であることから、第2類の底部となる可能性も否定できない。68～74は平底の底部破片である。いずれも底径が小さいのが特徴である。

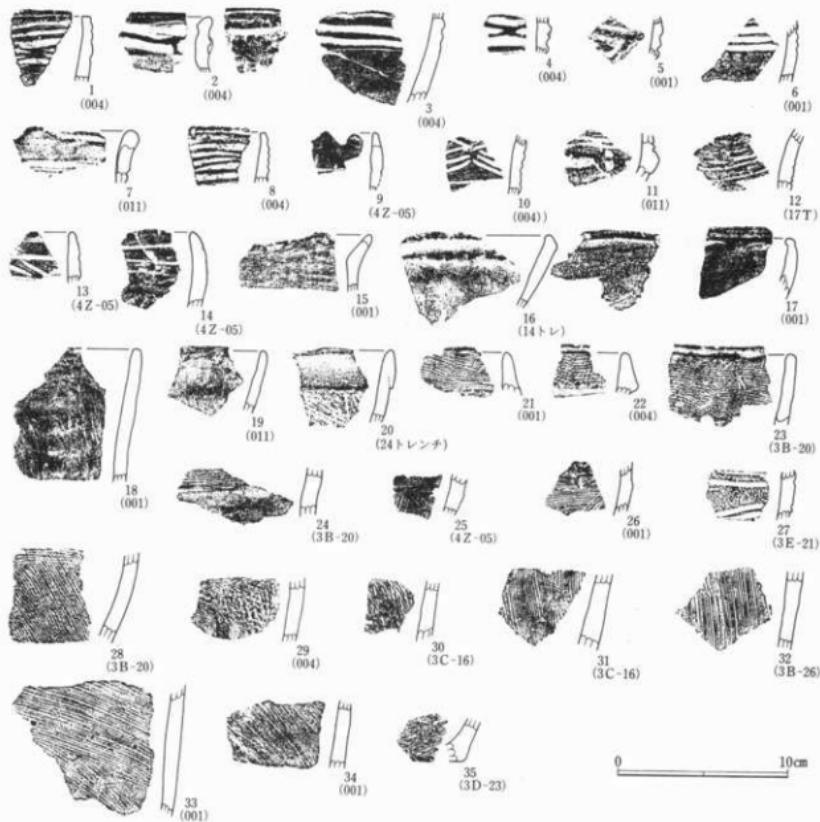
#### 第4群土器（第24図1～6、図版12）



第24図 繩文土器 (7)

いる。4は胸部破片である。櫛引き文により文様が施されている。いずれも胎土に雲母が含まれている。これらは阿玉台式に比定される資料である。

5、6は口縁部破片である。5は区画文が形成されない例である。6は隆線により区画文が形成されている例である。区画内には縄文が充填されている。これらは加曾利E式である。



第25図 縄文土器 (8)

#### 第5群土器（第24図7～12、図版12）

縄文時代後期及び晩期前葉に位置付けられる資料を第5群土器とした。7～9は口縁部破片である。1は口唇部が肥厚し、刻目が施されている。胸部には粗い平行沈線が施されている。10、11は脇部破片である。10は横位に隆線が巡り、刻目が施されている。これらはいずれも縄文後期後葉の安行式の粗製深鉢である。12は、口縁部破片で、内側に肥厚している。不明瞭だが沈線により描かれた区画内に縄文が施されている。全体の文様構成が不明だが、安行式から前浦式に属する資料であると考えられる。

#### 第6群土器（第25図、図版12）

縄文晩期後葉の千網式、荒海式に属すると考えられる資料を第6群とした。4Aグリッド周辺から集中して出土し、特に、001の覆土に多く含まれていた。1～6は浮線文により文様が構成される例である。1、2は口縁部破片である。1は口縁部上端に浅い沈線が巡る例である。2、3は赤彩されている破片で、同一個体の可能性が高い。2の内面には横位の沈線が巡っている。4は工字文が施される破片である。これらは千網式の精製土器であると考えられる。7～14は沈線文により文様が構成されている例である。7～9、13、14は口縁部破片である。1はやや波状に突出する部分で、平縁の部分には口縁部上端に沈線が巡っている。8も上端に沈線が巡る例である。9は平縁の口縁部に二つ一組の突起が施される例である。10は工字文が沈線により描かれる例である。これらは荒海式に属する破片である。15は屈曲し外反する口縁部破片で、緩い波状の波頭部である。16、17は内湾し、内側に沈線を巡らす例である。

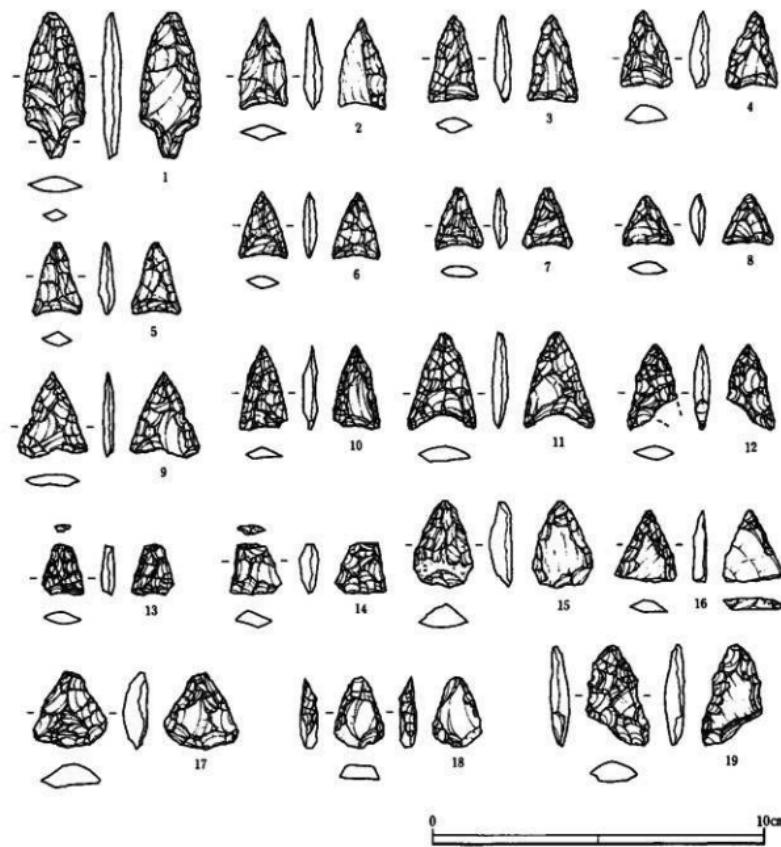
18～35は粗製深鉢の破片である。18、19は器面に擦痕が施されている。20～24、27～30は撫糸文が施されている例である。それに対し、25、26、31～34は細かい条痕が施される例である。20は口唇部が外側に折り返されている。21、22は口唇部が外側に肥厚し、段が作出される例である。横位の撫糸文が施されている。23は平縁で、補修孔が見られる。24、25、26は脇部に屈曲が見られる例である。24は無文の部分が見られる。27は撫糸文を地文とし、沈線文により文様が構成される例である。35は底部破片で、擦痕が施されている。

#### （3）石器・石製品

縄文時代の石器は石鏃、楔形石器、楔形石器剝片、剥片、碎片、石斧、磨石、敲石、石皿、礫石器といった器種が検出された。石鏃、楔形石器などの石材は、チャート、安山岩が多く、次いで黒曜石が使用される。少量だが、メノウも含んでいる。敲石、磨石、礫石器などの石材は砂岩などが主体である。石製品は、滑石製の琰状耳飾であると考えられる。これらは、いずれも縄文早期後葉の茅山下層式～茅山上層式期のものと考えられ、炉穴とその周辺に展開する礫群に伴って出土している。石器の基礎的なデータは表に掲載した。内容の重複を避けるため、ここでは全体の概略のみを記すこととする。

#### 有舌尖頭器・石鏃（第26図、図版9）

未製品、欠損品を含めて25点が出土している。1は有舌尖頭器である。004古墳周溝から出土している。2～19は石鏃である。2～10は基部の抉りが浅いタイプである。6～8は長軸が比較的短いが、幅が他の例と比較して極端に違うわけではないことから、先端部が欠損したために、再加工して長軸を短くした可能性がある。11、12は、基部の抉りが比較的深いタイプである。12は脚部が欠損している。13、14は先端が欠損した例で、基部を始めとして全体が未調整のままであり、製作中に破損したものと考えられる。15～18は未製品である。13は両側と基部が、14は両側のみの加工が行われている。15は、全体にわたり剝離が施



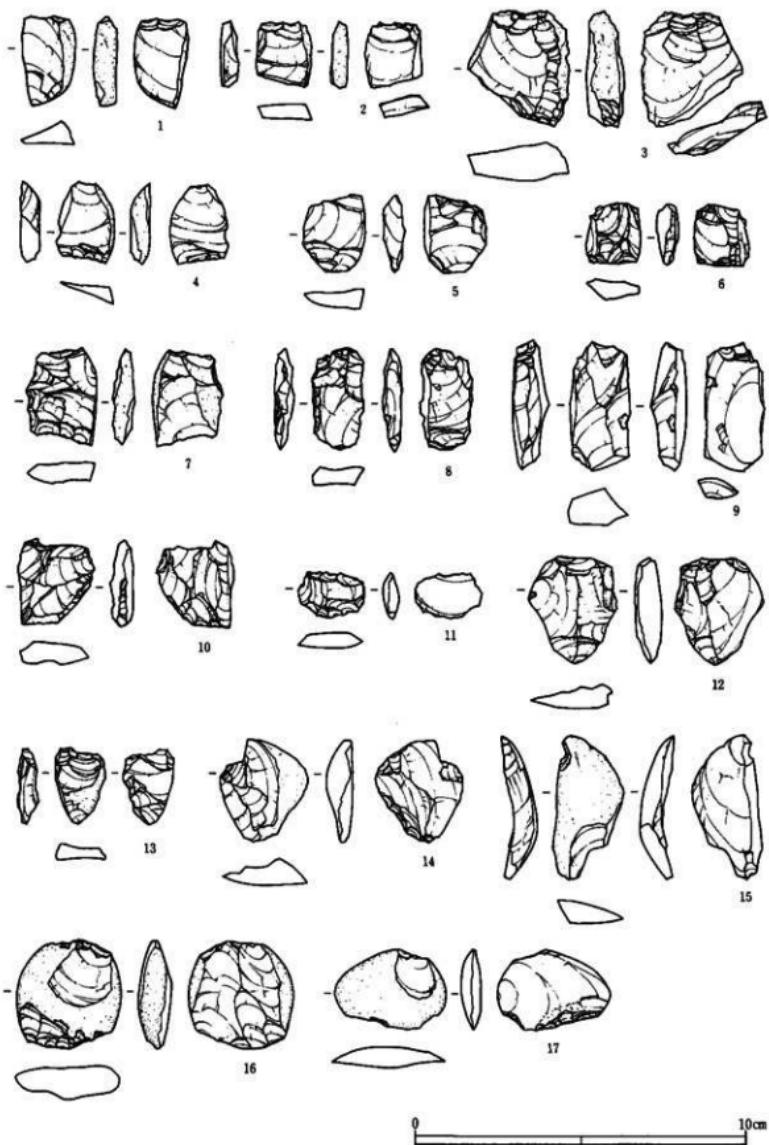
第26図 繩文時代石器 (1)

されている。15、18は自然面が残されている。自然面のカーブが急であることから、比較的小型の礫を素材としていると考えられる。19は脚部が欠損している。

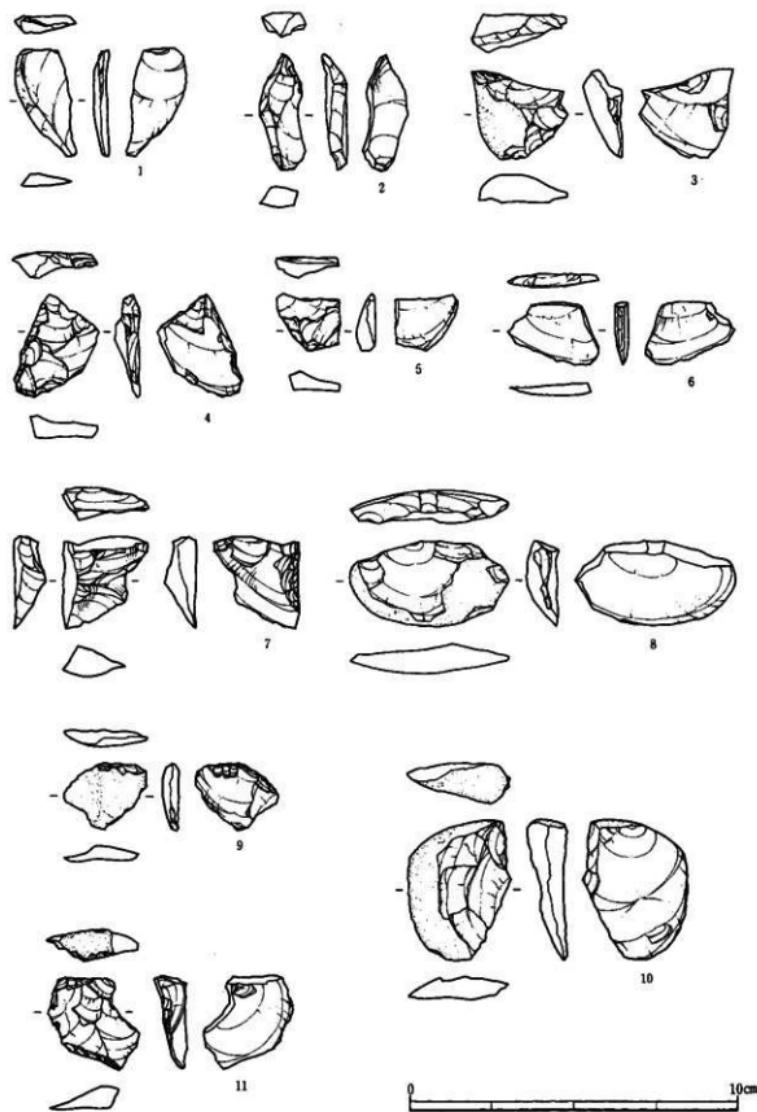
これらの製品、未製品などの状態から、全体の成形を行った後に、側縁、基部の順で調整を行っているものと考えられる。

#### 楔形石器（第27図、図版10）

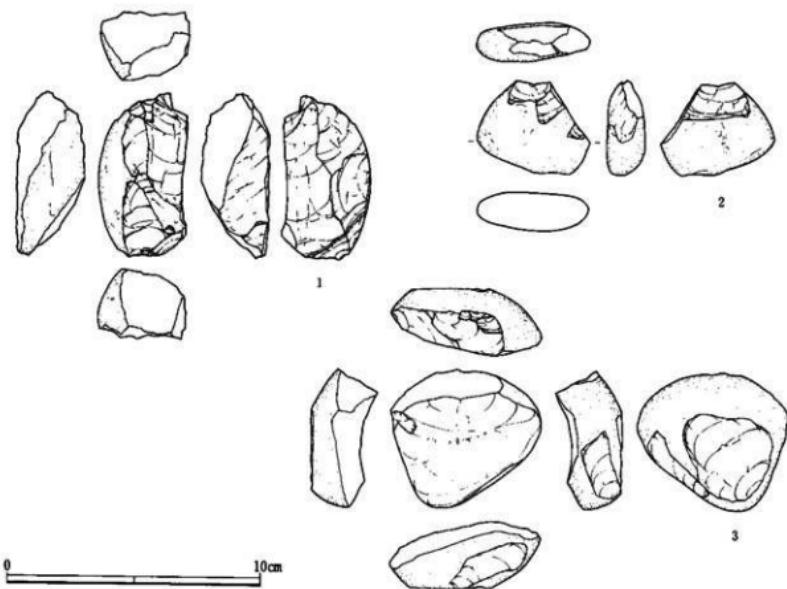
楔形石器に分類されるものが43点出土している。両極剥離技法を用いて礫を素材として製作されている例がほとんどで、石材は多くがチャート、安山岩で、わずかだが黒曜石も含まれる。自然面を残す例が多く、素材のほとんどが小礫であると考えられる。4、7の下部、7、8、11、13、14には側縁に微細な調



第27図 繩文時代石器 (2)



第28図 繩文時代石器 (3)



第29図 繩文時代石器 (4)

整痕が確認できる。1～9のように、形態的に楔形を呈するもの、12～17のように製作技法として両極剥離技法を用い、得られた剝片に微細な調整を施したものなどが見られる。

#### 楔形石器剝片 (第28図1～5、図版10)

両極剥離技法が行われる段階で得られた剝片である。17点がここに分類される。楔形石器が製作される過程で生産されるものと考えられる。明確に両極剥離技法との関連が指摘できないものについては、単純に剝片として分類しているため、剝片として分類した中にも、ここに属する資料が存在する可能性がある。剝片 (第28図6～11、図版10)

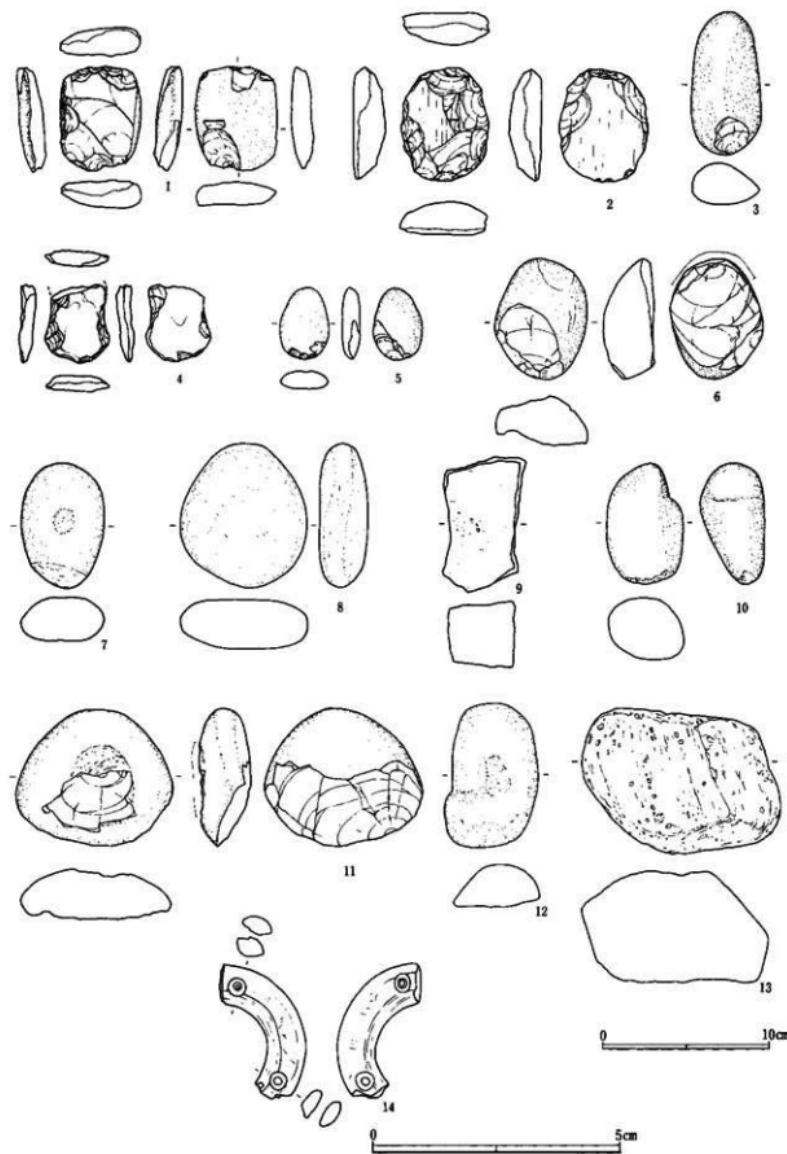
剝片は160点検出された。剝片と碎片の区別は形態などで分類するのが難しいことから、全長が1cm以上のものを剝片とし、それ未満のものについて碎片として扱った。

#### 石核 (第29図、図版11)

1、2はチャート、3は安山岩を石材としている。基本的には上下方向からの剥離が主で、3についてわずかに横方向からの剥離が見られる。

#### 石斧、敲石、石皿、礫石器 (第30図、図版11)

上記以外の石器をここに示した。1、2、4は打製石斧である。3、5、6は礫石器である。6は一部に磨痕が見られ、磨石として使用された痕跡が見られる。7、8は磨石である。7は側面と端部に、8は



第30図 繩文時代石器 (5)・石製品

扁平な円礫の側面と周縁に磨痕が見られる。9は石皿の破片である。10~12は敲石である。11は側面に敲打痕が、側面と下端に強い敲打に伴う剝離が見られる。13は軽石である。

#### 石製品（第30図、図版11）

14は、滑石製の块状耳飾りである。1/3のみ遺存している。使用時に破損したものと見られ、破損した端部に穴が穿たれており、補修孔として開けられたものか、垂飾として再利用するために開けられたものと考えられる。端部は破損した状態のままである。断面は丸みを帯びた6角形を呈し、表面には擦痕が残されている。

### 4 磨群と石器の分布（第31図～第33図）

#### （1）概要

調査区北西部から、磨群が検出されている。土器の分布域や炉穴の分布域と重複することから、縄文時代早期茅山下層式～茅山上層式のものであると考えられる。通常、磨群の分析は、グリッドごとの重量による平面的な分布密度を捉えたり、磨群の重量度数分布を示すといったことが行われるが、今回は、調査区が狭細であり、水道管の埋設などによる擾乱を受けていることから、各グリッドごとのデータが均一性に欠けており、これらの方では十分な成果を出せないと考えられたため、単純にドット図による磨群の分布図を示すこととした。

磨群が集中した範囲について、上段には磨群と土器片の分布、下段には石器の分布を示した。磨群は、完形のものと破碎されたものがあるが、すべて同一に扱った。土器片は条痕文系土器のものに限定し、破片の大小等は区別せずに図を作成した。遺構については、アウトラインのみ示し、詳細は第2節と重複するため省略した。石器の器種については、凡例に示したとおりである。9か所に確認トレンチが設けられており、それらのうち7か所のトレンチ出土の磨群については一括で取り上げたため、ドット図を作成することができなかったため、トレンチの位置を示し、数字にTを付けて、10T、12Tなどを示した。遺構内出土の遺物については、明示しなかったが、磨群との関係については適宜本文中で示すこととする。分布範囲が東西に長いことから、記述の便宜を図るために、1区～4区の4区画に区分して記述を行う。

#### （2）分布状況

##### 1区（第31図）

磨群、土器とともに分布に疎密が見られ、それぞれ異なった集中を示すことが分かる。

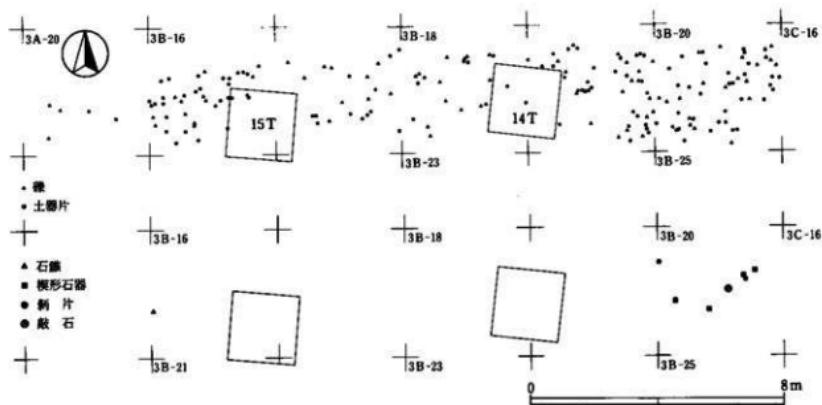
1区における磨群、土器の分布は散漫で、特徴などは見られない。石器の分布としては、3B-20に小さな集中が見られ、楔形石器、敲石、剝離片により構成されている。

##### 2区（第32図）

###### 1) 磨群、土器の分布状況

遺物の集中が顕著になるとともに、幾つかの炉穴が検出されており、それらとの関連が注目される。005炉穴周辺からは、土器が集中して検出される一方、磨群の分布密度は薄い。遺構内からも土器がまとまって出土している。007については、磨群の分布密度が比較的高いが、一方で土器の量は決して多くはない。これら、遺物の多い遺構に対し、008～010は磨群との関係が薄いと考えられる。

一方、遺構と直接関係しない磨群の集中地点が見られる。3C-18には、直径約2mの大きさで、磨群が強



第31図 繩文時代縄群と遺物出土状況（1区）

く集中している地点を見ることができる。この範囲には、礫の量と比較して土器片が少ない。また、この礫集中地点に隣接する確認トレンチからも多量の礫が検出されていることから、同様な集中地点が存在したことが推測される。3C-20、3C-25、3D-21の隣接する3つのグリッドからも礫集中地点がそれぞれ観察される。3C-18のものと比較すると、集中は散漫で、全体的に礫の量が多いといった様子である。

## 2) 石器の分布状況

005炉穴付近に石錐、楔形石器、楔形石器剝片、磨石といった器種によって構成された小さな一群が、3D-21ポイントを中心としたあたりには、剝片、楔形石器を中心にし、石錐、楔形石器剝片、礫器といった器種で構成される大きな一群がそれぞれ見られる。特に後者は規模が大きく、3D-17にまで及ぶ。

礫、土器の分布と、石器の分布を比較すると、3C-18の礫集中地点には石器の分布がほとんど見られず、隣接する005炉穴付近や007炉穴付近に分布が見られるのに対し、3C-20、3C-25、3D-21の集中地点においてはほとんど重複して石器が分布するという特徴が見られる。

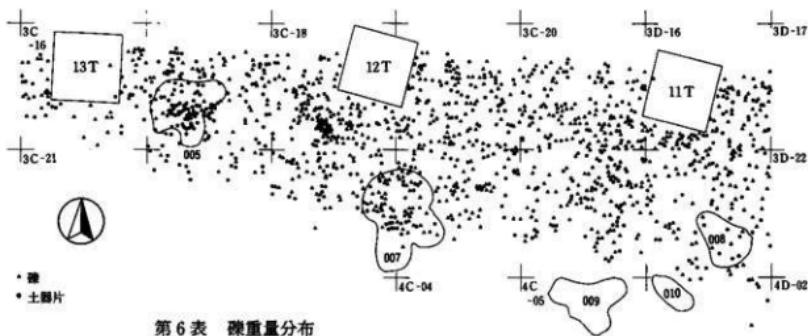
## 3区（第32図）

### 1) 矢、土器の分布状況

3区には、当該期の遺構は見られないが、礫、土器とも最も多く広範囲に分布している。4E-01、4D-05にそれぞれ集中地点が見られる。特に4D-05の例が大規模で、直径約4mに及ぶ。これら集中地点には、やはり土器片の分布は少なく、むしろその西側に散漫にではあるが分布している。

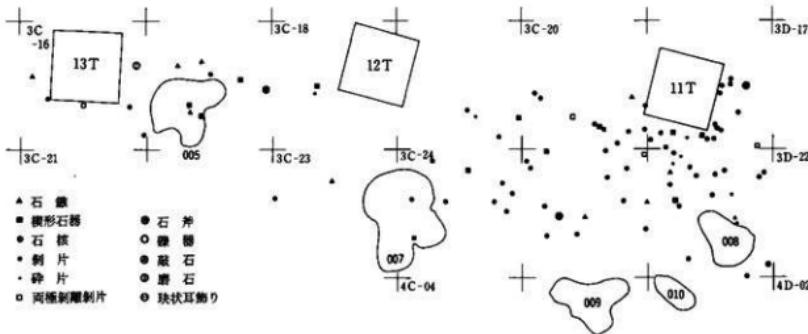
### 2) 石器の分布状況

4D-04に石錐、楔形石器、楔形石器剝片、剝片、礫器といった器種組成の一群、3D-24に礫器、敲石、剝片といった器種組成の一群が、そして4E-02に敲石、磨石、楔形石器といった組成の一群がそれ

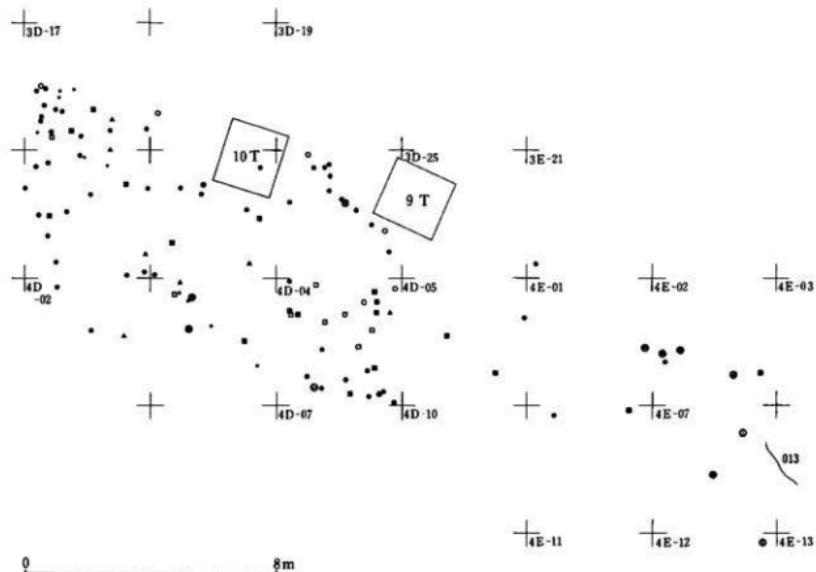
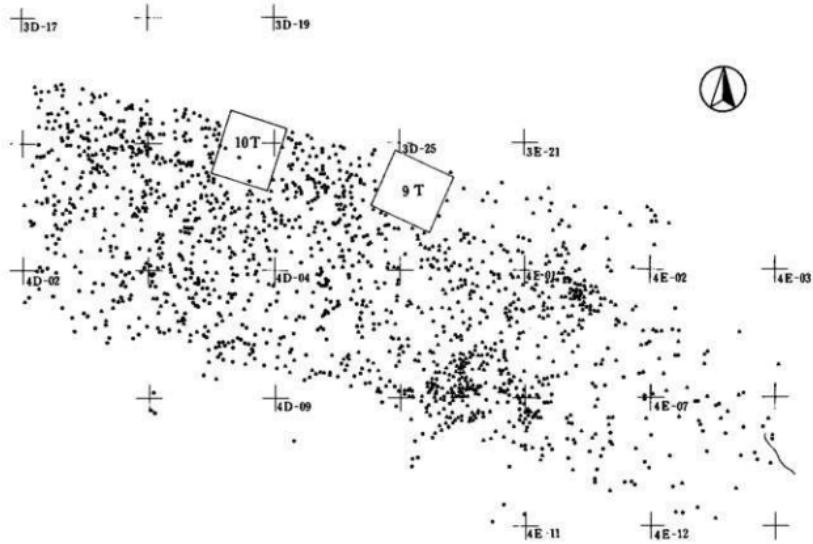


第6表 碳重量分布

(上段は破碎礫、下段は全体の重量)



第32図 繩文時代礫群と遺物出土状況（2区：左，3区：右）



それ見られる。4D-04に見られる一群は、楔形石器、楔形石器剝片が約4m四方の範囲に集中して検出されている。また、玦状耳飾りも伴出している。4D-04、3D-24に見られる集中地点と、3D-21を中心とした集中地点との間には石器が散漫に分布しており、境界が見出せない。

3区においては、疊の集中地点と石器の集中地点が明確に分かれる傾向にある。特に疊の集中する4D-04、3D-24といったグリッドには、石器が際立って少ない。さらに疊の集中地点の西に隣接する4D-04に石器の集中地点が見られる。また、疊集中地点の東側に敲石、磨石が集中する地点が見られるのも特徴の一つといえよう。

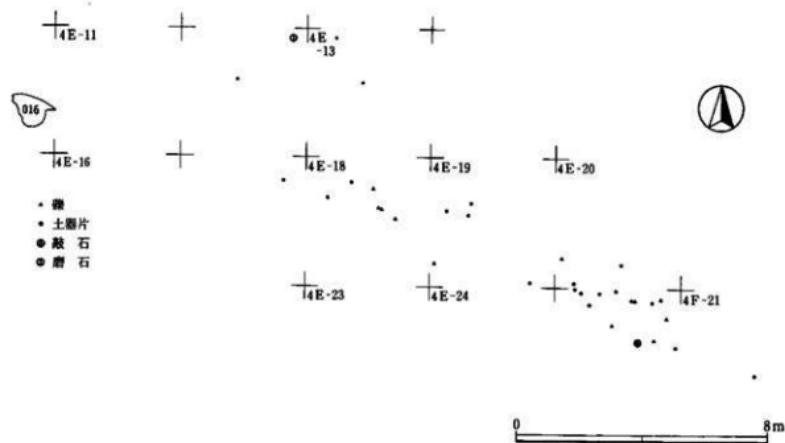
#### 4区（第33図）

図示してはいないが、3区と4区の間には水道管が埋設されており、攪乱を受けていた。そのために両区の分布の関係や、遺構との関係を明確にすることはできなかった。石鐵、楔形石器などは検出されておらず、疊、土器とともに散漫に分布している。わずかに敲石、磨石1点ずつが見られるのみである。

##### （3）疊群と石器分布との関係

これまで、それぞれの遺物の分布の概略を述べてきたが、それによって、次のような特徴を見て取ることができる。  
①疊が高密度に集中する地点には、土器、石器が少ない。  
②疊が高密度に集中する地点には石器の集中地点が隣接する傾向にある。  
③石器集中地点には楔形石器を主体とした集中地点と、疊石器、敲石を主体とした集中地点が見られる。  
④散漫に疊が集中する地点には、石器、土器がやはり散漫に集中する傾向にある。

これらの特徴を総合すると、小さく、高密度の疊集中地点のパターンと広範囲で散漫な疊集中地点のパターンが存在していることが窺える。



第33図 縄文時代疊群と遺物出土状況（4区）

第4表 繩文時代石器属性表(1)

## 石核属性表

| No. | 遺物番号      | 埋因番号 | 遺存状況 | 長さ   | 幅    | 厚さ   | 重量(g) | 石材  |
|-----|-----------|------|------|------|------|------|-------|-----|
| 1   | 002-6     | 12   | 欠損   | 25.5 | 15.1 | 4.6  | 1.2   | 馬鹿石 |
| 2   | 014-14    | 1    | 完形   | 44.2 | 19.0 | 6.1  | 5.0   | 安山岩 |
| 3   | 014-3     | 13   | 完形   | 15.0 | 12.2 | 4.0  | 0.7   | 馬鹿石 |
| 4   | 017-4     | 14   | 未製   | 15.2 | 15.5 | 6.1  | 1.3   | チート |
| 5   | 297-2     | —    | 欠損   | 15.4 | 13.1 | 3.8  | 0.5   | 安山岩 |
| 6   | 27-2      | 9    | 完形   | 25.6 | 20.4 | 3.2  | 1.3   | 安山岩 |
| 7   | 3B-16-1   | 18   | 未製   | 20.6 | 14.3 | 4.7  | 1.5   | チート |
| 8   | 3C-16-73  | —    | 欠損   | 20.8 | 14.5 | 5.0  | 1.0   | 安山岩 |
| 9   | 3C-17-173 | 10   | 完形   | 14.9 | 15.1 | 4.7  | 0.7   | 安山岩 |
| 10  | 3C-17-68  | 8    | 完形   | 29.0 | 18.5 | 5.8  | 2.9   | チート |
| 11  | 3C-17-91  | 19   | 未・欠  | 20.2 | 14.0 | 4.0  | 0.8   | 安山岩 |
| 12  | 3C-20-27  | 6    | 完形   | 27.5 | 19.9 | 5.7  | 1.5   | 安山岩 |
| 13  | 3C-23-98  | 2    | 完形   | 19.4 | 8.5  | 2.9  | 0.4   | 安山岩 |
| 14  | 3C-25-113 | —    | 欠損   | 23.8 | 15.2 | 5.7  | 1.8   | 安山岩 |
| 15  | 3D-25-99  | 4    | 未製   | 26.6 | 20.4 | 9.1  | 3.8   | チート |
| 16  | 3D-29-69  | —    | 未製   | 21.0 | 14.7 | 5.0  | 1.1   | 安山岩 |
| 17  | 3D-21-131 | 5    | 完形   | 25.9 | 16.4 | 4.6  | 1.4   | 安山岩 |
| 18  | 3D-21-79  | 3    | 完形   | 25.5 | 17.6 | 6.8  | 2.7   | 安山岩 |
| 19  | 3D-22-184 | —    | 欠損   | 17.4 | 14.7 | 5.4  | 1.4   | モノク |
| 20  | 3D-22-9   | —    | 未製   | 21.2 | 18.2 | 3.6  | 1.4   | 頁岩  |
| 21  | 3D-23-198 | 16   | 未製   | 32.0 | 19.0 | 7.3  | 4.9   | 安山岩 |
| 22  | 4D-02-44  | 7    | 完形   | 33.4 | 23.8 | 6.4  | 5.3   | チート |
| 23  | 4D-03-91  | —    | 欠損   | 38.3 | 17.7 | 10.9 | 7.4   | 頁岩  |
| 24  | 4D-04-67  | 17   | 未製   | 25.4 | 22.8 | 7.1  | 4.0   | チート |
| 25  | TT-2      | 11   | 完形   | 27.6 | 15.2 | 7.8  | 3.4   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 29.6 | 15.8 | 5.9  | 3.7   | 頁岩  |
|     |           |      |      | 28.0 | 17.5 | 6.1  | 2.3   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 33.2 | 37.1 | 10.6 | 14.4  | 安山岩 |
|     |           |      |      | 22.5 | 10.0 | 9.9  | 2.2   | 馬鹿石 |
|     |           |      |      | 40.4 | 21.5 | 13.8 | 11.5  | チート |
|     |           |      |      | 35.0 | 30.9 | 11.2 | 6.5   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 19.7 | 16.8 | 5.3  | 2.6   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 20.5 | 21.7 | 3.7  | 6.5   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 19.4 | 20.0 | 7.7  | 3.3   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 21.4 | 25.6 | 8.4  | 4.5   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 16.0 | 17.3 | 6.0  | 1.3   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 16.5 | 12.2 | 6.3  | 1.9   | チート |
|     |           |      |      | 36.5 | 20.5 | 9.1  | 6.5   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 18.3 | 18.3 | 7.8  | 2.5   | チート |
|     |           |      |      | 22.5 | 19.0 | 6.7  | 2.6   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 24.0 | 17.6 | 5.6  | 2.3   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 34.3 | 19.1 | 10.7 | 7.7   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 18.2 | 16.1 | 6.8  | 2.3   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 23.1 | 18.1 | 6.3  | 3.0   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 26.1 | 19.3 | 9.2  | 4.9   | 頁岩  |
|     |           |      |      | 22.8 | 16.9 | 6.8  | 2.6   | チート |
|     |           |      |      | 17.6 | 19.8 | 9.2  | 2.9   | 馬鹿石 |
|     |           |      |      | 27.0 | 14.5 | 11.3 | 5.7   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 13.4 | 19.7 | 4.8  | 1.5   | 頁岩  |
|     |           |      |      | 15.3 | 25.4 | 4.3  | 2.2   | チート |
|     |           |      |      | 15.6 | 24.5 | 8.4  | 3.2   | 頁岩  |
|     |           |      |      | 22.7 | 14.9 | 5.8  | 1.8   | 頁岩  |
|     |           |      |      | 42.2 | 21.4 | 6.7  | 6.5   | チート |
|     |           |      |      | 16.2 | 19.9 | 5.4  | 0.9   | 頁岩  |
|     |           |      |      | 32.6 | 31.5 | 9.8  | 12.0  | チート |
|     |           |      |      | 17.8 | 18.1 | 4.7  | 4.6   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 30.2 | 25.9 | 7.6  | 4.8   | チート |
|     |           |      |      | 28.7 | 21.0 | 7.0  | 1.3   | 安山岩 |
|     |           |      |      | 31.2 | 36.8 | 7.6  | 5.5   | チート |

## 楔形石器剥片属性表

| No. | 遺物番号      | 埋因番号 | 器種     | 長さ   | 幅    | 厚さ   | 重量(g) | 石材  |
|-----|-----------|------|--------|------|------|------|-------|-----|
| 1   | 009-3     | —    | 楔形石器剥片 | 17.7 | 19.7 | 6.6  | 2.1   | チート |
| 2   | 1T-2      | —    | 楔形石器剥片 | 23.2 | 16.8 | 9.1  | 3.4   | チート |
| 3   | 3B-20-93  | —    | 楔形石器剥片 | 32.9 | 17.0 | 5.4  | 2.8   | 安山岩 |
| 4   | 3C-16-6   | —    | 楔形石器剥片 | 30.7 | 28.8 | 6.4  | 5.5   | 安山岩 |
| 5   | 3C-19-65  | 2    | 楔形石器剥片 | 35.3 | 13.5 | 6.0  | 2.8   | 頁岩  |
| 6   | 3C-20-167 | 1    | 楔形石器剥片 | 33.0 | 19.0 | 5.0  | 2.1   | 安山岩 |
| 7   | 3C-25-122 | —    | 楔形石器剥片 | 16.2 | 15.2 | 5.6  | 1.3   | 安山岩 |
| 8   | 3D-16-104 | —    | 楔形石器剥片 | 22.8 | 13.2 | 4.8  | 1.4   | 頁岩  |
| 9   | 3D-17-63  | —    | 楔形石器剥片 | 19.3 | 21.2 | 9.2  | 3.1   | 安山岩 |
| 10  | 4D-03-108 | —    | 楔形石器剥片 | 24.0 | 16.0 | 4.0  | 1.4   | 頁岩  |
| 11  | 4D-04-30  | 3    | 楔形石器剥片 | 27.4 | 29.0 | 11.8 | 6.2   | チート |
| 12  | 4D-04-114 | 4    | 楔形石器剥片 | 33.0 | 16.0 | 9.7  | 5.3   | 安山岩 |
| 13  | 4D-04-115 | 4    | 楔形石器剥片 | 30.5 | 26.5 | 7.8  | 3.9   | チート |
| 14  | 4D-04-118 | —    | 楔形石器剥片 | 24.0 | 23.2 | 4.9  | 2.4   | 砂岩  |
| 15  | 4D-04-140 | —    | 楔形石器剥片 | 45.0 | 40.0 | 7.0  | 14.0  | チート |
| 16  | 4D-04-148 | 5    | 楔形石器剥片 | 17.2 | 19.3 | 6.3  | 1.9   | 安山岩 |
| 17  | 4E-12-6   | —    | 楔形石器剥片 | 15.8 | 23.8 | 6.0  | 1.7   | 頁岩  |

## 石核属性表

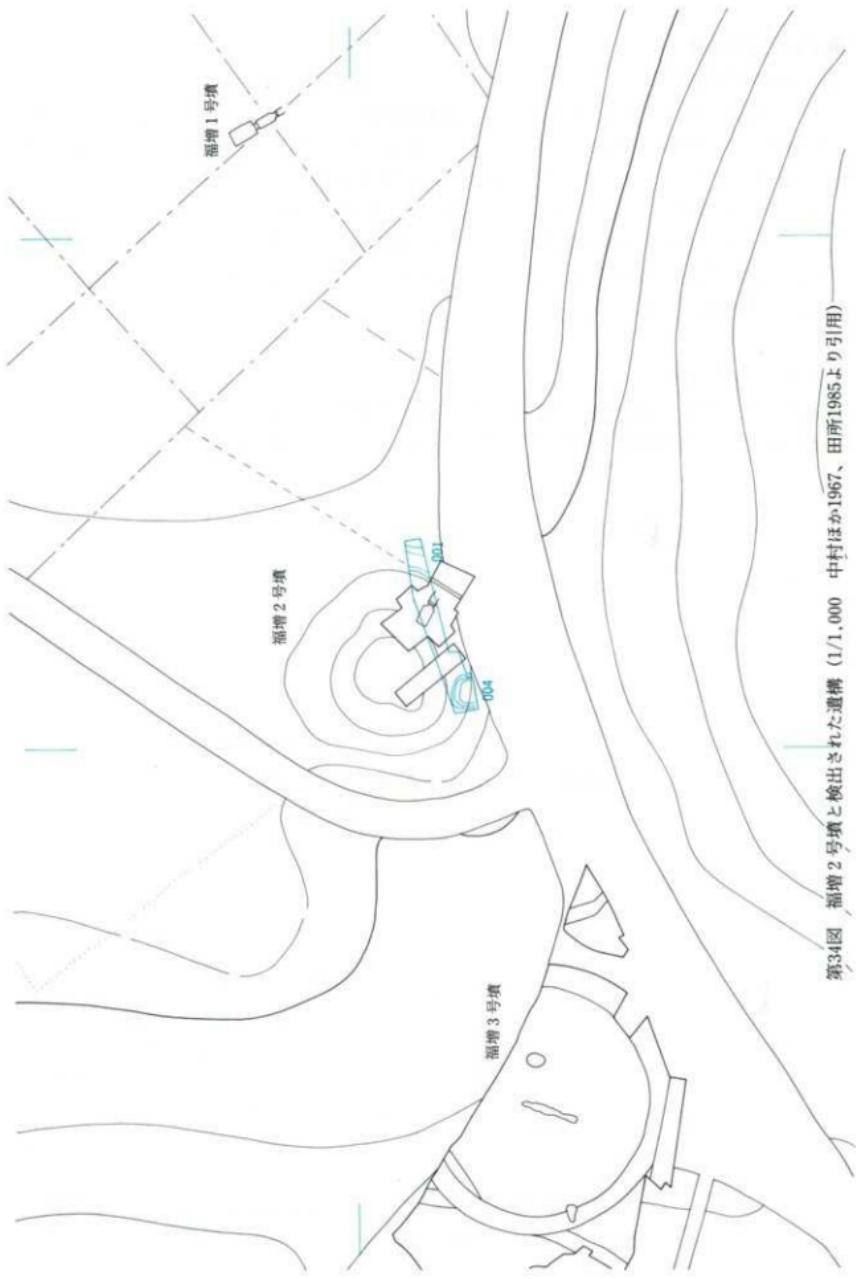
| No. | 遺物番号      | 埋因番号 | 器種 | 長さ   | 幅    | 厚さ   | 重量(g) | 石材  |
|-----|-----------|------|----|------|------|------|-------|-----|
| 1   | 004-14    | —    | 石核 | 30.2 | 33.4 | 16.3 | 19.4  | チート |
| 2   | 014-5     | —    | 石核 | 25.8 | 34.0 | 14.5 | 10.8  | 安山岩 |
| 3   | 5T-2      | 2    | 石核 | 38.0 | 44.9 | 15.2 | 31.4  | チート |
| 4   | 3C-17-195 | —    | 石核 | 18.7 | 27.0 | 11.2 | 6.7   | チート |
| 5   | 3C-17-195 | —    | 石核 | 26.5 | 26.4 | 10.0 | 8.5   | チート |
| 6   | 3D-21-1   | 1    | 石核 | 64.3 | 34.7 | 27.0 | 67.6  | チート |
| 7   | 3D-23-158 | 3    | 石核 | 53.7 | 60.3 | 26.1 | 78.5  | 安山岩 |
| 8   | 4D-04-157 | —    | 石核 | 47.3 | 39.6 | 26.9 | 74.4  | チート |

## 石斧・敲石・磨石・石刀属性表

| No. | 遺物番号      | 埋因番号 | 器種   | 長さ   | 幅   | 厚さ | 重量(g) | 石材      |
|-----|-----------|------|------|------|-----|----|-------|---------|
| 1   | 001-3     | 4    | 打製石斧 | 47   | 39  | 10 | 16.2  | 片岩      |
| 2   | 005-1     | 13   | 敲石製品 | 86   | 120 | 68 | 162.9 | 鰐岩      |
| 3   | 005-6     | —    | 敲石   | 36   | 20  | 10 | 10.5  | 安山岩     |
| 4   | 011-24    | —    | 敲石   | 92   | 74  | 32 | 303.8 | 砂岩      |
| 5   | 1T-2      | —    | 擦擦   | 48   | 25  | 16 | 22.8  | 凝灰岩     |
| 6   | 3B-20-16  | —    | 敲石   | 45   | 44  | 19 | 57.2  | 砂岩      |
| 7   | 3C-16-66  | 8    | 磨石   | 86   | 76  | 29 | 279.4 | 砂岩      |
| 8   | 3C-17-13  | —    | 打製石斧 | 51   | 52  | 14 | 43.8  | 片岩      |
| 9   | 3C-25-152 | 1    | 打製石斧 | 64   | 48  | 17 | 65.6  | 泥岩      |
| 10  | 3D-16-117 | 2    | 打製石斧 | 68   | 53  | 19 | 85.6  | チカルフェルス |
| 11  | 3D-17-58  | 5    | 擦擦   | 43   | 30  | 11 | 17.3  | チカルフェルス |
| 12  | 3D-18-20  | —    | 擦擦   | 67   | 39  | 36 | 115.0 | チート     |
| 13  | 3D-24-175 | —    | 敲石   | 52   | 42  | 17 | 50.8  | 砂岩      |
| 14  | 3D-24-30  | —    | 擦擦   | 48   | 56  | 21 | 65.4  | 砂岩      |
| 15  | 3D-24-56  | 3    | 擦擦   | 86   | 41  | 27 | 135.1 | 砂岩      |
| 16  | 4D-03-59  | —    | 敲石   | 70   | 60  | 26 | 140.7 | 凝灰岩     |
| 17  | 4D-03-83  | —    | 敲石   | 73.5 | 70  | 47 | 325.1 | 砂岩      |
| 18  | 4D-04-132 | 6    | 擦擦   | 72   | 56  | 30 | 145.1 | 砂岩      |
| 19  | 4D-04-38  | —    | 敲石   | 65   | 61  | 40 | 218.7 | 砂岩      |
| 20  | 4D-04-43  | —    | 敲石   | 25   | 40  | 15 | 17.4  | 安山岩     |
| 21  | 4E-01-34  | —    | 敲石   | 109  | 72  | 56 | 580.0 | 砂岩      |
| 22  | 4E-02-16  | —    | 敲石   | 61   | 59  | 47 | 177.2 | 砂岩      |
| 23  | 4E-02-33  | 12   | 敲石   | 81   | 95  | 31 | 268.6 | 砂岩      |
| 24  | 4E-02-6   | —    | 敲石   | 87   | 66  | 46 | 378.9 | 砂岩      |
| 25  | 4E-07-12  | 9    | 石皿   | 81   | 50  | 40 | 251.9 | 凝灰岩     |
| 26  | 4E-07-14  | 11   | 敲石   | 72   | 45  | 39 | 164.6 | 砂岩      |
| 27  | 4E-12-4   | 7    | 磨石   | 74   | 50  | 28 | 162.5 | 安山岩     |
| 28  | 4E-25-13  | 10   | 敲石   | 85   | 58  | 28 | 174.4 | 砂岩      |

第5表 繩文時代石器属性表(2)

| 縄文時代石器属性表 |            |     |    |      |      |      | 縄文時代石器属性表 |      |     |           |           |    |      |      |      |       |      |     |
|-----------|------------|-----|----|------|------|------|-----------|------|-----|-----------|-----------|----|------|------|------|-------|------|-----|
| No        | 遺物番号       | 標因号 | 御種 | 長さ   | 幅    | 厚さ   | 重量(g)     | 石材   | No  | 遺物番号      | 標因号       | 御種 | 長さ   | 幅    | 厚さ   | 重量(g) | 石材   |     |
| 1         | 001-2      | —   | 刮片 | 18.0 | 31.7 | 9.3  | 3.7       | 黑曜石  | 81  | 3D-17-89  | —         | 砂片 | 3.8  | 5.3  | 1.7  | 0.0   | 黑曜石  |     |
| 2         | 002-6      | —   | 刮片 | 8.7  | 23.1 | 7.9  | 1.1       | 黑曜石  | 82  | 3D-17-91  | —         | 刮片 | 17.8 | 6.2  | 3.5  | 0.4   | 黑曜石  |     |
| 3         | 004-14     | —   | 刮片 | 30.4 | 53.0 | 8.8  | 7.2       | チャート | 83  | 3D-17-93  | —         | 刮片 | 9.8  | 6.3  | 4.0  | 0.2   | 黑曜石  |     |
| 4         | 006-14     | —   | 刮片 | 14.7 | 26.3 | 3.2  | 1.2       | 安山岩  | 84  | 3D-17-95  | —         | 刮片 | 13.0 | 9.2  | 2.1  | 0.2   | チャート |     |
| 5         | 019-11     | —   | 刮片 | 12.5 | 22.0 | 3.8  | 0.6       | メノウ  | 85  | 3D-17-96  | —         | 刮片 | 9.7  | 8.4  | 2.1  | 0.2   | チャート |     |
| 6         | 019-5      | —   | 刮片 | 20.5 | 44.0 | 2.5  | 0.6       | チャート | 86  | 3D-17-97  | —         | 刮片 | 8.2  | 5.9  | 2.2  | 0.2   | 安山岩  |     |
| 7         | 6T-2       | —   | 刮片 | 28.0 | 27.7 | 9.3  | 5.0       | チャート | 87  | 3D-17-98  | —         | 刮片 | 8.0  | 7.1  | 2.2  | 0.1   | チャート |     |
| 8         | 6T-2       | 11  | 刮片 | 28.0 | 27.7 | 9.3  | 5.0       | チャート | 88  | 3D-17-99  | —         | 刮片 | 7.4  | 6.0  | 1.6  | 0.1   | チャート |     |
| 9         | 18T-1      | —   | 刮片 | 5.0  | 14.0 | 3.9  | 0.2       | 黑曜石  | 89  | 3D-18-53  | —         | 刮片 | 15.2 | 7.7  | 1.7  | 0.3   | 安山岩  |     |
| 10        | 18T-1      | —   | 刮片 | 5.0  | 14.0 | 3.9  | 0.2       | 黑曜石  | 90  | 3D-21-106 | —         | 砂片 | 7.0  | 5.5  | 1.5  | 0.0   | 黑曜石  |     |
| 11        | 21T-2      | 6   | 刮片 | 18.5 | 27.2 | 3.9  | 1.7       | 黑曜石  | 91  | 3D-21-108 | —         | 刮片 | 3.7  | 10.5 | 1.6  | 0.0   | 黑曜石  |     |
| 12        | 21T-2      | —   | 刮片 | 18.5 | 27.2 | 3.9  | 1.7       | 黑曜石  | 92  | 3D-21-108 | —         | 刮片 | 9.6  | 8.5  | 2.3  | 0.2   | 黑曜石  |     |
| 13        | 21T-2      | —   | 砂片 | 7.9  | 5.2  | 2.1  | 0.1       | 黑曜石  | 93  | 3D-21-121 | —         | 刮片 | 8.1  | 14.8 | 4.3  | 0.4   | チャート |     |
| 14        | 21T-2      | —   | 砂片 | 4.6  | 7.4  | 2.6  | 0.1       | 黑曜石  | 94  | 3D-21-122 | —         | 刮片 | 16.3 | 7.1  | 5.1  | 0.4   | 安山岩  |     |
| 15        | 24T-2      | —   | 刮片 | 25.0 | 44.5 | 11.2 | 2.5       | 黒曜石  | 95  | 3D-21-129 | —         | 刮片 | 5.6  | 10.8 | 2.7  | 0.2   | 黒曜石  |     |
| 16        | 24T-2      | —   | 刮片 | 25.0 | 44.5 | 11.2 | 2.5       | 黒曜石  | 96  | 3D-21-137 | —         | 刮片 | 12.2 | 25.2 | 2.1  | 0.4   | 安山岩  |     |
| 17        | 3C-14-139  | —   | 刮片 | 15.0 | 22.0 | 4.4  | 0.7       | 安山岩  | 97  | 3D-21-142 | —         | 刮片 | 7.2  | 3.1  | 1.8  | 0.1   | 安山岩  |     |
| 18        | 3B-20-38   | 7   | 刮片 | 27.6 | 5.9  | 9.1  | 3.4       | 0.0  | 黑曜石 | 98        | 3D-21-147 | —  | 刮片   | 14.1 | 10.0 | 2.3   | 0.2  | 黒曜石 |
| 19        | 3B-20-77   | —   | 刮片 | 11.2 | 21.5 | 4.0  | 0.5       | チャート | 99  | 3D-21-155 | —         | 刮片 | 13.9 | 17.3 | 6.7  | 1.7   | 黒曜石  |     |
| 20        | 3C-16-49   | —   | 刮片 | 15.5 | 21.2 | 1.8  | 0.4       | 安山岩  | 100 | 3D-21-156 | —         | 刮片 | 14.9 | 15.6 | 6.3  | 0.8   | 黒曜石  |     |
| 21        | 3C-16-51   | —   | 刮片 | 18.5 | 23.1 | 3.9  | 1.1       | 黒曜石  | 101 | 3D-21-56  | —         | 刮片 | 11.9 | 9.6  | 3.7  | 0.3   | 黒曜石  |     |
| 22        | 3C-16-84   | —   | 刮片 | 12.8 | 10.3 | 2.0  | 0.1       | 安山岩  | 102 | 3D-21-74  | —         | 刮片 | 11.1 | 4.6  | 2.2  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 23        | 3C-17-195  | —   | 刮片 | 23.6 | 27.2 | 6.3  | 3.9       | チャート | 103 | 3D-21-77  | —         | 砂片 | 5.1  | 3.2  | 1.2  | 0.0   | 黒曜石  |     |
| 24        | 3C-17-95   | —   | 刮片 | 13.5 | 10.6 | 2.7  | 0.3       | チャート | 104 | 3D-21-80  | —         | 砂片 | 3.9  | 6.6  | 1.3  | 0.0   | 黒曜石  |     |
| 25        | 3C-18-137  | —   | 刮片 | 14.1 | 12.5 | 3.1  | 0.6       | 安山岩  | 105 | 3D-21-91  | —         | 刮片 | 7.8  | 7.8  | 2.5  | 0.1   | 黄碧玉  |     |
| 26        | 3C-18-50   | —   | 砂片 | 5.0  | 6.3  | 1.0  | 0.0       | 黒曜石  | 106 | 3D-21-96  | —         | 刮片 | 9.6  | 13.6 | 3.6  | 0.3   | 黒曜石  |     |
| 27        | 3C-19-101  | 1   | 刮片 | 26.7 | 47.5 | 9.5  | 12.0      | 安山岩  | 107 | 3D-22-104 | —         | 刮片 | 14.2 | 7.2  | 3.6  | 1.4   | チャート |     |
| 28        | 3C-19-111  | 8   | 刮片 | 25.9 | 48.7 | 9.7  | 12.0      | 安山岩  | 108 | 3D-22-115 | —         | 刮片 | 8.1  | 7.4  | 3.1  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 29        | 3C-19-148  | —   | 刮片 | 6.0  | 6.2  | 1.5  | 0.1       | 安山岩  | 109 | 3D-22-130 | —         | 刮片 | 8.2  | 6.0  | 0.9  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 30        | 3C-19-150  | —   | 砂片 | 5.3  | 6.2  | 1.5  | 0.1       | 安山岩  | 110 | 3D-22-134 | —         | 刮片 | 13.4 | 15.9 | 5.2  | 0.8   | 黒曜石  |     |
| 31        | 3C-19-152  | —   | 刮片 | 8.6  | 14.5 | 2.3  | 0.4       | 安山岩  | 111 | 3D-22-135 | —         | 刮片 | 12.0 | 10.9 | 3.3  | 0.4   | 安山岩  |     |
| 32        | 3C-20-102  | —   | 刮片 | 8.1  | 4.3  | 1.3  | 0.1       | 黒曜石  | 112 | 3D-22-144 | —         | 刮片 | 11.2 | 13.7 | 3.0  | 0.3   | 安山岩  |     |
| 33        | 3C-20-103  | —   | 刮片 | 11.3 | 15.6 | 4.2  | 0.7       | 黒曜石  | 113 | 3D-22-149 | —         | 砂片 | 7.6  | 7.3  | 1.7  | 0.1   | チャート |     |
| 34        | 3C-20-110  | —   | 刮片 | 8.4  | 11.0 | 3.0  | 0.2       | 安山岩  | 114 | 3D-22-170 | —         | 刮片 | 13.2 | 6.0  | 3.9  | 0.2   | 黒曜石  |     |
| 35        | 3C-20-112  | —   | 刮片 | 13.4 | 17.8 | 3.4  | 0.6       | 黒曜石  | 115 | 3D-22-179 | —         | 砂片 | 5.7  | 4.4  | 0.7  | 0.0   | 安山岩  |     |
| 36        | 3C-20-113  | —   | 刮片 | 8.4  | 6.1  | 1.2  | 0.1       | 安山岩  | 116 | 3D-22-182 | —         | 刮片 | 10.1 | 6.6  | 2.1  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 37        | 3C-20-150  | —   | 刮片 | 8.3  | 7.5  | 4.3  | 0.3       | 安山岩  | 117 | 3D-22-183 | —         | 刮片 | 9.5  | 11.1 | 1.6  | 0.2   | 安山岩  |     |
| 38        | 3C-20-37   | —   | 刮片 | 19.0 | 16.4 | 3.4  | 1.9       | 安山岩  | 118 | 3D-22-214 | —         | 刮片 | 12.0 | 13.7 | 2.5  | 0.4   | チャート |     |
| 39        | 3C-23-8    | —   | 刮片 | 46.5 | 68.5 | 10.5 | 39.9      | 安山岩  | 119 | 3D-22-228 | —         | 刮片 | 25.7 | 9.1  | 6.2  | 0.2   | 砂岩   |     |
| 40        | 41-100-103 | —   | 刮片 | 26.1 | 32.2 | 3.9  | 1.9       | 安山岩  | 120 | 3D-22-233 | —         | 刮片 | 10.9 | 8.1  | 1.3  | 0.1   | チャート |     |
| 41        | 4C-24-104  | —   | 刮片 | 17.5 | 22.2 | 2.0  | 0.1       | 黒曜石  | 121 | 3D-22-95  | —         | 刮片 | 11.7 | 7.1  | 2.2  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 42        | 4C-24-115  | —   | 刮片 | 10.5 | 8.0  | 6.2  | 0.4       | 黒曜石  | 122 | 3D-22-131 | —         | 刮片 | 9.0  | 15.1 | 3.2  | 0.4   | 安山岩  |     |
| 43        | 4C-24-121  | —   | 刮片 | 31.9 | 19.6 | 3.5  | 2.1       | 安山岩  | 123 | 3D-23-165 | —         | 刮片 | 20.8 | 14.3 | 4.0  | 1.3   | 安山岩  |     |
| 44        | 4C-24-122  | —   | 刮片 | 9.5  | 17.8 | 1.9  | 0.3       | 安山岩  | 124 | 3D-23-176 | —         | 刮片 | 28.4 | 19.0 | 8.1  | 4.5   | 安山岩  |     |
| 45        | 4C-24-128  | —   | 刮片 | 11.1 | 13.0 | 1.6  | 0.2       | 黒曜石  | 125 | 3D-23-190 | —         | 刮片 | 10.3 | 7.8  | 5.0  | 0.4   | チャート |     |
| 46        | 4C-24-74   | —   | 刮片 | 16.7 | 12.4 | 4.2  | 0.7       | 安山岩  | 126 | 3D-23-208 | —         | 刮片 | 11.8 | 10.0 | 3.5  | 0.4   | 安山岩  |     |
| 47        | 4C-24-88   | —   | 刮片 | 24.3 | 13.7 | 5.7  | 1.9       | 黒曜石  | 127 | 3D-23-214 | —         | 刮片 | 14.3 | 15.1 | 1.5  | 0.4   | 安山岩  |     |
| 48        | 3C-25-100  | —   | 刮片 | 21.8 | 21.5 | 3.2  | 1.8       | 安山岩  | 128 | 3D-24-104 | —         | 刮片 | 7.5  | 9.2  | 1.3  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 49        | 3C-25-105  | —   | 刮片 | 30.6 | 26.8 | 6.5  | 6.1       | 安山岩  | 129 | 3D-24-121 | —         | 刮片 | 28.7 | 14.3 | 4.3  | 1.6   | 砂岩   |     |
| 50        | 3C-25-107  | —   | 刮片 | 21.8 | 22.4 | 5.5  | 2.9       | チャート | 130 | 3D-24-131 | —         | 刮片 | 27.2 | 13.3 | 9.3  | 3.2   | 安山岩  |     |
| 51        | 3C-25-112  | —   | 刮片 | 30.0 | 21.1 | 8.8  | 4.9       | 安山岩  | 131 | 3D-24-160 | —         | 刮片 | 29.4 | 31.1 | 5.5  | 5.0   | チャート |     |
| 52        | 3C-25-119  | —   | 刮片 | 19.4 | 14.2 | 3.0  | 0.9       | 安山岩  | 132 | 3D-24-173 | —         | 刮片 | 14.5 | 19.0 | 2.0  | 0.4   | チャート |     |
| 53        | 3C-25-140  | —   | 刮片 | 18.1 | 12.2 | 2.9  | 0.6       | 安山岩  | 133 | 3D-24-197 | —         | 刮片 | 13.6 | 12.8 | 3.7  | 0.8   | 安山岩  |     |
| 54        | 3C-25-154  | —   | 刮片 | 8.1  | 7.7  | 1.5  | 0.1       | 安山岩  | 134 | 3D-24-197 | —         | 刮片 | 5.7  | 6.5  | 1.3  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 55        | 3C-25-155  | —   | 刮片 | 5.0  | 19.8 | 4.0  | 0.4       | 安山岩  | 135 | 3D-24-202 | —         | 刮片 | 8.5  | 9.1  | 2.2  | 0.2   | 安山岩  |     |
| 56        | 3C-25-48   | —   | 刮片 | 12.4 | 9.5  | 1.9  | 0.2       | チャート | 136 | 3D-24-214 | —         | 刮片 | 10.8 | 16.3 | 3.7  | 0.6   | 黒曜石  |     |
| 57        | 3C-25-50   | —   | 刮片 | 15.0 | 15.0 | 3.0  | 0.7       | チャート | 137 | 3D-24-45  | —         | 刮片 | 21.0 | 17.5 | 1.8  | 0.8   | 粘板岩  |     |
| 58        | 3D-16-105  | —   | 刮片 | 12.1 | 8.1  | 1.6  | 0.2       | 安山岩  | 138 | 3D-24-91  | —         | 刮片 | 19.8 | 17.0 | 2.6  | 0.6   | 粘板岩  |     |
| 59        | 3D-16-113  | —   | 刮片 | 16.2 | 12.9 | 4.2  | 0.7       | 安山岩  | 139 | 3E-21-3   | —         | 刮片 | 7.1  | 12.5 | 3.2  | 0.3   | チャート |     |
| 60        | 3D-16-23   | —   | 刮片 | 11.0 | 10.5 | 8.9  | 1.1       | 安山岩  | 140 | 3D-42-99  | —         | 刮片 | 9.8  | 6.5  | 2.0  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 61        | 3D-16-27   | —   | 刮片 | 14.5 | 17.0 | 4.2  | 0.1       | チャート | 141 | 4D-04-6   | —         | 刮片 | 13.0 | 28.6 | 11.5 | 3.0   | 黒曜石  |     |
| 62        | 3D-16-31   | —   | 刮片 | 12.0 | 15.4 | 3.9  | 0.8       | 安山岩  | 142 | 4D-03-112 | —         | 砂片 | 5.7  | 6.5  | 1.3  | 0.1   | チャート |     |
| 63        | 3D-16-41   | —   | 刮片 | 24.1 | 16.5 | 2.9  | 1.8       | チャート | 143 | 4D-04-119 | —         | 砂片 | 6.0  | 7.0  | 1.7  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 64        | 3D-16-48   | —   | 刮片 | 19.8 | 18.0 | 2.1  | 2.2       | チャート | 144 | 4D-03-20  | —         | 砂片 | 7.6  | 8.1  | 1.1  | 0.1   | 黒曜石  |     |
| 65        | 3D-16-51   | 9   | 刮片 | 19.8 | 18.0 | 2.1  | 2.2       | チャート | 145 | 4D-03-134 | —         | 砂片 | 2.2  | 6.9  | 0.7  | 0.0   | 黒曜石  |     |
| 66        | 3D-16-57   | —   | 砂片 | 5.3  | 5.3  | 0.8  | 0.0       | 黒曜石  | 146 | 4D-03-153 | —         | 砂片 | 5.9  | 4.4  | 1.2  | 0.0   | チャート |     |
| 67        | 3D-16-70   | —   | 刮片 | 11.6 | 8.7  | 2.0  | 0.2       | 安山岩  | 147 | 4D-04-105 | —         | 刮片 | 17.7 | 10.2 | 5.0  | 0.6   | 安山岩  |     |
| 68        | 3D-16-78   | —   | 刮片 | 10.3 | 8.0  | 2.8  | 0.2       | 安山岩  | 148 | 4D-04-110 | —         | 刮片 | 8.0  | 6.5  | 1.2  | 0.1   | 安山岩  |     |
| 69        | 3D-16-81   | —   | 刮片 | 16.8 | 10.5 | 6.5  | 1.1       | 安山岩  | 149 | 4D-04-141 | —         | 刮片 | 12.7 | 10.7 | 3.0  | 0.5   | 安山岩  |     |
| 70        | 3D-16-85   | —   | 刮片 | 18.7 | 13.6 | 4.5  | 0.9       | 砂岩   | 150 | 4D-04-146 | —         | 刮片 | 39.5 | 27.3 | 7.8  | 8.4   | 安山岩  |     |
| 71        | 3D-16-86   | —   | 刮片 | 27.9 | 26.2 | 4.4  | 2.9       | 砂岩   | 151 | 4D-04-155 | —         | 刮片 | 11.3 | 10.9 | 2.0  | 0.3   | チャート |     |
| 72        | 3D-16-95   | —   | 刮片 | 7.7  | 6.0  | 2.1  | 0.1       | 安山岩  | 152 | 4D-04-91  | —         | 刮片 | 19.8 | 13.2 | 4.9  | 1.5   | 安山岩  |     |
| 73        | 3D-16-98   | —   | 刮片 | 6.8  | 9.7  | 1.6  | 0.1       | チャート | 153 | 4D-04-93  | —         | 刮片 | 7.3  | 10.6 | 3.8  | 0.2   | 黒曜石  |     |
| 74        | 3D-17-100  | —   | 刮片 | 4.8  | 4.5  | 0.6  | 0.0       | 黒曜石  | 154 | 4D-04-99  | —         | 刮片 | 16.4 | 14.9 | 4.1  | 1.2   | 安山岩  |     |
| 75        | 3D-17-60   | —   | 刮片 | 9.1  | 11.0 | 2.8  | 0.3       | 安山岩  | 155 | 4D-04-101 | —         | 刮片 | 23.2 | 21.5 | 5.2  | 1.6   | メノウ  |     |
| 76        | 3D-17-73   | —   | 刮片 | 11.6 | 6.7  | 2.2  | 0.2       | 黒曜石  | 156 | 4D-04-103 | —         | 刮片 | 27.6 | 23.0 | 11.0 |       |      |     |



第34図 福増2号墳と検出された遺構 (1/1,000 中村ほか1967、田所1985より引用)

### 第3節 古墳時代

#### 1 概要（第34図）

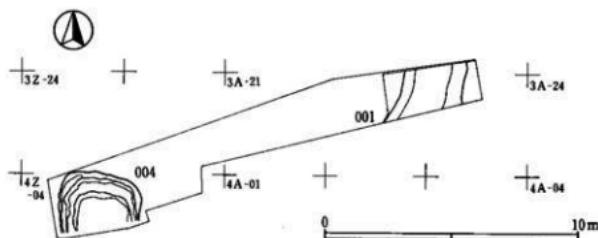
今回の調査区には、1967年に早稲田大学により調査が行われた福増2号墳の墳頂から周溝が含まれることが予想された。調査の結果、2号墳のものと考えられる周溝の一部(001)と、主体部と考えられる遺構(004)が検出された。2号墳には前回の調査の成果により南東に開口する横穴式石室が確認されていることから、2つの主体部をもつ古墳であることが判明した。調査区が狭細であったことや、水道管による擾乱があったため、斜面側の周溝は確認できず、正確な墳形も明らかにはならなかった。

周溝(001)からは、土師器、須恵器が、主体部(004)からは須恵器、土師器、鉄鏃、太刀、刀子、金銅製飾り金具が出土している。

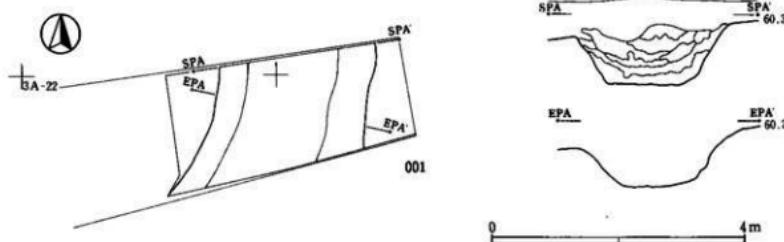
#### 2 遺構

##### 001周溝（第34図～36図）

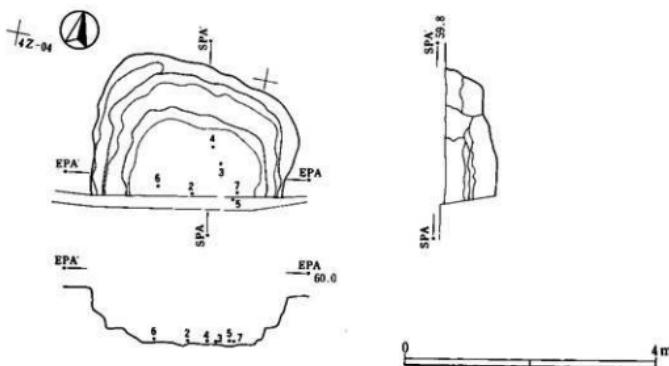
福増2号墳の東側の周溝である。幅3.0m、深さ1.0m、断面形はほぼ逆台形である。ソフトローム上面で確認されており、土層断面の観察から、確認面よりも上部の土層は耕作により擾乱を受けているものと



第35図 福増2号墳の周溝(001)と主体部(004)



第36図 福増2号墳周溝(001)



第37図 福増2号墳主体部(004)

考えられる。そのため、墳丘の痕跡などは確認できなかった。遺構覆土の状況から自然堆積であると考えられる。非常に狭い範囲の調査であるため、明確な平面プランは確認できなかったが、弧を描くことから、円墳であると考えられる。

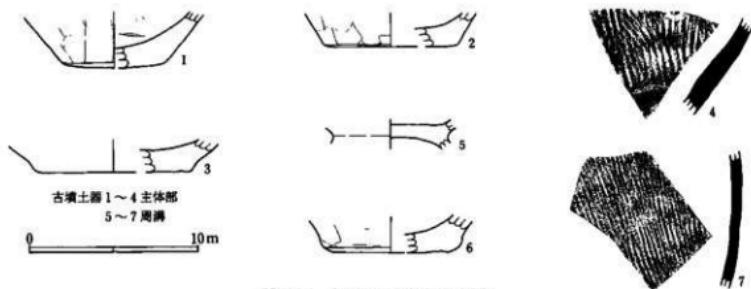
#### 004主体部(第34図～第37図)

調査区の制約によって主体部の北側しか調査することができなかった。墳丘の向きなどから、主体部は南側の周溝に面する墳裾部に設けられていると考えられる。検出された部分は、壁面に段状の中場を持つ隅丸方形の土坑状の掘り方で、北側の上段壁面に沿って白色粘土、ロームブロックを多く混入する土が張り付いたように検出されており、石室の奥壁を支える裏込土が残存しているものと考えられる。底面付近にも同様の土が水平に堆積しており、棺床として埴圧された土の可能性もあるが、この土層中の掘り方底面付近から金属製品が出土しており、遺物がいずれも破片であることから、この位置まで擾乱を受けているものと見た方が妥当であろう。覆土には砂岩ブロックが含まれていることから、砂岩を用いた石室を構築していた可能性が高い。

### 3 遺物

#### 土器(第38図)

1～4は主体部(004)、5～7は周溝(001)から出土した。1は土師器甕の胴部下端から底部で、外面は縦方向のヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。明褐色を呈し、胎土中には赤色粒子、白色粒子を含む。焼成は良好である。底径6.2cmを測る。2は土師器甕の底部付近の破片で、外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。赤褐色を呈し、胎土中には白色粒子を含む。焼成は良好である。底径8cmを測る。3は土師器甕の胴部下端から底部である。外面はナデ、内面はヘラナデによって調べられている。外面は明褐色を呈し、胎土中には白色粒子を多量に含む。焼成は良好である。底径9.1cmを測る。4は須恵器壺類の胴部破片で、外面は叩き目が施され、下端には横方向のヘラケズリが施されることから胴部下位の破片と考えられる。内面は横方向のヘラナデが施される。白灰色を呈し、胎土は緻密で、黒色粒子を含み、焼成は良好である。5は土師器高台付椀の底部付近で、高台端部は欠くものである。内外面ともヨコナデによって調整され、褐色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。6は土師器甕の底部付近の破片で、外面

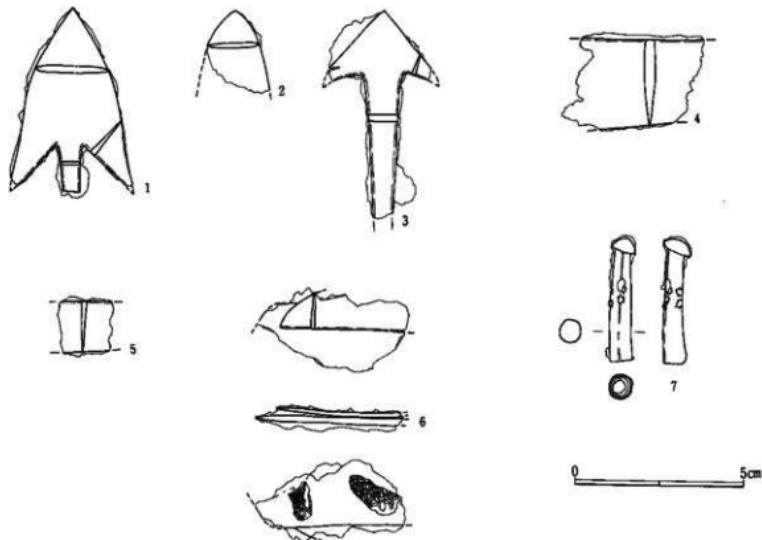


第38図 福増2号墳出土土器

はナデ、内面はヘラナデが施される。褐色を呈し、胎土中には白色針状物質を含む。焼成は良好である。底径8cmを測る。7は須恵器甕の胸部破片で、外面は叩き目が施され、内面は横方向のナデがみられる。外面には褐色の降灰釉が掛かっている。白灰色を呈し、胎土は緻密で、焼成は良好である。

#### 金属製品（第39図）

004からは、7点の金属製品が検出されている。そのうち1～6が鉄製品で、7が金銅製品である。完形品は1点のみで、破片が多いことから、原位置を保っているとは言いたいが、いずれも底面付近からの出土であることから、主体部に伴う遺物であると考えられる。



第39図 福増2号墳出土金属製品

1～3は鉄鎌である。1は現存する全長が57mm、幅35.5mmである。平根式で脇抜が作出されている。2は先端部のみ残存する個体だが、1とほぼ同じ形状のものと考えられる。3は、茎部や逆刺の一部が欠損している個体で、残存部分の全長が60.5mm、幅が30mmである。逆刺が大きく張出しているのが特徴である。

4、5は扁平な鉄製品破片で、片方に刃部が作出されているのが観察される。身幅から4は大刀、5は刀子であると考えられる。4は全長43mm、29.5mmの破片で、鑄は鋳化が進んでいるため明確には確認できない。2は全長17.5mm、幅18.5mmである。

6は刀子の切先部の破片であると考えられる。全長46.5mm、幅22.3mmで、2個体分が鏡により接着しており、欠損が著しいため全容は不明である。片面に布目痕が見られ、平織りであることが確認できる。

7は金銅製品で、全長37.5mm、幅8.5mmの大きさである。薄い銅版を筒状に丸めて形成されており、その一方に半球状のものが接着されている。筒状のほぼ中ほどには径約2mmの穴が2つ一組となり、4組開けられている。図で下位に示した方からは棒状の木質が挿入されている。X線写真によると、針金状のものが木質に絡みつけられているのが観察され、木質と金銅製品とを固定する役割を果たしているものと考えられる。胸部に開けられた穴からは、突起状の鋸が見られ、鋸などが差し込まれていた可能性が考えられる。鍍金の遺存状態は比較的良好が、部分的に緑青や、他の鉄製品のものと見られる鉄鏽が付着している。棒状のものの先端に装着して使用する装飾金具であると推測される。

## 第4節 奈良・平安時代

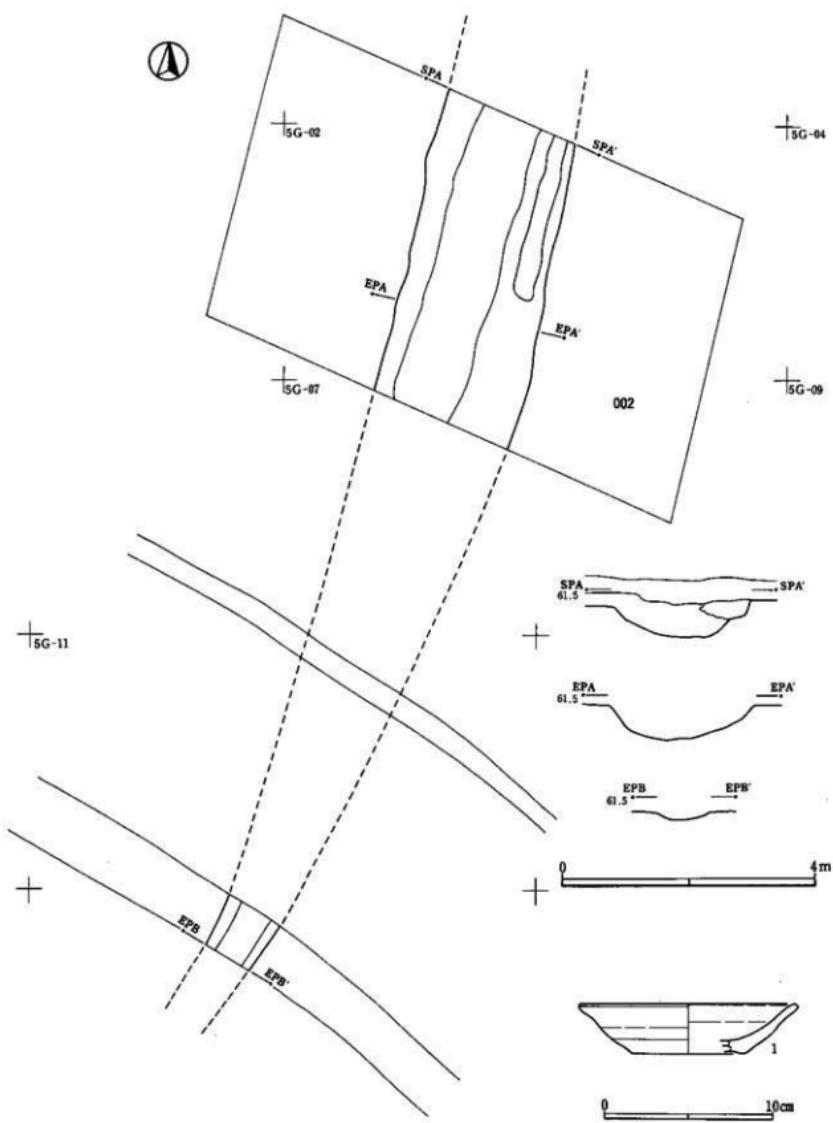
### 1 概要

溝が1条のみ検出されている。性格は不明だが、調査区を横切るように、ほぼ南北に向かって伸びている。

### 2 遺構・遺物

#### 002溝（第40図、図版3）

調査区中央部、5Gグリッドに位置する。北側の平成8年度と平成9年度の調査範囲の間は調査できず、平成9年度の調査区も中央に水道管が通っており、断続的な状態でしか検出できなかった。北側の調査区では幅約2.2m～2.3m、深さは北端で60cm、南端で約50cmを測る。掘込みは、底面は北から南に向かって約7cm下っている。断面形は皿状を呈し、東側側面の北半分では幅約30cm～39cmほどテラス状に段が作出されていた。覆土はローム粒を少量含む黒褐色土を主体とし、東側側壁付近にはローム塊を少量含む暗褐色土が堆積する。南側の調査区では南端を検出したが、幅約80cm～95cm、深さ約10～15cmを測り、北側にくらべてかなり小規模になっており、底面のレベルは約30cm下がっている。N-18°-EからN-29°-Eに向く溝に復元できる。遺物は北側の調査区を中心に土師器が少量出土した。図示できたのは1点のみである。1は土師器皿で、底部回転糸切り離し後、体部下端から底部外面に回転ヘラケズリが施される。明褐色を呈し、胎土中には白色粒子を含む。焼成は普通である。口径12.8cm、底径6.6cm、器高2.9cmを測る。



第40図 奈良・平安時代遺構・遺物 (002)

## 第5節 中近世

### 1 概要

溝が5条、道路跡が1条検出されている。溝はいずれも調査区に一部がかかっているのみで、全容は不明である。道路跡は、現県道の古い姿である。現在とは道筋が若干異なっていることが明らかになった。

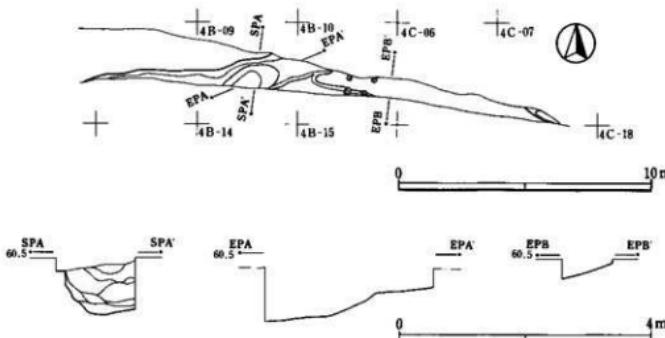
### 2 遺構

#### 011溝（第41図、図版3）

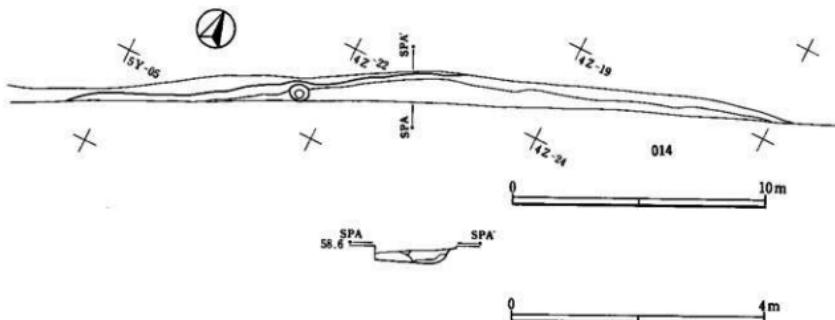
調査区北西部、4B・4Cグリッドに位置し、台地の南端に立地する。東西方向に走る溝であるが、南側は調査範囲外、北側は水道管によって破壊されていた。立ち上がりを検出できたのは西側の幅約1.3m、深さ約20cmの溝で、調査区際では約50cmほど一段深く掘り込まれていた。これはピット状を呈する可能性がある。覆土は大きく2層に分かれ、上層はローム粒を含む黒色土・黒褐色土、下層はローム粒・ローム塊を主体とする層で、下層は埋め戻しがなされた可能性がある。東側は深さ30cmほど皿状に掘り込まれている。底面には直径10cm前後のピットが4か所見られた。東端では深さ30cmほど掘り込まれている。西側の溝とは本来別の遺構かもしれない。

#### 012溝（第43図、図版3）

調査区中央部、6H・7Hグリッドに位置する。南西側は調査区域外、東側は水道管によって切られており、西側の立ち上がりはほとんど検出できなかった。方向は、調査区に沿うように中央やや南東寄りでやや西側に振れており、N-42°-WからN-35°-Wを向いている。幅約70cm～80cm、深さ約30cmを測り、底面には約2m間隔で径約20cm～30cm、深さ約15cm～20cmのピットが並んでいた。覆土はローム粒・ローム塊を含む暗褐色土・黒色土が堆積していた。



第41図 中・近世溝状遺構（011）



第42図 中・近世溝状遺構（014）

#### 014溝（第42図）

調査区北西部、5 Y・4 Zグリッドに位置する。南側は調査区域外、北側は水道管によって切られており、北側の側壁の一部を検出した。底面は比較的平坦で、深さ約24cmを測る。西側側壁に穿たれたピットは径約27cm、深さ約8cmを測る。覆土はローム粒・ローム塊を含む暗褐色土、ローム粒を主体とする黄褐色土を主体とする。

#### 018溝（第43図、図版3）

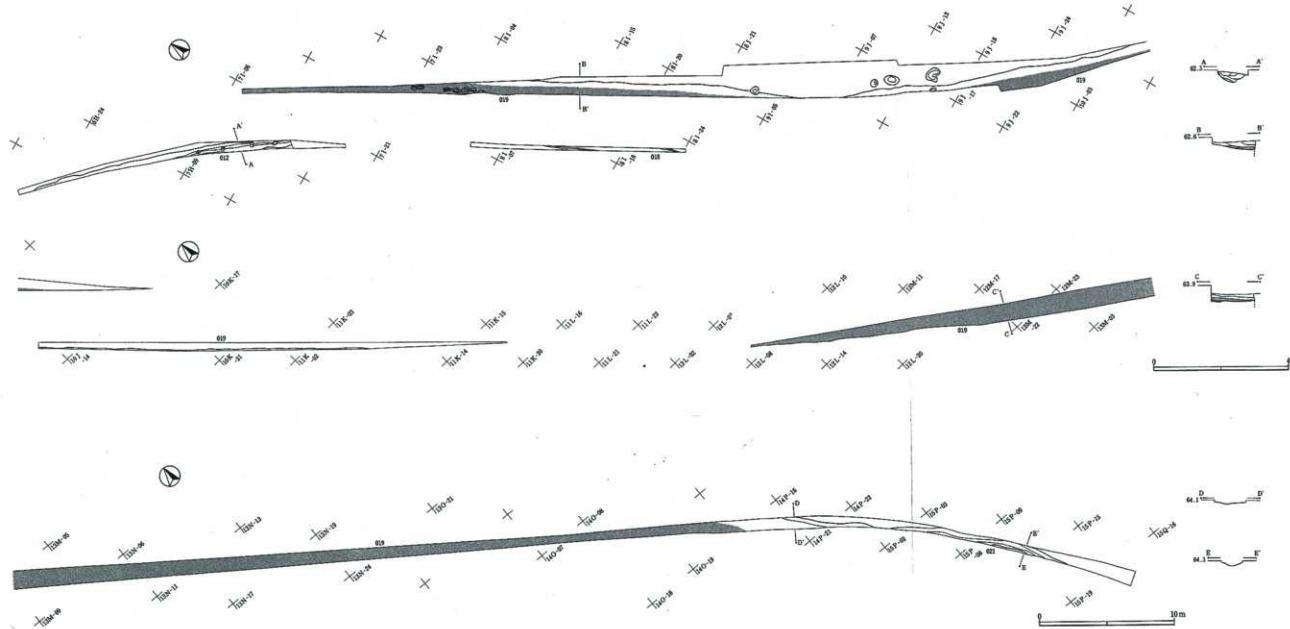
調査区中央部、8 Iグリッドに位置する。南西側は調査区外北東側は水道管によって切られていた。南西壁、北東壁の一部を検出した。幅約70cm～1m、深さ約20cmを測る。底面は平坦で、側壁は比較的急角度で立ち上がる。

#### 019道路跡（第43図、図版3）

調査区中央部から南部にかけて、現道下に沿って検出された道路跡である。中央を通る水道管に切られしており、部分的にしか検出できなかった。幅は5m前後と深さは最大約30cmを測り、緩やかに皿状に掘り込まれている。スクリーントーンで示した範囲は硬化面である。覆土はローム粒を含む暗褐色土、黒色土を主体とし、硬化面は約10cm～15cmの厚さで堆積していた。北側の7 Iグリッド付近では硬化面下から径約30cm～60cm、深さ約4cm～7cmのピットが7基並んで検出された。本道路跡は北側は直線的に伸びて、現道を交差して北西方向に伸びる道路につながり、南側は南側にカーブしているため、現道より西側の尾根上に連なっていくと思われる。

#### 021溝（第43図、図版3）

調査区南部、15Pグリッドに位置する。南西側は調査区域外、北東側は水道管によって切られている。全体的に蛇行しており、南側は南西側に大きくカーブしている。幅約50cm～60cm、深さ約10cmを測る。



第43図 中・近世溝伏道構、道路状遺構 (012, 018, 019, 021)

## 第3章 まとめ

### 第1節 旧石器時代

1か所の単独出土地点と、3か所の石器集中地点が検出されたが、第1地点を除く他の3地点は、南側に開口する谷に面する緩斜面に位置している。これら3地点は、器種組成、石材組成などにおいてそれぞれ異なる特色を見出すことができる。調査区の幅が狭く、かつ、後世の掘削などが及んでいたため、調査環境、遺存状況ともに必ずしも良好な状態とは言えなかつたが、まだ調査例の少ない当該地域の後期旧石器時代を解明する上で貴重な資料を提供することができたことは、重要な成果といえよう。

### 第2節 繩文時代

#### 1 炉穴と礫群、石器集中地点について

縄文時代早期前葉の夏島式土器から晩期後葉の荒海式、千網式土器に至るまで、狭い調査範囲の中からは多岐にわたる時期の土器が検出されたが、遺構が検出されたのは、早期後葉の条痕文系土器の時期に限定される。特に報告中に茅山下層式～上層式としている一群は、炉穴、礫群、石器集中地点を伴っており、最も明確な生活痕跡が検出されている。今回の調査区から検出された礫群は水道管などにより擾乱を受けはいたものの、良好な状態で検出されたため、狭い範囲に限定した分析を行うことができた。その結果をまとめると、概ね次のようになる。1. 炉穴は、礫集中地点とは必ずしも共伴せず、礫を伴うものも、極端に集中するわけではない。2. 直径約2mほどの、小さな礫集中地点と、直径約6mを超える礫集中地点が存在しており、それぞれ土器、石器の集中と相関をもつ。3. 小さな礫集中地点は、その中心に向かって礫が高密度に分布し、土器、石器は礫の集中とは重ならず、隣接する位置に集中して分布する。4. 大きな礫集中地点は、分布が散漫で、土器、石器ともに混在して分布する傾向にある。5. 石器は、器種によって分布の傾向が異なり、楔形石器、楔形石器剝片、剝片、碎片は共伴する傾向にあり、集中地点を形成するのに対し、石錐は調査区全体に散漫に分布する。

炉穴については、当該時期のよく見られる例と同様の様相を呈している。礫集中地点との直接の重複は、積極的には見い出せないことから、基本的には炉穴には礫を用いないものといえる。それと同様に、小さい礫集中地点には、土器、石器はほとんど重複して分布しないことから、小さな礫集中地点はそれらを伴って使用されていないといえる。炉穴が屋外炉、礫群が石焼き料理の痕跡であると想定すると、隣接こそれ共伴しないという検出状況は、それを裏付けるものといえよう。

一方、大きな集中地点の散漫な分布状況は、形成過程を考えると、本来、複数の小さな礫集中地点と石器集中地点が存在したのが、同時期の擾乱により、混じりあってしまったという状況が推測される。炉穴群、礫群がある程度継続的あるいは断続的な時間幅の中で形成されたことが想定され、重複した空間利用が、比較的近い過去の遺構を破壊することは容易に想像できる。

#### 2 楔形石器について

今回の調査では、楔形石器や楔形石器剝片が、剝片、碎片などと共に共伴する傾向があることが確認された。これらの集中地点は、石器製作跡もしくは、石器製作後の残骸を投棄した痕跡であると考えられる。しかし集中地点には、礫を叩く際に用いられるであろう敲石が必ずしも共伴せず、石器製作直後の状態を保つ

ているとは言い難い。

今日における楔形石器の評価は、大別すると、楔のように用いる独立した器種として位置付ける方向と、両極剥離技法による剥片剥取後に残された石核として位置付ける方向の二つがみられる<sup>1)</sup>。調査区内からは、石鐵が比較的まとまって検出されている。楔形石器を石核としてとらえた場合、石鐵製作との関連が推測される。千葉県内では、池向遺跡に代表されるように、これまでにも楔形石器と石鐵製作の関連についての報告がなされている<sup>2)</sup>。福増遺跡においては、分布から見ると両者の間には明確な関連は見出だせないが、両極剥離技法を用いた石鐵製作が行われていた可能性は否定できない。

### 第3節 古墳時代

#### 1 福増古墳群における古墳の名称について

福増古墳群は、市原市文化財センターによって11基の古墳が報告されており<sup>3)</sup>、これまで、1号墳から3号墳について調査が行われている。1967年の調査報告では、1号墳、2号墳測量図において、1号墳が西に、2号墳が東に配されているが、本文中では明らかに、墳丘の残存する西側のものを2号墳、東側の墳丘の失われてしまったものを1号墳としている<sup>4)</sup>。市原市文化財センターによる1985年の報告においては、前出の測量図に準じて、西側を1号墳、東側を2号墳としているが、今回の調査では、西側の墳丘の一部を再調査することになったため、出土遺物や内部構造などの混乱をさけるため、1967年の報告の本文にならい、西側を2号墳とした。

#### 2 主体部について

1967年の調査で検出されている主体部（1号主体部と呼ぶ）は、単室構造の両袖型横穴式石室であった。報告書によると、主体部掘り方の幅は上端が約4.3m、下端が約3.7mで、棺床部の幅は約1mである。それに対し、今回検出された主体部（2号主体部）の幅は、上端が約3.3m、下端（段差部分）が約2.7mと、一回り小さい。しかし、底面の幅は約2mあり、幅1mの棺床部を形成するのには十分な幅であるといえる。これらのことから、2号主体部は、1号主体部と比較して規模はさほど変わらないが、裏込め部分が華奢な構造になっていたと考えられる。主体部の形態は、1号が横穴式石室であることから、同様の構造をもっていたということも考えられるが、箱式石棺であった可能性も否定できない。

主体部から検出された、鉄鐵の時期は、その形状から7世紀前葉～中葉の所産と考えられ、主体部の時期もこの時期に比定されよう。1号主体部の時期も前庭部から出土した須恵器から7世紀と考えられており、両主体部は、それほどの時期差なく構築されたものと考えられる。

注1 岡村 道雄 1995 「ピエス・エスキュー、楔形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』 雄山閣

2 四柳 隆 1995 「第3章 第7節 3 池向遺跡出土の石鐵」『千葉県文化財センター調査報告書 第268集 佐倉池向遺跡』財團法人千葉県文化財センター

3 田所 真 1985 「池ノ谷遺跡・福増遺跡」 財團法人市原市文化財センター

4 中村恵次・安藤鴻基・沼沢豊・滝山昌彦・中司照世 1967 「福増古墳群」『市原市文化財調査報告書第3冊 市原市周辺地域の調査』市原市教育委員会

# 写 真 図 版



第1地点石器出土状況



第3地点石器出土状況



第4地点石器出土状況



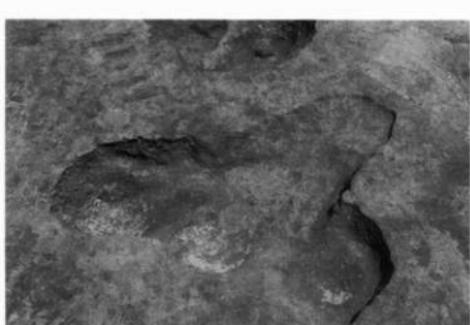
005炉穴



006炉穴



007炉穴



009炉穴



013土坑



015土坑



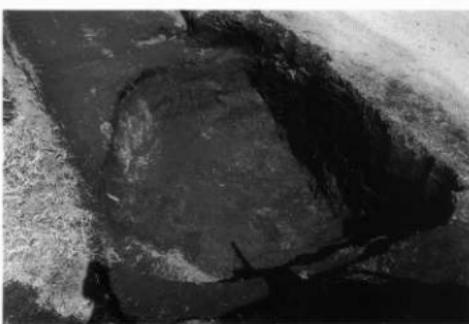
017土坑



001古墳周溝全景



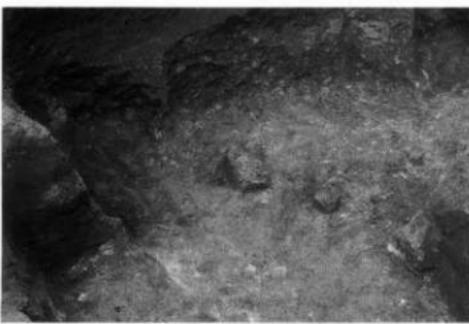
001古墳周溝土層断面



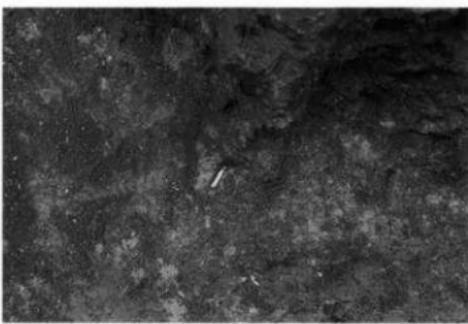
004主体部全景



004主体部全景



004主体部遺物出土状況



004主体部遺物出土状況



002溝



011溝



012溝



018溝



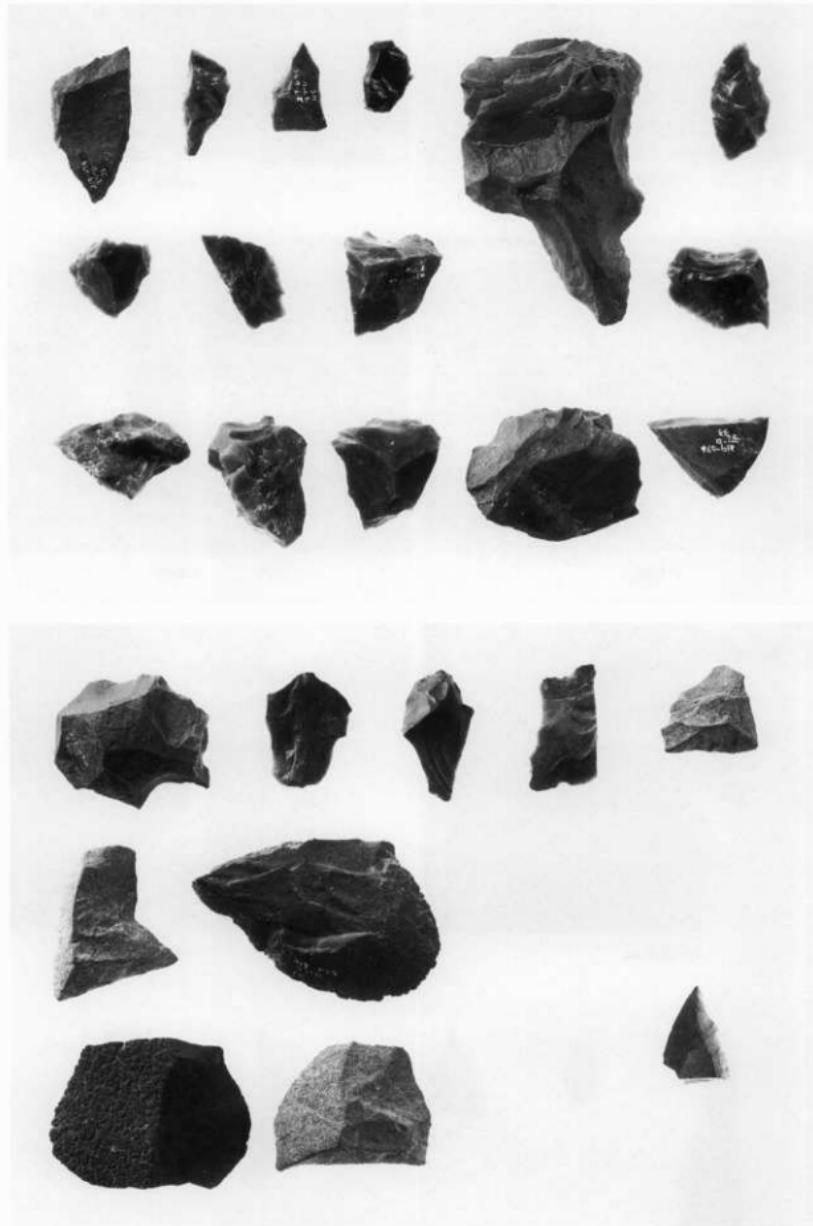
019道路跡



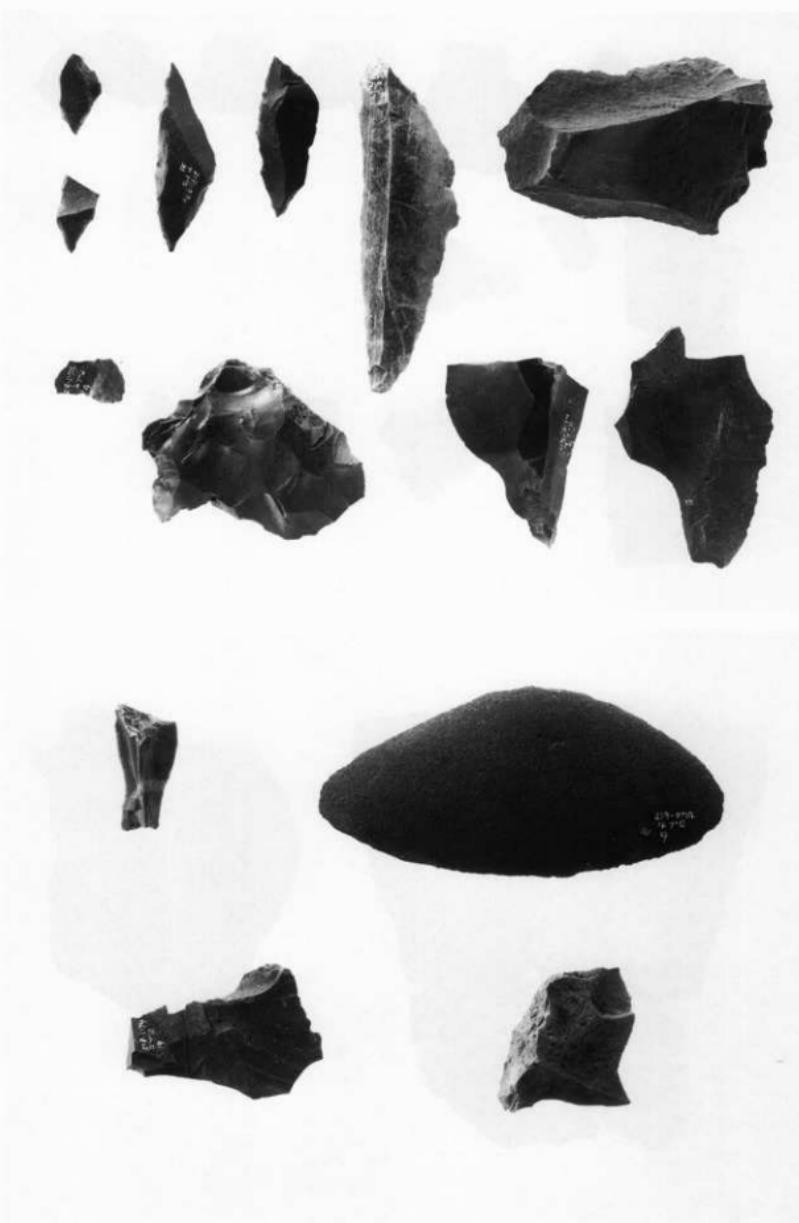
021溝



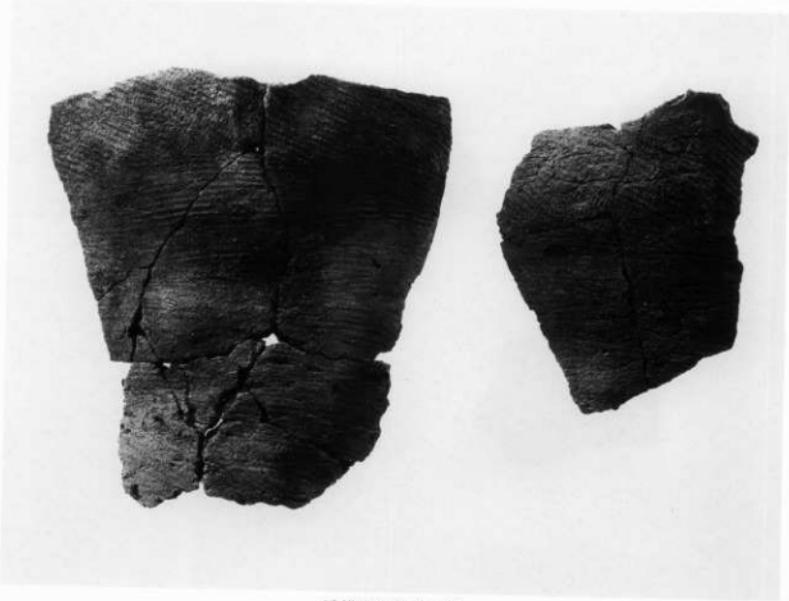
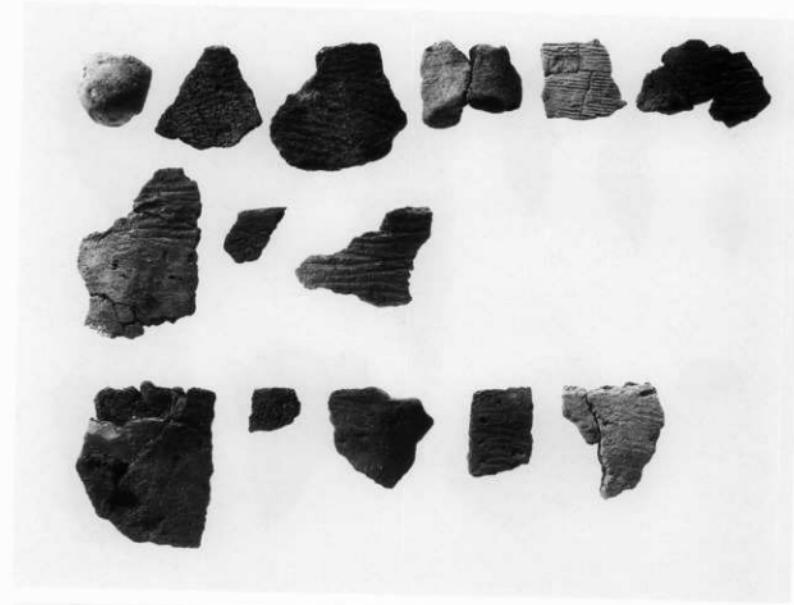
第 2 地点出土石器



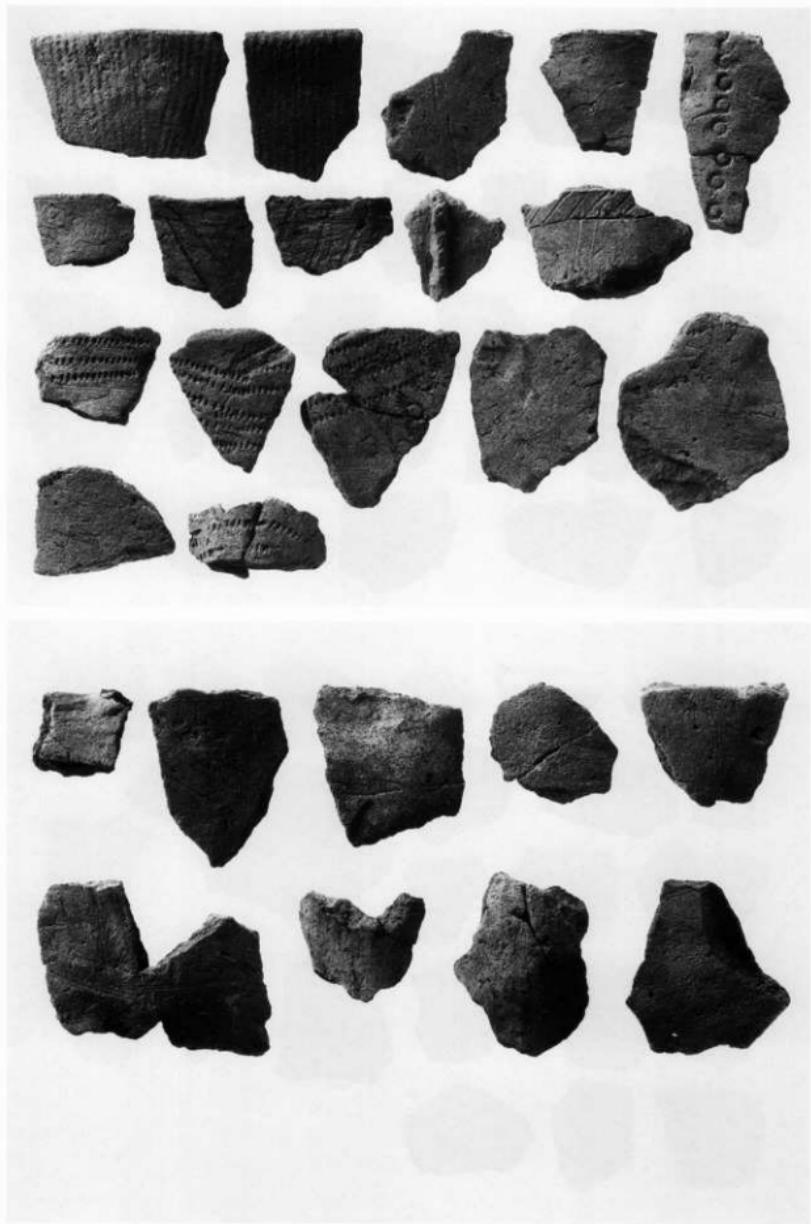
第3地点出土石器・遺構覆土内出土石器



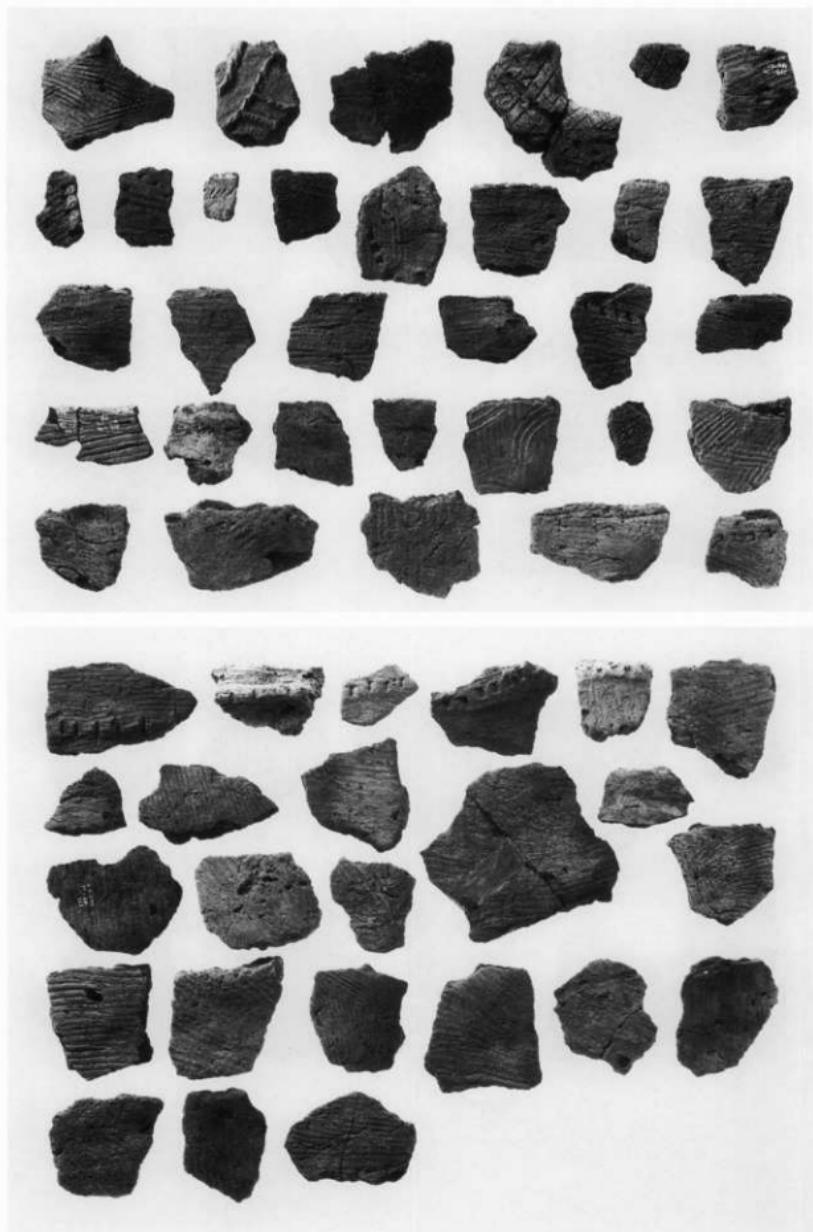
第4地点出土石器



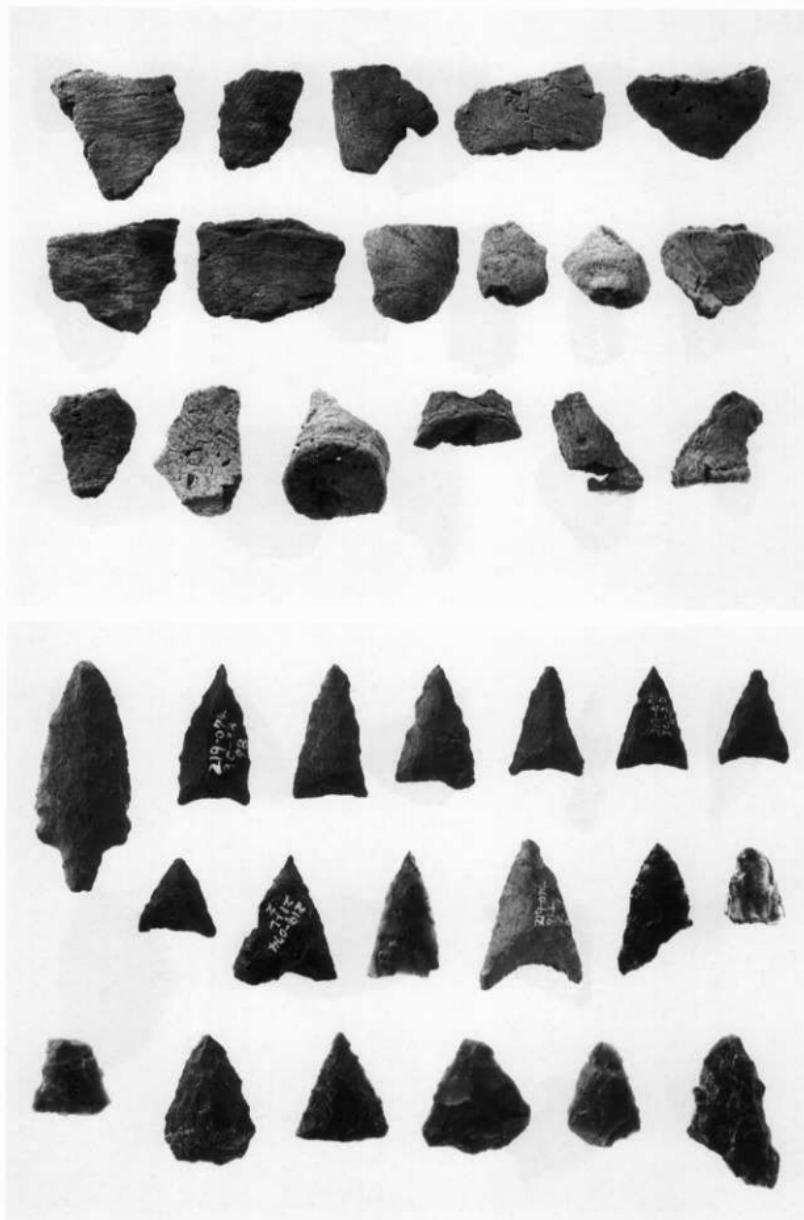
遺構出土縄文土器



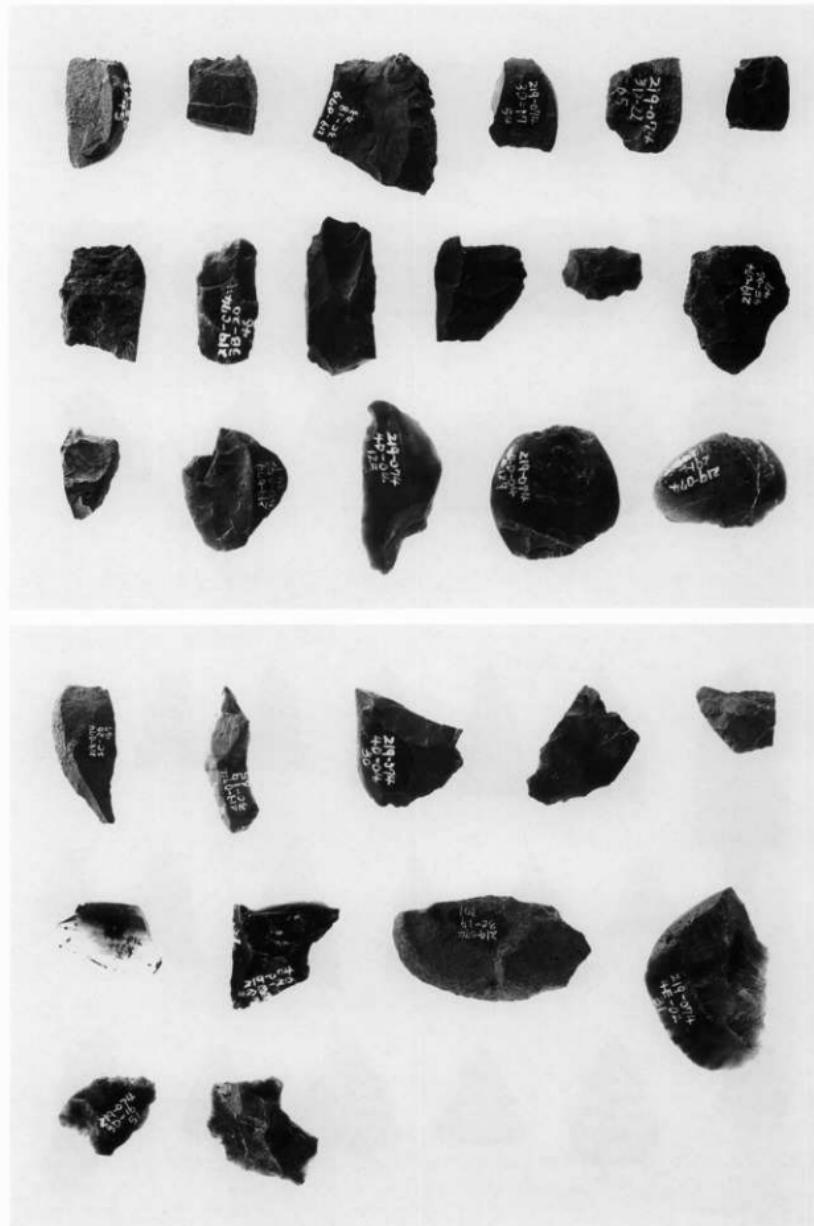
第1群土器・第2群土器



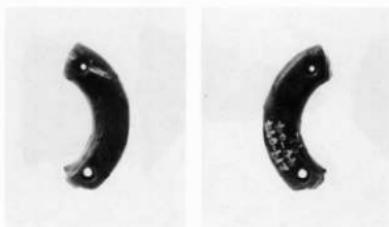
第3群土器（1）



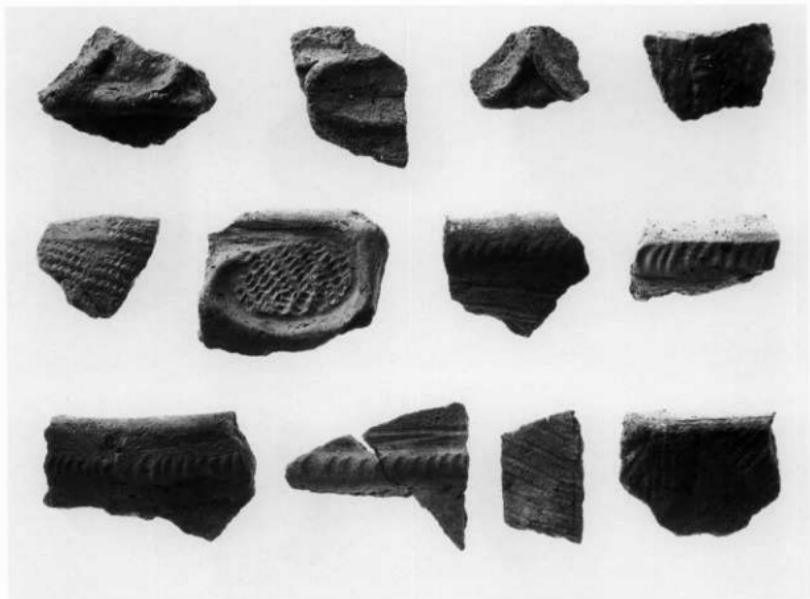
第3群土器（2：上）・石鐵（下）



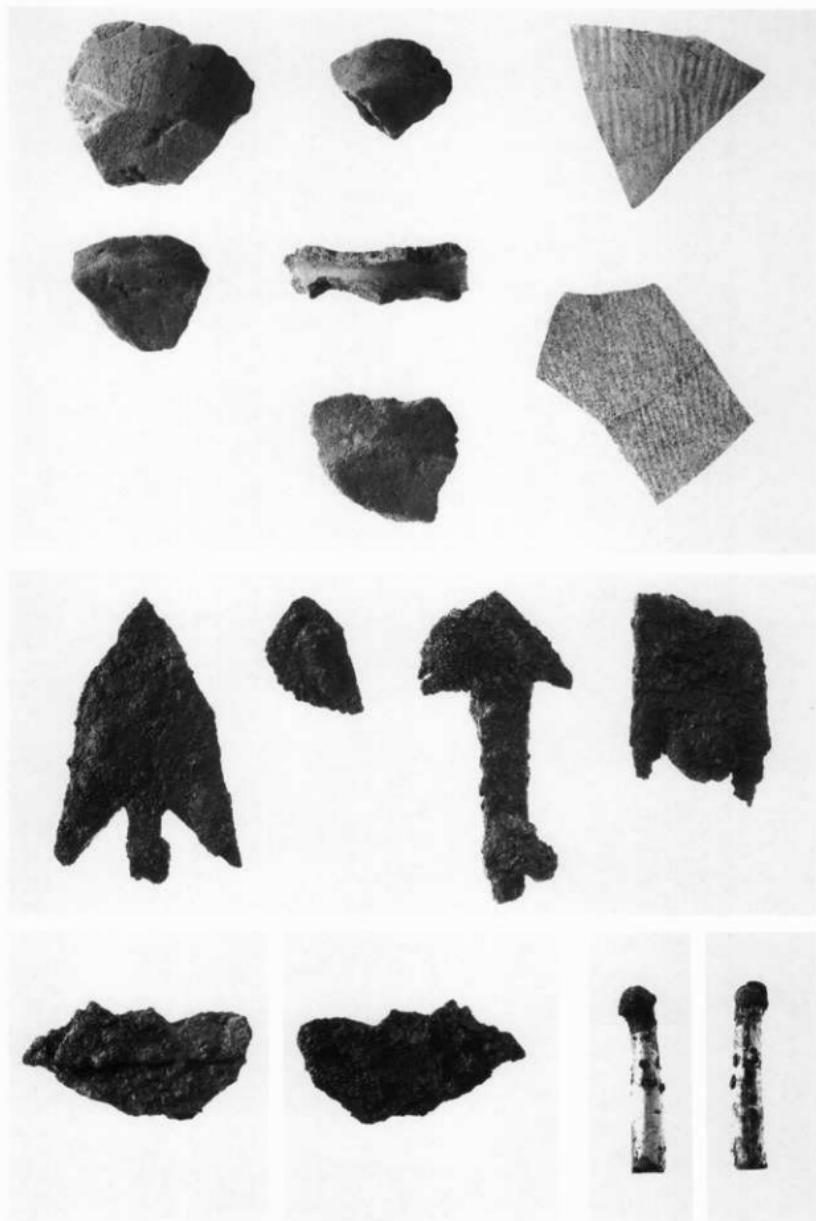
楔形石器（上）・楔形石器剝片・剝片（下）



石核（上）・石製品（中）・礫石器（下）



第4群土器・第5群土器（上）・第6群土器（下）



福增2号墳出土遺物

## 報告書抄録

| ふりがな          | いちはらしふくますいせき                               |             |                |                   |   |  |                     |                            |
|---------------|--|-------------|----------------|-------------------|---|--|---------------------|----------------------------|
| 書名            | 市原市福増遺跡                                    |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| 副書名           | 一般県道犬成海土有木線埋蔵文化財調査報告書                      |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| 卷次            |  |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| シリーズ名         | 財団法人千葉県文化財センター調査報告                         |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| シリーズ番号        | 第366集                                      |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| 編著者名          | 渡邊 高弘、吉野 健一                                |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| 編集機関          | 財団法人 千葉県文化財センター                            |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| 所在地           | 〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL. 043-422-8811 |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| 発行            | 西暦 1999年3月31日                              |             |                |                   |   |  |                     |                            |
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地                                | コード<br>市町村  | 北緯<br>遺跡番号     | 東経                | 調査期間  | 調査面積<br>m <sup>2</sup>                         | 調査原因                |                            |
| 福増            | 千葉県<br>市原市福増<br>字中ノ台ほか                     | 219         | 074            | 35°<br>28'<br>34" | 140°<br>08'<br>35"  | 19960409～<br>19960628<br>19970501～<br>19970630 | 3,561m <sup>2</sup> | 一般県道犬成海<br>土有木線拡幅工<br>事による |
| 所収遺跡名         | 種別   | 主な時代        | 主な遺構           | 主な遺物              | 特記事項  |  |                     |                            |
| 福増            |  | 旧石器時代       | 石器集中地点 4地点     | ナイフ形石器・削器・剝片      | 縄文早期の櫛群<br>が炉穴を伴って<br>検出された。<br><br>福増2号墳の第<br>2主体部から金<br>銅製飾り金具が<br>検出された。 |  |                     |                            |
|               |  | 縄文時代        | 炉穴<br>土坑<br>縄群 | 7基<br>3基          |   | 縄文時代早期・中期・後期・晩期<br>土器<br>石鏃・楔形石器               |                     |                            |
|               |  | 古墳時代        | 円墳             | 1基                |   | 土師器・須恵器・鉄製品<br>金銅製品                            |                     |                            |
|               |  | 奈良・平安<br>時代 | 溝              | 1条                |   | 土師器  |                     |                            |
|               |  | 中・近世        | 溝<br>道路跡       | 5条<br>1条          |   |  |                     |                            |

千葉県文化財センター調査報告第366集  
**市原市福増遺跡**  
—一般県道犬成海土有木線埋蔵文化財調査報告書—

---

平成11年3月31日発行

|   |   |      |               |
|---|---|------|---------------|
| 編 | 集 | 財団法人 | 千葉県文化財センター    |
| 発 | 行 | 千葉   | 四街道市鹿渡809番地2  |
|   |   | 財団法人 | 県土木部          |
|   |   |      | 千葉市中央区市場町1-1  |
| 印 | 刷 | 株式会社 | 千葉県文化財センター    |
|   |   |      | 四街道市鹿渡809番地2  |
|   |   |      | 弘文社           |
|   |   |      | 市川市市川南2丁目7番2号 |

---